

2022（令和4）年度
事業計画

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

目次

01 法人	1
02 垂穂寮	13
03 やまばと希望寮	17
04 わかば(もくれん含む)	21
05 みぎわ	27
06 ケアセンターさざんか	30
07 ケアセンター野ばら	33
08 ケアセンターかたくりの花	36
09 ワークセンターカサブランカ	39
10 ワークセンターコスモス	42
11 ワークセンターなのはな	45
12 ワークセンターあさがお	48
13 ワークセンター希望の家(ふれあい含む)	50
14 ワークセンターやまばと	56
15 ワークセンターさくら	59
16 ケアセンターマーガレット	62
17 レタスクラブ	65
18 生活支援センターやまばと	68
19 聖ルカホーム(ショートステイ含む)	71
20 グレイス(ショートステイ含む)	75
21 相寿園	78
22 ぎんもくせい	81
23 デイサービスセンター真菜	84
24 デイサービスセンターすずらん	87
25 ライフサポートさふらん	90
26 居宅介護支援事業所シャローム	93
27 牧之原市地域包括支援センターオリーブ	96
28 コミュニティセンターぶどうの木	99

2022（令和4）年度 事業計画

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

＜序＞ 現在も、新型コロナウイルス感染症終息の兆しは、まだ見えていない。さらに、昨年度末（2022年2月24日）には、ロシアのウクライナ侵攻が始まり、国際法の秩序が武力によって破壊される衝撃的な出来事を目にした。想定外の出来事が次々に起き、悪しき力のほうが支配的になることさえあることを知らされるが、わたしたちの働きは、平和や、共生社会形成につながるものであることを自覚し、人権尊重や、思いやり、助け合いの姿勢を忘れず、福祉事業所としての役割を着実に果たしていきたい。2022年5月からは、新装なった「ケアセンター花もも」と「デイサービスセンター真菜」が、聖ルカホームの隣地で新しい活動を始める。施設サービスの充実に努めるとともに、地域福祉充実のためにも貢献していきたい。

A 目標と理念

1. 目標

牧ノ原やまばと学園は、「私たちが関わる全ての人々が幸せになる共生社会の形成」を目指している。大きな目標だが、小さな身の周りから、ご利用者も職員も大切にされ幸せを実感できるようにしたい。自由でのびのびした人間関係を確保すると同時に、組織として統一すべきことは統一し、情報共有と連携を図りながら、活動を進めていきたい。

2. 基本理念

「ともに生きる」～ご利用者とともに、職員とともに、地域とともに～

3. 行動指針

- (1) ご利用者をたいせつにします。
- (2) 職員をたいせつにします。
- (3) 人をたいせつにします。
- (4) 地域をたいせつにします。
- (5) 福祉活動の基盤となっている聖書の価値観をたいせつにします。

4. わたしたちの願い

- (1) ひとりひとりを、かけがえのない大切な人として重んじていきたい。
- (2) ひとりひとりとしっかり向き合い、その喜びや成長のために力を尽くしていきたい。
- (3) 働く仲間を大切にし、力を合わせて前進していきたい。
- (4) 地域の声に耳を傾け、福祉ニーズに応えていきたい。
- (5) 地域とのつながりの中で、仕事を進めていきたい。
- (6) 私たちの働きを通して、障がい者や高齢者の生命の輝きを伝えていきたい。

B 2022年度牧ノ原やまばと学園の事業概要

本年度に実施する事業や組織体制、役員・職員状況等は、下記の添付資料の通りである。

1. 本年度実施事業：事業計画B-1
2. 組織体制：事業計画B-2
3. 役員・評議員名簿、並びに、職員状況：事業計画B-3
4. 理事会等、会議や研修等の年間予定表：事業計画B-4
5. 2022年度実施予定の主要な研修内容：事業計画B-5

C 2022年度 法人の主な計画

1 法人と事業所の連携強化、並びに、作業の簡素化

近年は、管理的な仕事が増え、本部関係者も施設長や一般職員たちも常に多忙な状況である。大切なことは遵守し強化しなければならないが、その他のことはできるだけ簡素化を図り、ゆとりをもってご利用者と向き合う時間や、落ち着いて仕事ができる時間を生み出したい。その一つの試みとして、新年度からは、事業計画書と事業報告書を、新しい書式に改定・統一した。新計画書では、①当該事業所の目標だけでなく、②「理念に基づくサービス提供」や、③「法人の主要計画」に連動した計画をも記載することになったので、各事業所は、法人の理念や主要計画に必ず目を通し、計画に取り入れざるを得なくなった。また、計画書と報告書の記載事項は、ほぼ同じ項目になったので、計画→実行→検証→評価の作業が、そのまま報告書作成につながり、新たに資料を作る必要はなくなった。この他、ICT化も含め、本部と事業所との連携強化、そして、業務の簡素化を図っていく。

2 理念の浸透と実践

- (1) 前述したように、各事業所では、必ず「理念に基づくサービス提供」計画を、事業計画書の中に記すことになったので、理念への意識、実践が促される。
- (2) 記念誌「それでも一緒に歩いていく」等、法人の理念や、「ともに生きる」について示唆してくれる書物を施設長たちに紹介し、管理者会で読後感を発表させる。
- (3) 日本基督教社会事業同盟の研修や、聖隷グループの信徒交流会に職員参加の機会をつくり、出会いや交わりを通して、キリスト教精神に触れる機会にする。
- (4) 後半期に、キリスト教精神に基づいたメッセージ集（小冊子）を発行予定。各事業所で活用してもらう計画である。

3 職員の育成

- (1) 法人が求める職員像を明確化し、オリエンテーションや施設管理者会議で伝える。「当事者の意思を確認し、想いや希望、可能性に添った根拠あるサービスを、チームで提供する」（垂徳寮改革委員会で提示された職員像）
- (2) キャリアパス制度を充実・周知させ、職員が自分の将来像を描けるようにする。
- (3) 施設長（副施設長）－主任が、職員育成のため情報共有し検討し合い、各自の役割を十分発揮できる体制を構築する。特に、現場で職員育成の任務を負っている主任たちのレベルアップを図り、役割の自覚と実践を促す。
- (4) 第3回「主任等研修」：6月～翌年1月迄、2グループに分けて隔月に開催予定。
- (5) 福祉職歴が3年以上の職員は、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士のいずれか一つ以上の資格を持つよう、奨励し支援する。また、資格の有無に関わらず、どの職員も、「わたしでなければできない支援力」を身につけるよう勧める。
- (6) 管理者研修：夏に、「中長期計画策定」の演習／年度末の3月は、「管理者の役割について」。／法改正等に対し、必要に応じて、労務や法律の学び。／経理の知識がない管理者のため経理の学び。／働き手減少の中、ノーリフトケアやロボットを活用している施設を見学し、参考にする（主任たちを同伴）。
- (7) 新人職員や一般職員：「身体拘束」といった課題ごとの学び（Zoom短時間の受講）
- (8) 事務員対象：県社協主催のリモート研修参加（予算や決算実務、税金などの学び）
正確な会計業務習得のため、毎月杉山会計事務所による監査・指導。

4 地域に対する公益的取組や、地域に貢献する活動計画

- (1) 低所得者への利用者負担軽減制度事業を続ける。

- (2)ひとり暮らし高齢者のための「ワイワイ話そう会」を継続する。
- (3)地域のサロン参加者（高齢者）のための送迎協力を続ける
- (4)心を病む人たちの居場所「レタスクラブ」の運営を続ける。
- (5)地域生活支援拠点事業所として登録し、地域で暮らす障害者の緊急事態に対応。
- (6)「包括支援センターオーリーブ」（高齢者）と「生活支援センターやまばと」（障害者）の活動は、両事業所とも、スタッフ確保困難、多忙で収支も厳しい等々、課題が多いが、地域福祉の要と受けとめ、協力していく。
- (7)「養護老人ホーム」の運営も決して楽ではないが、地域におけるセイフティネットの役割を果たしていることから、当年度も二つの委託事業を継続する。
- (8)清掃活動や食糧支援に取り組む法人内の事業所を紹介し、他の事業所に良い刺激を与え、新たな活動を始めたり、協力する機会となるようにしたい。

D 利用者の喜びのために工夫したいこと

- 1 施設管理者会議等とおして、次のような時を持ち、啓発の機会にする
 - (1)施設の計画や実践を報告し合い、良い事例から学びあう。
 - (2)施設における利用者の写真などを見て、印象を率直に語り合う(少人数での話し合い)。
 - 楽しそうか、生き生きしているか、清潔な身なりか、改善すべきことはないか等
 - (3)絵画や音楽、ダンス等の指導は、外部講師の協力も有効なことを周知させる。
- 2 施設における、身体拘束や虐待防止のための定期的な学びや、セルフチェックを促す。

E 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 懇親会の開催
 - 全体で集まることは難しいので、管理者だけとか新人だけとか、同じ誕生月とかで、少人数の集いを開催し、笑い転げるような内容にする。
- 2 助け合う職場、働きやすい職場、学び成長できる職場づくり
 - 各施設における良い実践を、管理者会議等で紹介し、他の事業所がヒントを得る機会にする。／全国的に紹介された良い事例についても情報共有し、参考にする。
- 3 どの事業所でも、こころが養われる短い時を持つ
 - 10月からは、毎日読める、聖書に基づいた短いメッセージ集を、全施設に配付する予定なので、朝の集いなどで使ってもらおうようにする。

F 苦情について

苦情解決委員会の中味を充実させ、そこで話し合われたことは、必ず事業所へ伝える。

G 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- 1 事故
 - 各施設における事故防止の取組み（どんな事故が最も多いか、原因は何か、どんな対策をたてたか等）を、管理者会などで発表してもらい、お互いに参考にする。
- 2 ヒヤリハット
 - 事故防止につながるよう、ヒヤリハットを最適な形で活用していく。
- 3 虐待
 - (1)「垂穂寮改革委員会」の実践内容の活用
 - 昨年、垂穂寮に不適切なケアが発生したため、法人が主導する「垂穂寮改革委員会」（委員長は、佐々木炎氏）を発足。1年間かけて、虐待の芽を一掃するため、様々の点から検討し、改善・改革を図ることになった。支援方法だけでなく、日課や業務体制などに関しても検討予定で、その内容は、他の事業所にとっても参考になるだ

- ろう。改革委員会の実践や成果を、他の事業所でも学び、活用してもらう。
- (2) 全体虐待防止委員会（年1回開催）
「全体虐待防止委員会」を通して、各事業所の取組を学び、虐待防止のため活用する。

4 身体拘束

高齢者施設や障害者施設、入所施設や通所施設など、各事業所によって「身体拘束」のとらえ方に若干の差があるが、どの事業所も、どうすれば身体拘束ゼロが可能か工夫する必要がある。研修への参加、事例の学び、見学などを通して、学びを深める。

H リスク対応

1 防災訓練

(1) 全体防災訓練

本部と各事業所の防災体制を充実させるため、全体訓練を毎年実施する。
災害発生時における対策本部の場所が明確でなかったが、2022年度からは、「法人本部所在地」に対策本部を設置することになった。今後は、隣接する「やまぼと希望寮」と密接に連携して訓練など行うことになる。

(2) ハザードマップの確認と防災対策

全ての事業所に、危険個所について確認し、その対策をするよう促す。
対策本部の所在地の土地については、一部が特別警戒区域、他の一部は土砂災害警戒区域に当たっているため、そのリスクについても検討し、対策をたてる。

(3) 安否コールシステムの活用

「安否確認訓練」を、毎月1回以上実施し、いざという時、活用できるようにする。

(4) BCPの中身について検証

かなり前に作成し改定されていないので、現実的でより良い内容に改善する。

2 感染対策

(1) 食中毒、インフルエンザなどの感染防止のため、予防対策を周知・徹底させる。

(2) コロナ対応：施設関係者はほぼ全員、ワクチン注射を3回接種できた。

オミクロン株も登場したので、従来の三密回避、手洗い、マスク着用等の対策に加えて、状況に応じて、フェイスガードやゴーグルの着用もする必要がある。

3 サイバー攻撃やシステムダウン等に対する対策

(1) クラウドやサーバーの活用、バックアップ等により、データ消失への対策をする。

(2) 安易に添付ファイルを開くと、コンピューターウイルス「Emotet（エモテット）」に感染し、重要情報が抜き取られるので、リスク回避の方法を職員全員に伝える。

I 施設整備や環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

- 1 「真菜」と「花もも」：建物が完成し、聖ルカの隣地で5月1日から活動を始める。
- 2 聖ルカホーム：入口から玄関に向かう道のりに、花や樹木を植え、きれいにする予定。
- 3 希望寮：
 - (1) 改装した厨房で、4月から調理開始。／エコ給湯からガス給湯器の使用となる。
 - (2) 防災のため、（特別警戒区域である）崖地の斜面に繁茂する樹木を伐採する。
- 4 かたくりの花：送迎用の自動車キャラバンを購入予定。
- 5 垂穂寮：焼却炉の廃棄と倉庫の設置、清掃業務の外部委託
- 6 なのはな：男子トイレの増設

J 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の予算

人件費については、本来必要とされる人数を見込んで計上。一方、収入見込みは 100%より低く見積もっているため、赤字予算となった施設もある。／かつて収益のあった訪問介護事業はかなりの減収見込み。／養護老人ホームぎんもくせいも、利用者減などにより、これまでの資金を取り崩してもなお赤字となるため本部繰入を計上した予算になった。処遇改善加算に伴う、職務手当のアップや、施設種別に応じた人件費加算も計上した。

2 借入金償還計画

聖ルカホーム（ショート、さふらん含む）、並びに、ワークセンターなのはなに、借入金があるが、詳しくは、該当する事業所の事業計画・借入金の項目を参照のこと。返済は順調に行われている。

K 主務官庁との関連(実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など)

当年度も、法令やルールにのっとって対応する予定。

L 寄付金に関する見込みや計画

当法人は創立以来、多くの支援者の方々に支えられてきたが、52年の歩みの中で、支援して下さった方たちも高齢化し、寄付して下さる方の数は少なくなっている。

一方、社会福祉法人としての私たちの収支状況は、かつてと比べるとかなり改善され、大きな建設などが無い限り、自立した経営をしていくことができる状況である。

寄付に関しては無理な求めはせず、当法人のよき理解者である支援者の皆様に感謝しつつ、絆を深めていきたい。

M 実習生やボランティアの受け入れ

1 恵泉女学園中。高校生の夏季実習受入

一般に、実習生やボランティア生の受入は、専ら各事業所で担当しているが、恵泉女学園の皆さんは本部で対応している。2泊3日間、幾つかの施設で実習と交流の体験予定。

2 当年度より、静岡福祉大学と協定を結び、実習生を受入れ始める。

N 機関紙、並びに、ホームページ

1 機関紙：隔月発行に変更してから1年経過。2022年4月からは、誌代を無料にした。

2 ホームページ：若者や退職者にとって、分かり易い、興味深い内容に改善する

O その他

1 職員確保対策

(1) 「若い人材」確保のための取組み

「職員確保のためには、何よりも、施設の中身をよくすることが重要」「人手が少なくなる中、子育て世代、シニア、外国人、ロボットを有効に活用する」というのが、当法人の方針であるが、今年度からは、「若い働き手の確保」に的を絞って、法人と事業所とで集中的に取り組んでいく。

(2) 奨学金制度

将来当法人で働くことを前提にした奨学金制度については、すでに、牧之原市や聖隷学園に登録しているが、当年度からは静岡福祉大学の奨学金制度にも加盟する。

(3) 二人目の EPA 生受入

本年 12 月には、二人目の EPA 生（インドネシア人女性）が聖ルカで働き始める。

2 一般事業主行動計画

仕事と家庭の両立を図る雇用環境整備のため、当年度も、有給休暇の消化／育児休暇取得の奨励／ノー残業デイを掲げた。今回は、特に、労働法改正に伴い、育休の変更内容を職員たちに周知させ、男性の育休取得を容易にしていく必要がある。

3 働きやすい職場づくり：福祉・労務関連法令の遵守

- (1) 近年改正・施行された福祉・労務関連法令（同一労働・同一賃金など）について、専門家から学び、確実に遵守する。
- (2) シニアワーカーの実態を把握し、働き手と事業所双方に有益な環境を整備する。

4 「ワークセンターコスモス（就労継続B型支援事業所）」の今後のこと

「ワークセンターコスモス」は、島田市所有の土地建物を借りて事業を行っている。築 38 年の建物の老朽化に伴い、建物を解体し新築する計画をたてたが、市からは、「耐用年数がまだ 30 年位残っているので、建物解体は不可」との回答。これにより、①現建物を使い続ける、②新しい土地を確保し新築、③活動を終結させる、の選択肢が残され、検討した結果、「③活動を終結させ、ご利用者を法人内の施設で受入れる」がベストと判断した。しかしご家族からは、現地での存続を求める嘆願書が出された。この結果、改めて耐用年数に関して市へ問い合わせ、「今後、解体・新築の可能性が見込めるならば、現建物を使い続け、その時を待つ（最長 3 年）」が、「無理の場合は、活動を終え、新しい場へご利用者が安心して移れるよう努める」ことにした。社会福祉課と資産活用課の協議が再開される。

5 オリーブ園の今後のことについて、関係者間で話し合い

デイサービスセンター真菜が移転予定なので、改めて、管理人の加藤夫妻と協議していく。

6 会議や委員会開催予定

開催日・回数	名称	参加者	内容
毎月 2 回	経営会議	理事長、6 名の部長	施設運営に関する審議・決定
毎月 1 回	管理者会議	理事長、事務局長、施設長、事務長	施設間の情報共有、意見交換
毎月 1 回	研修委員会	理事長、管理者、研修委員	新年度研修企画
毎月 1 回	編集委員会	理事長、管理者、編集委員	機関紙の企画
年 2 回	全体防災委員会	理事長、管理者、防災委員	防災対策、訓練計画、情報共有
年 2 回	苦情解決委員会	理事長、管理者、苦情解決委員	第三者委員も出席／苦情の学び
年 2 回	事故防止委員会	理事長、管理者、事故防止委員	事故の検証と予防対策
年 2 回	全体虐待防止委員会	理事長、管理者	2 月、7 月、施設管理者会にて。
年 2 回	事務合同検討会	理事長、事務局長、事務長、事務主任	2 部門合同、年間予定や、業務の確認
年 1～2 回	全体事務連絡会	事務局長、2 部門の事務長、事務員	事務に関する情報共有、連絡
隔月	栄養士会	部長、栄養士	各施設の給食状況、目標設定
年に 1～2 回	看護師会	理事長、部長、看護師	感染防止、健康管理など情報共有

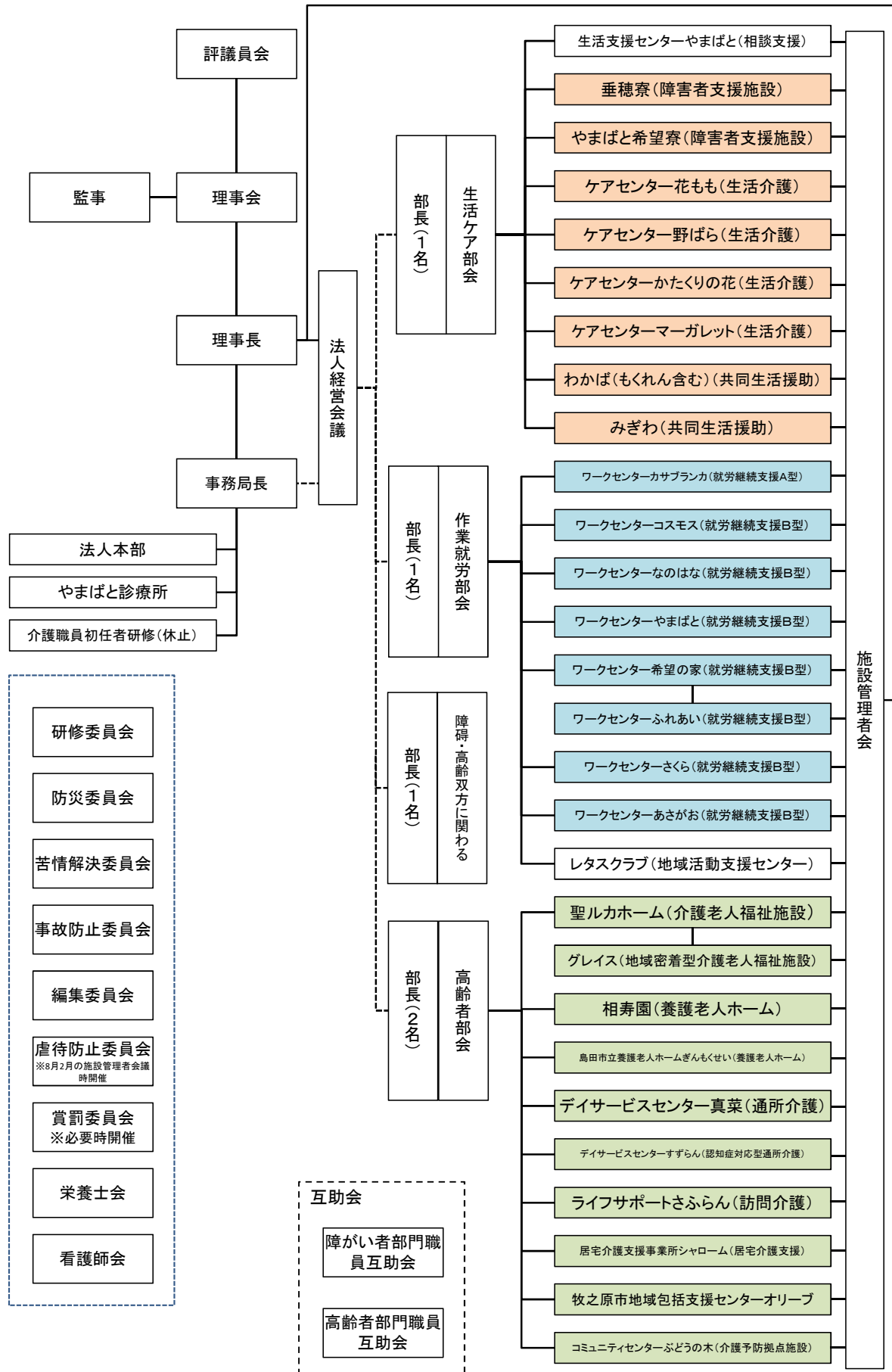
(以 上)

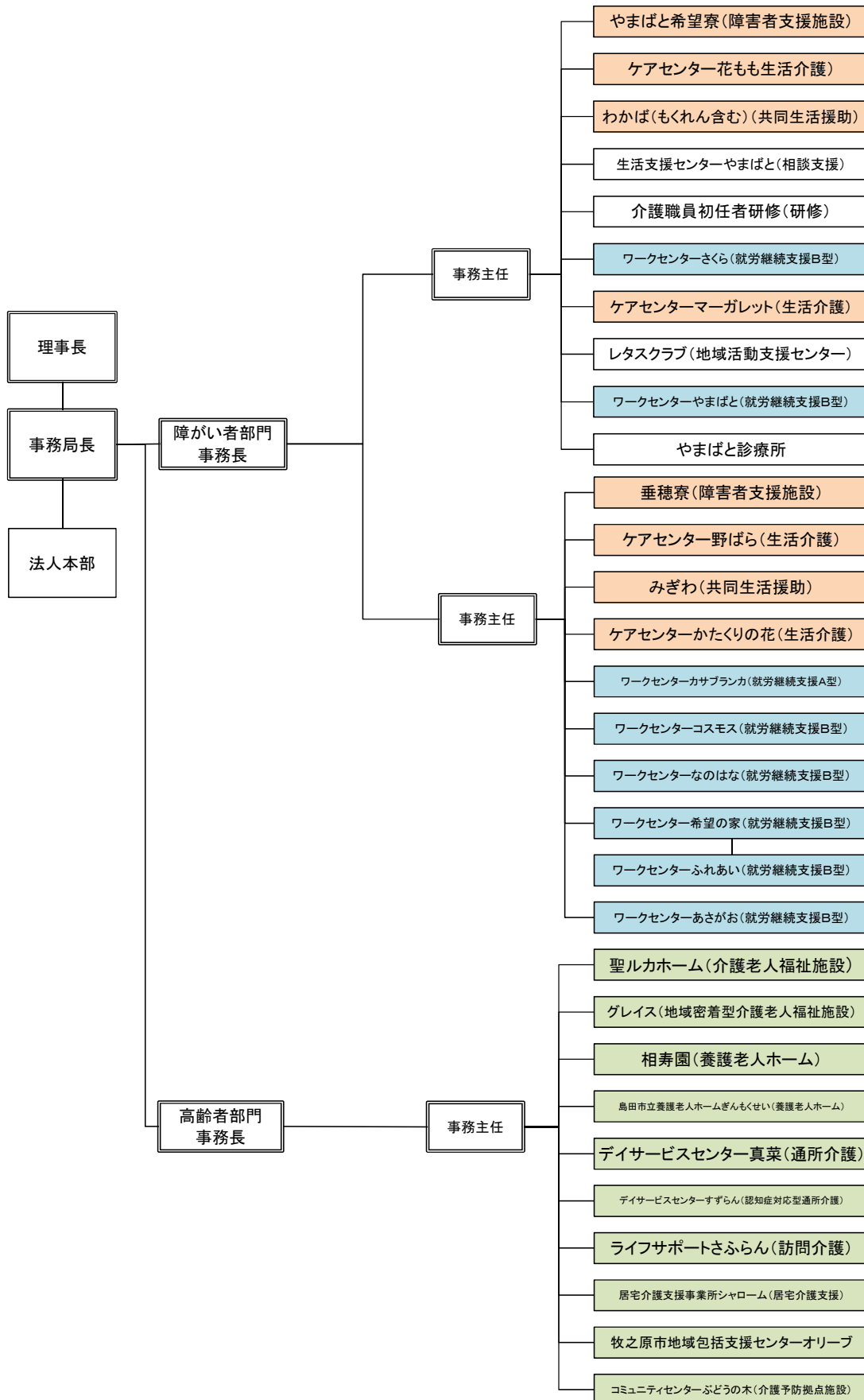
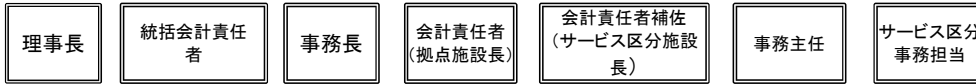
2022年度 牧ノ原やまばと学園 実施事業

※職員数のみ2022年3月1日現在 (カブラガ利用利用者含まない)

事業計画Ⅱ-1

事業	事業所名	種別	定員 〇SS	管理者等	正職員	準職員	嘱託	パート	合計		
老人福祉	1 法人本部	-	-	板倉 仁	2	2		1	5		
	第一種	2 聖ルカホーム (※2種事業シヨート含む)	介護老人福祉施設他	1981・5・1	大石 幸	46	4		30	80	
		3 グレイス (※2種事業シヨート含む)	地域密着型介護老人福祉施設他	2010・8・1	山脇 世津子	13	4		14	31	
	第二種	4 相寿園	養護老人ホーム他	1961・9・1	松田 正幸	4	1	1	18	24	
		5 島田市立養護老人ホームぎんもくせい	養護老人ホーム他	1952・3・1	片山 喜之	8			15	23	
		6 デイサービスセンター真菜	通所介護他	1999・4・1	吉田 陽子	3	3		18	24	
	第一種	7 デイサービスセンターすずらん	認知症対応型通所介護	2010・8・1	山脇 世津子	2			6	8	
		8 ライフサポートさふらん	訪問介護他	2000・11・1	大石 幸	2	1		11	14	
		第二種	9 垂穂寮 (※2種事業シヨート含む)	障害者支援施設他	1987・4・1	大畑 彰弘	28	1		13	42
			10 やまばと希望寮 (※2種事業シヨート含む)	障害者支援施設他	1997・4・1	高杉 和成	17	4		8	29
		社会福祉事業	11 わかば	共同生活援助 (主住居)	2010・4・1	高杉 和成		1		10	11
	12 もくれん		共同生活援助 (従住居)	2010・4・1	高杉 和成	2			13	15	
	13 みざわ		共同生活援助	2010・4・1	大畑 彰弘	3	1		7	11	
	14 ケアセンターさざんか		生活介護	1997・4・1	桑原 裕子	5			8	13	
	15 ケアセンター野ばら		生活介護	1999・4・1	大畑 彰弘	4	3		7	14	
	16 ケアセンターかたくりの花		生活介護	2006・4・1	渡邊 千恵子	4	1		10	15	
	17 ケアセンターマーガレット		生活介護	2005・4・1	河原崎 明人	2			10	12	
障害者福祉	18 ワークセンターカサブランカ	就労継続支援A型	2007・4・1	澤渡 繁	2	2	1		5		
	19 ワークセンターコスモス	就労継続支援B型	1980・4・1	石神 知之	3			7	10		
	20 ワークセンターなのはな	就労継続支援B型	2000・4・1	西村 美穂子	4	0		6	10		
	21 ワークセンター希望の家	就労継続支援B型 主	1981・10・1	高松 祐輔	3		1	6	10		
	22 ワークセンターふれあい	就労継続支援B型 従	1994・4・1	高松 祐輔	2			4	6		
	23 ワークセンターやまばと	就労継続支援B型	1977・10・1	田澤 岳大	3	1	1	3	8		
	24 ワークセンターさくら	就労継続支援B型	1981・10・1	河本 敦子	3		1	3	7		
	25 レタスクラブ	地域活動支援センター	2010・10・1	河本 敦子	1			1	2		
	26 ワークセンターあさがお	就労継続支援B型	1992・4・1	様地 裕子	2	1		10	13		
	公益事業	27 生活支援センターやまばと (牧之原/島田/吉田)	相談支援	2003・10・1	田村 貴子	7	1			8	
28 居宅介護支援事業所シャローム		居宅介護支援	1999・10・1	山脇 世津子	1				1		
29 牧之原市地域包括支援センターオリーブ		地域包括支援センター	2006・4・1	鈴木 ひろみ	5		2	1	8		
30 コミュニティセンターぶどうの木		介護予防拠点施設	2000・2・1	神谷 美代枝	1		1	2	4		
31 やまばと診療所		診療所	1973・4・1	赤堀 由砂			2		2		
				182				31	10	242	465





1. 役員・評議員名簿、並びに、職員状況

区分	氏名	役職その他
理事長	長澤 道子	社会福祉法人牧ノ原やまばと学園理事長
理事	姉崎 弘	常葉大学教育学部教授
理事	大石 幸	聖ルカホーム・ライフサポートさふらん施設長
理事	金子 初子	元施設長
理事	神谷 美代枝	コミュニティセンターぶどうの木施設長
理事	佐々木 炎	NPO 法人ホッとスペース中原理事長、牧師
理事	松田 正之	相寿園 施設長
監事	鈴木 武	静岡いのちの電話理事、元銀行支店長
監事	松浦 隆雄	元 静岡県庁職員
評議員	柴田 敏	静岡英和学院大学学長
評議員	杉本 正	牧之原市民生委員児童委員協議会会長
評議員	外岡 潤	当法人顧問弁護士 法律事務所おかげさま代表弁護士
評議員	田島 逸雄	吉田社会福祉協議会会長
評議員	長谷川 清太	聖隷福祉事業団軽費老人ホームもくせいの里園長
評議員	早川 ひろみ	創設期のやまばと学園職員
評議員	久田 則夫	日本女子大学人間社会学部社会福祉学科教授
評議員	山城 厚生	島田社会福祉協議会会長
評議員	渡辺 紀久子	NPO 法人「日本のこどものための委員会」理事長

2. 職員状況

【正規職員】	181人	(男 72人 女 109人)	平均年齢	48.1歳
【準職員】	32人	(男 11人 女 21人)	平均年齢	48.5歳
【嘱託職員】	10人	(男 4人 女 6人)	平均年齢	68.7歳
【パート職員】	244人	(男 37人 女 207人)	平均年齢	58.3歳

2022（令和4）年度年間予定表（理事会その他の会議や、研修等）

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

	理事会・評議員会	法人関連の会議や研修等	その他
4月		新入オリエンテーション1（4/1） 新年度研修（4/2） 苦情解決委員会（4/27）	杉山会計消費税監査（4/11） 杉山会計決算監査（4/28）
5月	2022年5月21日 第1回理事会	事故防止委員会（5/25）	業務監査 会計監査 決算ヒアリング、
6月	2022年6月11日 定時評議員会 2022年6月11日 第2回理事会	外岡弁護士法律セミナー 主任等研修①（2グループ・隔月）	
7月		主任等研修①（2グループ・隔月）	恵泉女学園訪問
8月		主任等研修①（2グループ・隔月） 管理者研修「中長期計画策定」 全体虐待防止委員会（8/17）	納涼祭（各施設）
9月	2022年9月17日 第3回理事会	主任等研修②（2グループ・隔月） 新入オリエンテーション2（9/30）	1次補正ヒアリング
10月		主任等研修②（2グループ・隔月） 全体防災訓練 苦情解決委員会	
11月		主任等研修②（2グループ・隔月） 事故報告委員会	管理者面談 定期監事監査 2次補正ヒヤリング
12月	2022年12月17日 第4回理事会	主任等研修③（2グループ・隔月）	クリスマス会（各施設） 東京で、すみっこの石コンサート
1月		主任等研修③（2グループ・隔月）	
2月		全体虐待防止委員会（2/15）	3次補正ヒヤリング
3月	2023年3月18日 理事会	管理者研修「管理者の役割について」	
その他		【毎月】法人経営会議、施設管理者会議 高齢者施設と障害者施設の部門会、研修委員会、各施設避難訓練 【隔月】2022年度4月以降、偶数月、機関誌「やまばと」発行、編集委員会、	各施設実習生・見学者等受け入れ 各施設ボランティア受け入れ 県社協・経営協主催、関係機関団体主催の研修へ参加

2022年度・主要な定期的研修計画

事業計画 B-5

対象	研修名	講師	実施日	目的や内容	備考
全職員	新年度研修 「福祉に生きる君たちへ」	市川一宏 氏 (ルーテル学院大学学長)	4月2日	人に寄り添う、 地域に寄り添う	Zoom 研修
管理者	管理者研修	未定	夏	中長期計画策定	
管理者	管理者研修	未定	3月	管理者の役割について	
新人職員	オリエンテーション	長沢理事長、部長(大石、 片山、大畑、河本)	年2回 (4月、9月)	法人の歴史や理念、求められ る職員像の理解、利用者理解	
主任等	主任等研修	佐々木炎 氏 (ホッとスペース中原)	6月～1月		2 グループに分けて 隔月(1GP3回)
1等級の職員 (入職3年位)	1等級職員研修 (基礎研修/共通・分野別)	各部門のベテラン職員	年に3回 (5月～10月)	障がいや高齢の特性、てんかん講 座、介助技法、事務内容	県社協の研修を活用 することもある。
2等級の職員 (入職5年位)	2等級職員研修 (分野別)	施設長、ベテラン職員		障害部門、高齢者部門、事務 部門で、専門性を深める	県社協の研修を活用 することもある。
3等級の職員 (主任)	3等級職員研修 (リーダー育成研修1)	施設長や部長		主任の役割、評価方法、 諸規定、会計	時には、実践計画作 成もある
4等級の職員(ベテ ラン主任、副施設長)	4等級職員研修 (リーダー育成研修2)	顧問の、弁護士、社労士、 公認会計士等	1月～2月	法律、労務の研修(1～2回) 日キ社事同(5年に1回)	会計や財務の学びは、 県社協研修を活用。
5等級の職員	管理者研修	顧問の、弁護士、社労士、 公認会計士等	1月～2月	法律、労務の研修(1～2回)、 日キ社事同(3年に1回)	会計や財務の学びは、 県社協研修を活用。
6等級の職員	経営者研修	顧問の、弁護士、社労士、 公認会計士等	1月～2月	日キ社事同研修参加は毎年。	榛原教会礼拝へ、 年に2回出席
2022年度は、管理者の研修を2回。主任等の研修を6月から2グループに分けて隔月で行う。					

2022（令和4）年度事業計画

障害者支援施設
垂穂寮

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

1 事業所の目標と事業計画

(1) 職員が前向きな姿勢で働くことができる職場を作る

職員間のコミュニケーションが円滑になり、問題解決に向けた話し合いが進み、共通理解や納得の上で業務が進められるようにする。その結果、職員自らが、自信とプライドを持って、前向きに働くことができるようになる。

(2) 3事業所が連携し、いつでも協力体制がとれる

有事の対応、職員応援、職員利用者交流等、困ったときはお互い様のつもりで協力体制を作り、実践していく。感染症の状況をみながら、防災訓練や行事での交流を図り、人事交流も積極的に進めていく。

(3) 新型コロナウイルス感染症を予防する

感染症委員会を中心として感染予防に努める。利用者の外部サービス利用、外出、面会、あるいは短期入所等については、その時の状況に柔軟に対応しながら、ご利用者の利益も守られるように努めていく。

(4) 垂穂寮改革委員会を中心とした運営を進める

委員長（法人理事）と任命を受けた事業所職員が中心となって、業務の改善（利用者視点に立つ、根拠を持った支援を心がけるなど）を進め、不適切な支援が発生するのを防止する。委員会活動期間は2022年3月から2023年3月までの予定。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画

(1) 私たちの願いを確認する機会を作る

全ての職員が、私たちの願いを口に出して読む機会を作る。具体的には会議時、朝礼時の唱和等

(2) サービス提供指針を確認する機会を作る

全ての職員が、サービス提供指針を確認できる機会を作る。具体的には職員だよりによる発信等

3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

(1) 地域社会への貢献

市内唯一の障害者支援施設として、地域の福祉ニーズに応えた運営を行う。具体的には緊急の短期入所や相談など。

(2) 職員の育成

施設長面談をリーダー職員は年6回、その他職員は年4回実施する。職員研修は「Dの3 研修計画」を参照のこと。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

	定員	昨年度末 契約者数	昨年度の 利用率	目標とする 契約者数	開所 日数	1日平均	利用率
施設入所支援	50	43	88%	42	365	42	84%
生活介護	50	43	84%	42	269	40	80%
ショートステイ	4	7	58%	10	365	2.0	50%
日中一時支援		0		5			

2 区分による利用者予想

区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	0	3	39	42

3 職員配置予定

	施設長	副施設長	サビ管	生活支援員	看護師	栄養士
実人数	1	(1)	2	31	3	1
常勤換算人数	0.8	(0.1)	1.1	26.7	2.0	1
	調理員	事務員	業務員			合計
実人数	4	1	(3)			43
常勤換算人数	3.4	1	(0.3)			35

4 残業と有給休暇取得に関する計画

(1) 残業について

職員の慢性的な不足に伴い、前年度は1か月平均で300時間程度、職員一人当たり平均して1か月に約8時間の残業が発生している。職員の不足は改善は不透明だが、業務の改善が進むことによって、少なくとも前年度より増えないことを目標とする。また、職員別の残業発生の偏りをできるだけ少なくしたい。

(2) 有給休暇取得について

例年取得率は、全職員平均して50%前後となっている。よって、55%を目標とする。例年、労基法による5日取得の義務化に関連して、年度末の駆け込み消化が見られることから、4半期ごとにバランスよく義務化分を取得する。

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	垂穂寮改革委員会	リーダー	運営の改革、改善、不適切な支援の防止等
	(運営会議)	リーダー	*改革委員会に合わせて開催する
	(虐待防止委員会)	リーダー	*改革委員会に合わせて開催する。
毎月	寮全体会	全職員	重要事項の共有、職員研修 等
年2回	身体拘束委員会	メンバー	身体拘束に関する振り返り、検証 等
年2回	リスクマネジメント委員会	メンバー	ヒヤリハット、事故に関する振り返り、検証 等
適宜	研修委員会	メンバー	事業所内職員研修の企画、運営 等
毎月	チーフ会	リーダー	支援部門の運営、利用者支援等について検討等
毎月	A・B・C各ケース会	メンバー	各ケースチームによる、利用者支援の検討 等
年4回	感染症対策委員会	メンバー	事業所の感染症対策の企画 等
毎月	ケース検討会		利用者のケース検討会
年4回	3施設連絡会	主任	3事業所の連携 等
年2回	3施設防災委員会	防火管理者	3事業所の防災整備 等
毎月	給食委員会	調理部門	給食に関する検討 等
適宜	パート職員会議	パート	パート職員の連携に関すること 等

*外部委員会については未定

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

1 生活介護・施設入所支援

散歩などの日中活動、男女交互1週間に3回の入浴支援、利用者の状況に合わせた食事、定期健康診断などの健康管理、個別外出や季節等の行事などを、担当制やチーム支援、個別支援計画などに沿って提供する。

感染症予防に引き続き留意しながらも、実践できる日課や活動、行事を実施していく。日課については外出が制限される分、散歩や中庭での日光浴を中心としながらも、音楽、スノーズレン、缶つぶし作業などご利用者個々のストレングスに合わせた活動を提供していく。これにはこれまで慣例的に行っていた業務の見直しを行いながら、本当に必要な支援を精査し、ご利用者とじっくり関わる時間を増やしていく。

2 短期入所・日中一時（日帰り短期入所）

サービス管理責任者を窓口として、家族の休息ニーズを少しでも満たすことと同時に、利用者に合わせて過ごし方を工夫した支援をできる限り提供する。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
適宜	私たちの願い唱和	全職員	打合せや会議の時に皆で唱和する
1月以降	フォトコンテスト	全職員	垂穂寮らしい写真のコンテスト

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

伝わることの実感が得られように取り組む。具体的には、情報がスムーズにタイムリーに伝わるために無線機を導入し、メールや記録システムもフル活用する。また相談部門やリーダーを中心としたコミュニケーションが積極的にとられたりすることも重要。

伝える際には情報をただ伝えるだけでなく、そこに至った根拠や想いを伝えることを意識する。前年度、一定の効果が見られたケース検討会の充実や寮全体会議の時間を使った研修会やグループワークも引き続き積極的に実施する。

3 研修計画

(1) 事業所内研修

研修委員会が企画、運営の研修。毎月1回、全職員を対象として実施する。内容は、職員のスキルアップ、事業所の課題に合わせたものを実施する。

(2) 法人内研修

法人研修委員会等が企画した研修に1企画につき最低1名は出席する。

(3) 外部研修

職員1人につき、1回を目標として参加する。Web研修を積極的に活用する。他事業所の見学を2か所行う。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

1 公益的取組み

島田市社会福祉協議会を通して、大草市営住宅団地住民の「買い物支援」について参加を検討している。内容は、公用車の提供、運転ボランティア。

2 地域との交流

(1) 第3地区民生児童委員との交流

年1回の花植え、研修会への講師派遣

(2) 市内小中学校との交流

大津小学校の入学式、卒業式への代表者の参加、市内小中学校で開催される福祉講座への講師派遣 等

(3) その他

地域の会合やお祭りが開催される場合は、その都度参加する。地域住民へ広報誌の配布。等

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

保護者会が行われる場合は参加し、事業所内で行われる行事については、家族を招待し、一緒に楽しむ。毎月、ご家族だより「みのり」の発行し、事業所からの連絡を定期的に届ける。また、利用者の様子を担当から伝える。年3回のふれあい期間を設け、家族と利用者の交流を目的に一時帰宅をお願いしていく。

ただし、感染症の状況により、家族たより以外では中止があり得る。

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

保護者から、利用者の原因不明の傷（怪我）に関する説明が不十分なことから苦情につながったケースがあった。そのため、今後起こりうるリスクも想定しながら、ご利用者に不利益が生じるようなことが起こってしまった場合には、サービス管理責任者を窓口として、迅速かつ真摯に対応する。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

1 事故

利用者の他害行為が最も多い。これについては、改めてその行動に至る理由や背景を考え、環境設定をしていくことで事故を減らしていく。それにはアセスメントの見直しや手順

書の作成など個々の現状に合ったものを作成していく。また、薬に関する事故もなかなか無くならない。同じ職員が起こしやすい傾向にもあるので、該当職員に対する指導を既定の手順書に基づき、改めて行う。

2 ヒヤリハット

他害行為以外にも、転倒やけが、誤嚥のリスクが高いご利用者についてみられるケースが多い。ソファやいすなどをご利用者に合ったものを使うことや、食事や歯磨きの姿勢など改めてその姿勢には注意し、ご利用者が落ち着いて安心できる生活を送ることができるよう環境設定をする。

3 虐待

前年度に利用者に対する不適切な支援が発生した。そのような行為に至ったと原因を追究し、必要な改善を、垂穂寮改革委員会を通して実施する。同時に、業務改善、利用者対応を軸として、運営を行っていく。

4 身体拘束

「施錠ゼロ」に関する取り組みを、昨年度に引き続き今年度も進めていく。不要と思われる箇所については、随時検討し早期に鍵の使用をなくしていく。鍵の使用以外にも、利用者の視点に立ち、拘束が必要となるほどの問題行動の理由や状況を検討し、その改善を図ることで身体拘束を減らしていく。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

本年度も前年度同様に、防火管理者が中心となって、日中や夜間における火災想定での防災訓練を毎月実施し、防災倉庫の点検、必要物品の管理を行っていく。

立地上、土砂災害警戒区域にあたるため、そのことを踏まえた防災計画を3事業所連携の上で検討し、訓練を実施する。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

焼却炉の廃棄と倉庫の設置、清掃業務の外部委託 他

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

収入については、職員の欠員補充がままならないことへの対応として、利用者を前年度比で3名減少とした。支出については、職員補充の対策として、清掃業務の外部委託費を計上している。

2 借入金償還計画 なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

静岡県福祉指導課による実地指導が、前回から3年目となるための実施が予想される。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

1 実習生

保育実習に関連した実習生については4大学延べ10名程度、社会福祉士を目指す実習生の受け入れについては、3大学延べ3名の受け入れを予定している。

2 ボランティア

草取り、花植え、清掃、窓ふきなどの環境整備や周辺業務などのボランティアについて、希望者を積極的に募り、登録制とし「ボランティア・みのり」として組織化する。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

1 ケアカルテ（システム）の活用について

請求業務システムを「ほのぼの」から「ケアカルテ」に移行する。「ほのぼの」については、栄養以外は更新しない。

2 職員の不足について

職員の慢性的な不足を補うため、利用者数の調整（長期42名/定員50名）、周辺業務（清掃）の外部委託、環境整備等ボランティアの組織化を行う。求人については、事業所としては継続して、ハローワーク、ドーモネット、福祉人材センター、求人誌を活用していく。

2022年（令和4）年度事業計画

障害者支援施設
やまばと希望寮

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画に沿って事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標と事業計画
 - (1) 人権擁護と虐待意識の徹底
身体拘束に関わる支援の振り返り及び虐待に関する自己チェックを継続して行い、関係研修を計画的に実施し、人権擁護と虐待防止意識の徹底に努める。
 - (2) 感染予防対策の強化
感染症に関する情報を収集し、毎日の感染予防を徹底する。感染症マニュアル・BCPの見直しを随時行い緊急時に備える。
 - (3) ワークライフバランスとメンタルヘルス
職場全体で業務の見直しや効率化を図り、時間外労働の削減と労務管理の徹底に努める。ICT化・ロボット活用等についての情報を積極的に収集し、業務の手順や人員配置を検討し、質の高いサービスの提供と職員のワークライフバランスについて考える。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 基本理念「ともに生きる」～利用者とともに、職員とともに、地域とともに～に則りサービスを提供するように努める。
 - (2) 行動指針である「5つの大切」に則りサービス提供をするように努める。
 - (3) わたしたちの願いに基づきサービスの提供をするように努める。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 職員育成
 - ① 障害特性の理解・専門性を高める研修を継続して行う。
 - ② 福祉専門職員資格の取得を勧める。
 - ③ リーダー職員に新人職員の育成を任せる。
 - (2) 地域貢献
 - ① 短期入所、日中一時支援の受け入れに関しては、感染症の影響も考慮しつつ可能な限り地域のニーズに応える。
 - ② サロン送迎等、自分たちが出来ることをこれからも考え実施する。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

	定員	昨年度末 契約者数	昨年度 利用率	目標 契約者数	開所日数	1日平均	利用率
施設入所支援	30名	30名	97.3%	30名	365日	30名	98%
生活介護	30名	31名	95.3%	30名	269日	30名	98%
短期入所	5名	3名	20.0%	7名	365日	1名	10%
日中一時支援	9名	2名	0.5%	12名	365日	1名	4%

※利用率は2021年度1月31日での実績

2 区分による利用者予想

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0名	0名	0名	0名	0名	3名	27名

3 職員配置予定

	施設長	副施設長	サビ管	生活支援員	看護師	栄養士
実人数	1	1	1	24(パ:10)	1	1
常勤換算	0.5	1	1	21.3	1	1

	事務員	補助員				合計
実人数	2	1				32
常勤換算	1.25	0.6				27.65

※施設長はわかば・もくれんとの兼務

4 残業と、有給休暇取得に関する計画

- (1) 時間を費やしている業務について、改善策を検討することで残業時間の減少を目指す。業務のICT化、ロボットの活用等についても検討する。
- (2) 今年度の有給取得希望日がすでにある場合には年度当初に報告いただく。更に月ごとの勤務作成前にも申請することにより、毎日の人員配置を考慮し急な有給申請にも備える体制を継続する。

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ・ケース検討等
毎月	感染症委員会	医療委員他	感染症対応についての確認等
毎月	防災委員会	防災委員他	訓練の評価、BCPの検討等
7月・1月	虐待防止委員会	チーフ会	事例・チェック結果からの考察等
4月・10月	法人苦情解決委員会	宮澤	苦情報告検討等
5月・11月	法人事故防止委員会	米田	事故ヒヤリ報告ケース検討
8月・2月	法人虐待防止委員会	高杉	虐待事例検討等
12月	集団指導	高杉	実地・書面指導の留意点等
1月末	県知協研究集会	高杉他	種別分科会、行政説明、講演

C 利用者の喜びのために工夫したいこと

- 1 利用者の日常の充実を求め、障害特性も考慮し希望寮ホール、コスモス棟ホールを中心に利用者が暮らす環境の改善・工夫に取り組む。あそべる・たのしめる・おちつくホールにしていくために、施設内だけの意見にとどめず、関係者の意見を求め参考にし、楽しく暮らせる毎日を目指す。
- 2 改修或いは改修予定の厨房並びに、ガス給湯器設備の機能を十分に生かし、従来よりも快適な食事・入浴等の時間を楽しんでいただけるよう、それぞれのサービスの提供時間・支援方法の見直しを図る。
- 3 感染状況によるが、外部講師による音楽教室、マッサージやリハビリ指導も再開を目指す。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画
 - (1) 今後の取組等に関しても施設職員が集まる全体会議で伝達する。掲示板等も利用し、伝達事項の確認がしやすい環境を整える。
 - (2) 法人主催の研修、委員会に多くの職員の参加を進める。職員自身が役割・責任感を持ち、自身に係ることと強く認識する機会を増やす。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

毎月の寮全体会議の後半時間を活用し、利用者支援や施設環境の改善について討議する時間を共有し、職員全員が施設を支えている意識を高めていく。
- 3 研修計画
 - (1) 昨年度から引き続き、強度行動障害等の障害特性について研修を続けていく、今年度は研修で得た知識を職員全体で共有する時間を持ち実践で活かすことを課題とする。研修の振り返りを含めた施設内研修を実施する。
 - (2) 虐待防止に関する、複数職員の研修参加を計画し、管理者、虐待防止マネージャーとの連携を高め組織としての取り組みを強化する。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

現在、施設から発信する地域に関わる活動をしていない。地域から足を運んでもらい関係

を保ってきた状況から、自分たちが地域に対して何が出来るか考えていきたい。小さな取り組みだとしても継続できる活動を検討する。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

- 1 家族への便り「希望寮たより」を定期的に発行し、施設の情報についてお知らせする。
- 2 感染状況に応じ面会制限等を適切に判断し、利用者が自宅に帰宅する「ふれあい期間」の再開を目指す。
- 3 家族の施設行事への参加を検討・依頼し、家族も訪れやすい環境を取り戻す。

日付	内容	参加者
5月25日	保護者総会・奉仕作業	保護者、職員5名
8月10日～14日	夏季ふれあい期間	利用者、保護者
8月20日	納涼祭	利用者、保護者、職員
9月24日	前期個別面談	保護者30名、職員15名
12月17日	クリスマス会	利用者、保護者、職員
12月29日～1月4日	冬季ふれあい期間	利用者、保護者
3月25日	後期個別面談	保護者30名、職員15名
3月29日～4月3日	春季ふれあい期間	利用者、保護者

G 苦情について対策

- 1 苦情申し立てがあった場合は事実に基づき、法人の苦情解決委員会が定める指針に沿って迅速かつ適切に対応する。
- 2 定期的な家族への連絡期間を見直し、利用者家族とのコミュニケーション不足にならないように努める。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の防止対策

2021年度 事故・ヒヤリハット・虐待・身体拘束件数（2021年度1月31日までの件数）

事故	60件	ヒヤリ	24件	虐待	0件	拘束	25件
----	-----	-----	-----	----	----	----	-----

- 1 事故、ヒヤリハットの防止対策
 - (1) 事故を減らすための、ヒヤリハット報告であることを改めて確認し、簡潔に報告しやすい体制づくりに努める。
 - (2) 防げる事故・防げない事故を仕分け、防げる事故についての環境設定・人員配置等の課題を解決する。
- 2 虐待、身体拘束の防止対策
 - (1) 虐待の通報があった場合には、法人の虐待防止規定に基づき速やかに対応する。
 - (2) 虐待チェックリストを毎月実施し、職員それぞれが支援の振り返りを行いその結果も参考にしている確かな支援を検討する。

I 防災関連：前年度を振り返っての防災訓練計画/課題の克服など

日付	内容	目標
毎月第3水曜日	施設内避難訓練	想定される災害対応の習得・訓練 避難・防災体制の見直し
6月	救急救命訓練・煙テント通過訓練	応急処置方法の習得 火災発生時の実践訓練
9月	炊出し訓練	災害時の食事提供体制確認
10月	消防立会避難訓練	消防隊員から避難体制の評価を得る 避難・防災体制の見直し
12月	地域防災訓練	地域の訓練に参加し協力体制についての確認をする

J 環境整備に関する計画

- 1 ガス給湯設備設置工事
- 2 土砂災害特別警戒区域の災害を防ぐための施設西側斜面の樹木伐採

K 収支、並びに、借金返済計画

- 1 本年度の収支計画
 - (1) 今年度の重度加算取得を目標に昨年度は正規職員の強度行動障害支援者養成研修(基礎)受講をすすめたが、年度当初の人員配置では取得は困難と判断。人員補充が出来た場合に、状況を判断し申請する。その他の加算は前年度同様。
 - (2) 昨年度はコロナ禍で短期入所・日中一時支援を見合わせていた時期が長く収入も見込めない状況にあったが、感染状況により判断し適切に受け入れを再開する。
 - (3) 施設内修繕箇所が多く、特にコスモス棟ホール内の扉の破損が激しい。ご利用者が安全に利用できるよう扉の形状変更を含めた修繕を検討する。
- 2 借入金償還計画
特になし

L 主務官庁との関連

今の時点では特になし

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 実習生の受け入れは感染症対策を学校側・施設側と確認し、県内からの依頼を優先して実施する。県外からの依頼に関しても、感染症のまん延状況を考慮し検討・実施する。
- 2 日赤奉仕団等の団体での活動については、感染症まん延状況を確認しながら施設利用者と接点を求めない場合に受け入れていく。個人の活動については、感染症が落ち着き次第受け入れる。

N その他

- 1 地域利用者のニーズについてはコロナ禍といえど短期入所・日中一時支援の利用を望む声大きい。感染対策の一環として利用の制限をしているが施設としてできる限りサービス利用できる体制を検討・実施する。
- 2 厨房改修につき防災非常食等の保管場所を設置する。また、保管場所によっては保管数の検討も行う。厨房職員の待機場所が作業棟となるため、避難マニュアル・防災BCPの見直しを行う。
- 3 牧之原市地域生活支援拠点等事業所登録を進める。

2022年（令和4）年度事業計画

共同生活援助
もくれん

私たちは、牧ノ原やまぼと学園の理念に基づき、次のような計画に沿って事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標と事業計画
 - (1) 人権擁護と虐待意識の徹底
虐待に関する自己チェックを毎月継続して行い、関係研修を計画的に実施し、人権擁護と虐待防止意識の徹底に努めます。
 - (2) グループホームの役割の理解
 - ①障害度別の特性の理解に努め、利用者の意思を尊重した暮らしの充実を目指す。
 - ②地域で共同生活を営み、家族や地域住民との交流を図りつつ自立生活を行う支援をするグループホームの役割を理解する。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 基本理念「ともに生きる」～利用者とともに、職員とともに、地域とともに～に則りサービスを提供するように努める。
 - (2) 行動指針である「5つの大切」に則りサービス提供をするように努める。
 - (3) わたしたちの願いに基づきサービスの提供をするように努める。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 職員の育成
 - ①事業所の目標を、職員会議等で周知しグループホームスタッフに徹底していく。
 - ②リモート環境を活用し、より多くの職員が研修に参加する。
 - (2) 地域への取り組み
共同生活援助の事業所として地域で生活する、交流することについて考察し、行動に移す年度とする。持続できる社会参加について検討する。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

	定員	昨年度末 契約者数	昨年度 利用率	目標 契約者数	開所日数	1日平均	利用率
共同生活援助	10名	13名	93.4%	10名	365日	9.7名	97.0%

※利用率は2021年度1月31日での実績

2 区分による利用者予想

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0名	0名	0名	1名	3名	4名	2名

3 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	合計
実人数	1名	1名	6名	10名	1名	1名
常勤換算	0.25名	0.5名	3.0名	3.0名	0.2名	6.95名

※施設長は希望寮・わかばと兼務、その他の職種もわかばとの兼務有

4 残業と、有給休暇取得に関する計画

特定の職員の時間外業務が多く、業務負担の偏りを適正に近づける事により時間外業務を減らし、どの立場の職員も有給取得を取得しやすい体制にする。

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ・ケース検討 等

毎月	感染症委員会	医療委員他	感染症対応についての確認等
毎月	防災委員会	防災委員他	訓練の評価、BCPの検討等
7月・1月	虐待防止委員会	全員	事例・チェックシート結果からの考察等
4月27日	法人苦情解決委員会	杉本	苦情報告検討等
5月	法人事故防止委員会	杉森	事故ヒヤリ報告ケース検討
8月17日	法人虐待防止委員会	高杉	虐待事例検討等
12月	集団指導	杉本	実地・書面指導の留意点等

C 利用者の喜びのために工夫したいこと

- 1 意思決定支援の理解を進める
利用者自身がしたい・したいと思う意思が反映された生活が可能となるように、活動の選択肢を増やす。
- 2 社会参加を進める
日常の充実を進めていくために、地域行事等の情報収集し社会参加を進めていく。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画
(1) 施設の取組等に関して施設職員が集まる全体会議で伝達する。掲示板等を利用し、伝達事項の漏れをなくし、確認がしやすい環境を整える。
(2) 法人主催の研修、委員会に多くの職員の参加を進める。職員自身が役割・責任感を持ち、施設運営に関わっている意識を高める。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画
利用者支援や施設環境の改善について討議する時間を共有し、職員全員が施設を支えている意識を高めていく。
- 3 研修計画
2023年度からの重度支援加算取得を目指し、支援員の強度行動障害支援者養成研修受講に取り組む。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

現在、施設から発信する地域に関わる活動をしていない。自分たちが地域に対して何が出来るか考え、継続できる活動を検討する。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

- 1 3ヶ月毎、施設の様子をお便りとして家族に届ける。
- 2 感染状況に応じて面会制限について検討し、長期休みの間帰宅する「ふれあい期間」の再開を目指す。
- 3 成年後見人との連絡を密に取り、各々の役割について明確にし、施設・関係機関と円滑な連携を心がけ、対象となる利用者を支える。

G 苦情について対策

- 1 苦情申し立てがあった場合は事実に基づき、法人の苦情解決委員会が定める指針に沿って迅速かつ適切に対応する。
- 2 定期的な家族への連絡期間を見直し、利用者家族とのコミュニケーション不足にならないように努める。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の防止対策

2021年度 事故・ヒヤリハット・虐待・身体拘束件数 (2021年度1月31日までの件数)

事故	25件	ヒヤリ	0件	虐待	0件	拘束	2件
----	-----	-----	----	----	----	----	----

- 1 事故、ヒヤリハットの防止対策
(1) 事故を減らすための、ヒヤリハット報告であることを確認し、簡潔に報告しやすい体制づくりに努める。
(2) 防げる事故・防げない事故を仕分け、防げる事故についての環境設定・人員配置等の課題を解決する。

2 虐待、身体拘束の防止対策

- (1) 虐待の通報があった場合には、法人の虐待防止規定に基づき速やかに対応する。
- (2) 不適切な支援を放置することで、不当な拘束にエスカレートするという認識から、チェックリストを毎月実施し、職員それぞれが支援の振り返りを行いその結果も参考にし、的確な支援を検討する。

I 防災関連：前年度を振り返っての防災訓練計画/課題の克服など

前年度まで利用者の居る時間帯での訓練のみ実施してきたが、想定される災害を検討し、利用者の通所施設との連携も踏まえた訓練を計画・実施する。

日付	内容	目標
毎月	施設内避難訓練	想定される災害対応の習得・訓練 避難・防災体制の見直し
9月	炊出し訓練	災害時の食事提供体制確認

J 環境整備に関する計画

特になし。

K 収支、並びに、借金返済計画

- 1 本年度の収支計画
人員配置加算等は前年度同様の体制を維持する。
- 2 借入金償還計画
特になし。

L 主務官庁との関連

実地指導或いは書面指導

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

感染症が収まり次第、希望するボランティアの受け入れを進める。

N その他

- 1 利用者の高齢者施設移行の際に、円滑に移動が出来るように準備をする。また、空所期間を短くするためにも速やかに新規利用者の入所を進める。
- 2 施設経年劣化が進み、設備の交換時期が近付いている。

2022 年（令和 4）年度事業計画

共同生活援助
わかば

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画に沿って事業を行います。

A 2022 年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標と事業計画
 - (1) 人権擁護と虐待意識の徹底
虐待に関する自己チェックを毎月継続して行い、関係研修を計画的に実施し、人権擁護と虐待防止意識の徹底に努めます。
 - (2) グループホームの役割の理解
 - ①障害度別の特性の理解に努め、利用者の意思を尊重した暮らしの充実を目指す。
 - ②地域で共同生活を営み、家族や地域住民との交流を図りつつ自立生活を行う支援をするグループホームの役割を理解する。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 基本理念「ともに生きる」～利用者とともに、職員とともに、地域とともに～に則りサービスを提供するように努める。
 - (2) 行動指針である「5つの大切」に則りサービス提供をするように努める。
 - (3) わたしたちの願いに基づきサービスの提供をするように努める。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 職員の育成
 - ①事業所の目標を、職員会議等で周知しグループホームスタッフに徹底していく。
 - ②リモート環境を活用し、より多くの職員が研修に参加する。
 - (2) 地域への取り組み
共同生活援助の事業所として地域で生活する、交流することについて考察し、行動に移す年度とする。持続できる社会参加について検討する。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

	定員	昨年度末 契約者数	昨年度 利用率	目標 契約者数	開所日数	1日平均	利用率
共同生活援助	10名	10名	100.0%	10名	365日	9.7名	97.0%

※利用率は2021年度1月31日での実績

2 区分による利用者予想

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0名	0名	0名	1名	0名	5名	4名

3 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	合計
実人数	1名	1名	5名	6名	1名	14名
常勤換算	0.25名	0.5名	3.0名	2.0名	0.2名	5.9名

※施設長は希望寮・もくれんと兼務、その他の職種ももくれんと兼務有

4 残業と、有給休暇取得に関する計画

特定の職員の時間外業務が多く、業務負担の偏りを適正に近づける事により時間外業務を減らし、どの立場の職員も有給取得を取得しやすい体制にする。

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ・ケース検討等

毎月	感染症委員会	医療委員他	感染症対応についての確認等
毎月	防災委員会	防災委員他	訓練の評価、BCPの検討等
7月・1月	虐待防止委員会	全員	事例・チェック結果からの考察等
4月・10月	法人苦情解決委員会	杉本	苦情報告検討等
5月・11月	法人事故防止委員会	杉森	事故ヒヤリ報告ケース検討
8月・2月	法人虐待防止委員会	高杉	虐待事例検討等
12月	集団指導	杉本	実地・書面指導の留意点等

C 利用者の喜びのために工夫したいこと

- 1 意思決定支援の理解を進める
利用者自身がしたい・したいと思う意思が反映された生活が可能となるように、活動の選択肢を増やす。
- 2 社会参加を進める
日常の充実を進めていくために、地域行事等の情報収集し社会参加を進めていく。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画
(1) 施設の取組等に関して施設職員が集まる全体会議で伝達する。掲示板等を利用し、伝達事項の漏れをなくし、確認がしやすい環境を整える。
(2) 法人主催の研修、委員会に多くの職員の参加を進める。職員自身が役割・責任感を持ち、施設運営に関わっている意識を高める。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画
利用者支援や施設環境の改善について討議する時間を共有し、職員全員が施設を支えている意識を高めていく。
- 3 研修計画
2023年度からの重度支援加算取得を目指し、支援員の強度行動障害支援者養成研修受講に取り組む。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

現在、施設から発信する地域に関わる活動をしていない。自分たちが地域に対して何が出来るか考え、継続できる活動を検討する。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

- 1 3ヶ月毎、施設の様子をお便りとして家族に届ける。
- 2 感染状況に応じて面会制限について検討し、長期休みの間帰宅する「ふれあい期間」の再開を目指す。

G 苦情について対策

- 1 苦情申し立てがあった場合は事実に基づき、法人の苦情解決委員会が定める指針に沿って迅速かつ適切に対応する。
- 2 定期的な家族への連絡期間を見直し、利用者家族とのコミュニケーション不足にならないように努める。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の防止対策

2021年度 事故・ヒヤリハット・虐待・身体拘束件数 (2022年1月31日までの件数)

事故	8件	ヒヤリ	1件	虐待	0件	拘束	0件
----	----	-----	----	----	----	----	----

- 1 事故、ヒヤリハットの防止対策
(1) 事故を減らすための、ヒヤリハット報告であることを確認し、簡潔に報告しやすい体制づくりに努める。
(2) 防げる事故・防げない事故を仕分け、防げる事故についての環境設定・人員配置等の課題を解決する。
- 2 虐待、身体拘束の防止対策
(1) 虐待の通報があった場合には、法人の虐待防止規定に基づき速やかに対応する。

- (2) 不適切な支援を放置することで、不当な拘束にエスカレートするという認識から、チェックリストを毎月実施し、職員それぞれが支援の振り返りを行いその結果も参考にし、的確な支援を検討する。

I 防災関連：前年度を振り返っての防災訓練計画/課題の克服など

前年度まで利用者の居る時間帯での訓練のみ実施してきたが、想定される災害を検討し、利用者の通所施設との連携も踏まえた訓練を計画・実施する。

日付	内容	目標
毎月	施設内避難訓練	震災・土砂・浸水等の対応の習得・訓練 避難・防災体制の見直し
9月	炊出し訓練	災害時の食事提供体制確認

J 環境整備に関する計画

特になし。

K 収支、並びに、借金返済計画

- 1 本年度の収支計画
人員配置加算等は前年度同様の体制を維持する。
- 2 借入金償還計画
特になし。

L 主務官庁との関連

実地指導或いは書面指導

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

感染症が収まり次第、希望するボランティアの受け入れを進める。

N その他

- 1 利用者の高齢者施設移行の際に、円滑に移動が出来るように準備をする。また、空所期間を短くするためにも速やかに新規利用者の入所を進める。
- 2 施設経年劣化が進み、設備の交換時期が近付いている。LDのエアコン交換を実施する。

2022（令和4）年度事業計画

共同生活援助事業所
（介護サービス包括型）
みぎわ

私たちは、牧ノ原やまぼと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標と事業計画
 - (1) 専門性の向上を更に目指す
質の高いサービスを提供するため、スタッフの専門性向上と精神的成長のため、さまざまな研修に参加し自己研鑽する。
 - (2) システムをより積極的に活用する
記録、情報共有を記録システム等を活用して、支援の向上に繋げる。
 - (3) 3事業所が連携し、いつでも協力体制がとれる
3事業所が、お互いがスムーズな協力関係を発揮できるように、関連する事柄（研修や防災、業務応援等）を協力して行うよう進めていく。
 - (4) 外部機関と連携する
最新の感染状況について情報を把握する。また隣接事業所の診療所医師の指示をもとに感染リスクの軽減しながら、日中活動・勤務先とも連携をとっていく。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 私たちの願いを確認する機会を作る
全ての職員が、私たちの願いを口に出して読む機会を作る。具体的には会議時に唱和等
 - (2) 利用者の立場に立ったサービスを提供する
ご利用者ひとりひとりをかけがえのない存在として重んじ、常にご利用者の立場に立ったサービスを提供する。
 - (3) 地域との連携を意識してサービスを提供する
地域との結びつきを重視し、市町、他の障害者福祉サービス事業所との連携、地域住民との協力や、地域の社会的資源の活用に努める。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 職員の育成
施設長面談をリーダー職員は年6回、その他職員は年4回実施する。職員研修は「Dの3 研修計画」を参照のこと。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年度末の契約者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	1日平均	利用率
15	15	98%	15	365	14.5	97%

2 区分による利用者予想

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
3	0	0	4	4	3	1	15

3 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	合計
実人数	1	1	3	12	1	18
常勤換算人数	0.1	0.1	2.9	3.8	0.5	7.4

4 残業と、有休休暇取得に関する計画

(1) 残業について

前年度は1か月平均で33時間程度、職員一人当たり平均して1か月に約3時間の残業が発生している。突発的な通院や買い物などが主な原因だが、その他については、職員に大きな負担にならない様に、仕事の分担を進めて改善を進める。また、職員別の残

業発生の偏りをできるだけ少なくしたい。

(2) 有給休暇取得について

例年取得率は、全職員平均して 60%程度となっている。取得率としては 10%アップの 70%を目標とする。また、4 半期ごとにバランスよく義務化分を取得する。

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内 容
適宜	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 等
年 2 回	法人防災委員会	伊東	事業所 BCP 等の検討 法人防災について検討
適宜	島田市くらし部会	杉山	島田市内の福祉事業所で福祉課題を検討

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

余暇活動として、散歩、ドライブ、カラオケ、季節の行事等を行なう。利用者に職員と配膳や掃除など、一緒に行って施設内で他者の役に立てていることを感じてもらう。感謝の言葉を多く掛ける場面をつくっていく。また、あおば棟利用者を対象に、毎月 1 回ミーティングを開催し、意見交換の場を持つ。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎月	理念の継承	全職員	会議時にわたしたちの願いを読み合わせる

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

職場内の物や情報を整理整頓して、分かりやすい環境を整えていく。職員同士があいさつ、感謝の言葉を交わし合うように意識していく。毎月重点目標で、職員に意識して取り組んでもらう。また、年 4 回の施設長による定期職員面談で、課題の確認し、取り組みを見直す。

3 研修計画

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
事業所内研修		身体拘束	10		感染症講座	10
法人研修		SV 研修 (1)	1		SV 研修 (2)	1
		障害特性	1	4/2	新年度研修	10
施設外研修		初任者研修	1	12/16	意思決定セミナー	1
	5/27	コンプライアンス講座	1		ストレスマネジメント	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

1 公益的取組み

島田市社会福祉協議会を通して、大草市営住宅団地住民の「買い物支援」について参加を検討している。内容は、公用車の提供、運転ボランティア。

2 地域との交流

(1) 市内小中学校との交流

大津小学校の入学式、卒業式への代表者の参加、市内小中学校で開催される福祉講座への講師派遣 等

(2) その他

ここにこしまだクリーン大作戦に参加し、清掃活動を行う。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

保護者懇談会を開催し、情報の伝達や共有を行う。また、みぎわだよりを毎月発行し、情報提供を行う。

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度は、事業所側からの情報提供不足が原因で、家族等に不安や不信感を与えてしまったことから、積極的、かつ迅速に情報提供を行っていく。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故

平均して1か月あたり約1件の事故が発生している。薬に関する事故が数件見られることから重点的に再発防止に努める。

また、事故件数を0が最終目標だが、人はミスをするを前提に、ヒヤリハットが事故につながる様子を、タイムリーに情報共有し、事故防止対策を講じていくことで、1件でも多く、事故を減らしたい。

(2) ヒヤリハット

平均して1か月あたり約1.5件のヒヤリハットが発生している。目標として50%減とする。

(3) 虐待・身体拘束

不適切な支援の芽が発生しにくいように、気が付いた時に、職員同志がお互いに声をかけあうことが出来る職場づくりを進める。働きやすい、楽しい、余裕がある職場をより目指していく。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

本年度も前年度同様に、防火管理者が中心となって、日中や夜間における火災想定での防災訓練を定期的実施し、防災倉庫の点検、必要物品の管理を行っていく。

立地上、土砂災害警戒区域にあたるため、そのことを踏まえた防災計画を3事業所連携のうえで検討し、訓練を実施する。

特に、BCPを見直して、施設の現状に合うものにしていく。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

年度当初は予定なし。

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

収入については、年度途中でコロナが開け帰宅が増えることを想定し、前年度実績で1%減収とした。支出については、車の更新を行う。また、給食費、介護用品費についてご利用者負担分の一時立替え分等を収支に計上している。

2 借入金償還計画 なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

静岡県福祉指導課による実地指導が、前回から4年目となるための実施が予想される。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

1 実習生

前年度同様に法人内の他事業所からへの実習依頼があれば受ける。

2 ボランティア

草取り、花植え、清掃、窓ふきなどの環境整備や周辺業務などのボランティアについて、希望者を積極的に募り、登録制とし「ボランティア・みのり」として組織化する。

N その他

1 ケアカルテ（システム）の活用について

請求業務システムを「ほのぼの」から「ケアカルテ」に移行する。

2 施設長兼務の解消について

隣接事業所の施設長が当事業所の施設長を兼務していることから、リーダー育成を進め、施設長の兼務を解消したい。

3 小さなヒヤリハットも見逃さず、確実に報告書を作成する。職員間で情報共有し、事故防止に取り組む。

2022（令和4）年度事業計画

生活介護事業所
ケアセンターさざんか

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

1 事業所の目標と事業計画

- (1) 障害者総合支援法、その他の関係省令に基づいて生活介護サービスを提供するもの
- (2) 新施設に慣れ、安心、安全に過ごせるよう、必要に応じて業務内容の検討を実施する。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画

- (1) 利用者の思いを大切に利用者安心して豊かな生活が送れる様に常に利用者の立場に立ったサービスを提供するように努める。
- (2) サービスの内容に関する情報開示を行い、本人と家族との連携を密にし、信頼できる事業所を目指す。
- (3) 地域との結びつきを重視し、市町や他の事業者との連携はもちろんのこと、地域住民との協力、地域の社会資源の活用に努める。
- (4) 個々の職員が得意分野を発揮しより生き生きと働けるような職場環境を目指す。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

- (1) 初任者、中堅、チームリーダー、管理職員等々が法人内外の研修に参加し知識、技術面等の専門性向上と精神的成長に努める。
- (2) ケース記録等はPC入力を検討実施しペーパーレス化を図る
- (3) 地域生活支援拠点等事業において緊急時や体験等で受け入れをしていきたい

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年度末の登録者数	昨年の利用率	目標とする利用者数	開所日数	一日平均	利用率
20	16	75.3	20	254	18人	90%

※2、3月は見込み数とする

区分による利用者予想

区分3	区分4	区分5	区分6
	3	9	8

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	事務員	合計
実人数	1	1	10	1	1	13（兼務2名）
常勤換算	0.3	0.7	6.1	0.5	0.3	7.9

3 残業と、有休休暇取得に関する計画

- 1 事務時間は勤務時間内に行えるように日課のプログラムに組み込み残業時間を減らす。
- 2 5日を計画有給として取り入れる。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
1回/月	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 利用者ストレングス
1回/月	ケース会	全員	利用者ケース報告、検討
2回/年	法人防災委員会	栗田	事業所BCPの検討

	法人委員会	桑原	
	自立支援ネットワーク	桑原	地域課題の検討・課題共有

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 日中活動内容において利用者が自己選択・自己決定が行える場を増やすことで意欲的に活動に参加できるように努める。
- 2 健康維持、気分転換のための散歩の充実

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
支援者会議	理念の継承	全員	会議内でサービス提供指針等を読み合わせる
毎朝	わたしたちの願い	全員	朝の打ち合わせ時に読み合わせ

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- 1 支援者会議内で自由に発言できる雰囲気づくり（支援者会議内での1人1発言の実行）
- 2 職員関係が円滑に行われるファーストステップとして「おはようございます。」「お先に失礼します。」「ありがとうございます」等のあいさつの実施
- 3 未参加職員のアンガーマネジメント研修参加

- 3 研修計画

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修		本人理解	13		職員会内研修	13
法人研修		新年度研修	13		SV研修ⅠⅡ	各2
施設外研修		喀痰吸引研修	1		県社協研修	13

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
	坂口谷川かかし祭り	全員
	エコ活動 古切手収集	全員
	坂部サロン参加者の送迎	暫く休み。移転後状況に応じて再開

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
年3回	保護者会	
毎日	連絡帳記入・連絡帳を使用しての情報共有	保護者 職員

G 苦情について対策

- 1 利用者および家族等から苦情申し立てがあった場合は法人の苦情解決委員会が定める「苦情解決についての指針」に沿って円滑かつ迅速に苦情対応を行う。
- 2 家族との連絡を密にし要望などにすぐに応えられるように職員間の連携を図る

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- (1) 事故
危険予知訓練を年2回取り組み危機意識を高め要因分析力の向上を目指す。
- (2) ヒヤリハット
簡単な書式にし細かな事柄から拾いやすくする。職員会にて1か月ごとに振り返りを

行い再発防止に努める。

(3) 虐待

虐待予防チェックシートを活用しセルフチェックを定期的に行う。

(4) 身体拘束防止策（同意書作成6家族）

緊急やむを得ない身体拘束を行う必要がある場合はご家族に説明し同意書を得る。また、記録を取るとともに毎月のケース会で身体拘束の必要性について話し合う。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 消防計画及び地震防災応急計画に則り、2か月ごとに防災訓練を実施する。また、近隣事業所との合同訓練を実施する。
- 2 台風や地震の際の開所有無の判断を他生活介護事業所と情報の共有、協力し明確にし職員や家族に承知の徹底を図る。
- 3 毎月行われる「安否確認コール」の返信を確実にし災害に備える。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

計画なし（新施設での営業開始後必要に応じて検討）

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
人員配置体制加算（Ⅲ）の取得維持、利用者数のアップ
- 2 借入金償還計画
計画なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

- 1 新施設の許可申請と変更届等の提出

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 実習生：支援学校、榛原中学校、清流館高校等の職場体験実習
- 2 ボランティア：日赤奉仕団 おはなしぽっぽ（読み聞かせ）

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

特になし

2022（令和4）年度事業計画

生活介護事業所
ケアセンター野ばら

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標と事業計画
 - (1) 一人ひとりに、安心・安全な生活を提供できるように、職員が一丸となって、ベストを尽くしていきたい。
 - (2) コロナ禍であっても引き続き、利用者と職員にとっての『楽しみや笑顔』を見出すために、前進していきたい。
 - (3) ケアカルテ（記録情報システム）の運用に取り掛かり、事業所内に限らず、『落合3事業所間』においても、タイムリーで活発な情報共有を図ることで、サービスの質の向上を求めていく。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 利用者一人ひとりに耳を傾け、受容していく中で、『意思決定支援』と『個別支援計画書』に基づいたサービスを計画する。
 - (2) 働く仲間同士、お互いを受け入れ、認め合い、計画的な研修で学びを深め、前進していく。
 - (3) 利用者・職員の『キラリ』と輝くことを、『キラリハット』と題し、朝の会で発表することで、生命の輝きを伝えていきます。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 職員の育成
施設長面談をリーダー職員は年6回、その他職員は年4回実施する。職員研修は「Dの3 研修計画」を参照のこと。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年度末の契約者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	1日平均	利用率
20	19	82%	20	254	17.4	87%

2 区分による利用者予想

区分3	区分4	区分5	区分6	合計
2	2	8	8	20

3 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	調理員	事務員	合計
実人数	1	1	11	1	1	1	16
常勤換算人数	0.1	1.0	8.1	0.1	1.0	1.0	11.3

4 残業と、有休休暇取得に関する計画

- (1) 残業について
前年度は1か月平均で34時間程度、職員一人当たり平均して1か月に約2時間の残業が発生している。業務の改善を進めることにより40%程度の削減を目標としたい。また、職員別の残業発生の偏りをできるだけ少なくしたい。
- (2) 有給休暇取得について
例年取得率は、全職員平均して60~70%程度となっている。取得率としては10%アップの70~80%を目標とする。また、4半期ごとにバランスよく義務化分を取得する。

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内 容
毎月	通所会議	全職員	重要事項の共有、ケース、その他の検討事項等
毎月	A・B各ケース会	メンバー	各ケースチームによる、利用者支援の検討等
適宜	スタッフ会議	常勤職員	行事、利用者支援等に関する検討等
適宜	給食委員会	調理員	給食に関する検討等
年5回	くらし部会	サビ管	暮らしに関わる課題の整理と在り方の検討等

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

野ばらの会（レクリエーション）や、偶数月のおやつ、奇数月の野ばらカフェ、毎月1回のレクダンス、リフレクソロジー、絵画教室、理学療法士の来所や年に2回のクッキング、七夕の会、ミニエンジョイプラン（小グループ毎のお出かけ）、秋祭り、クリスマス会、節分の会、作業リハビリ昼食会、等を行う。引き続き感染症対策を行いながら実現していく。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
適宜	私たちの願い唱和	全職員	打合せや会議の時に皆で唱和する

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

6月25日に『楽しい職場づくり』や『チームワーク形成』をテーマとした職員研修を実施する。

3 研修計画

(1) 事業所内研修

研修委員会が企画、運営の研修。毎月1回、全職員を対象として実施する。内容は、職員のスキルアップ、事業所の課題に合わせたものを実施する。

(2) 法人内研修

法人研修委員会等が企画した研修に1企画最低1名は出席する。可能であれば、他の生活介護に実習に行く。

(3) 外部研修

職員1人につき、1回を目標として参加する。Web研修を積極的に活用する。他事業所の見学を2か所行う。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

1 公益的取組み

島田市社会福祉協議会を通して、大草市営住宅団地住民の「買い物支援」について参加を検討している。内容は、公用車の提供、運転ボランティア。

2 地域との交流

(1) 市内小中学校との交流

大津小学校の入学式、卒業式への代表者の参加、市内小中学校で開催される福祉講座への講師派遣 等

(2) その他

にこにこしまだクリーン大作戦に参加し、清掃活動を行う。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

保護者会に参加し情報の伝達や共有を行う。また、日々の送り迎えの時には積極的に声掛けを行い、普段の様子を確認する。

野ばらだよりを毎月発行し、情報提供を行う。また、半期に1回のモニタリングの時に、アセスメントの延長とした情報を得るように積極的に話しかける。

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度は、窓口担当者が1年目というもあり、保護者との関わり方や、報・連・相等、一部不足する面があった。当年度は前年度の失敗から学び、より丁寧な対応を心掛ける。具体的には、①わからないことは、必ず上長に相談する。②何事に対しても、慌てずに、

一呼吸置いてから、物事を進めていく。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故

平均して1か月あたり約1件の事故が発生している。転倒が多い。防犯カメラの事故検証を活用し、目標として50%減とする。

事故件数を0が最終目標だが、人はミスをすることを前提に、ヒヤリハットが事故につながる様子を、タイムリーに情報共有し、事故防止対策を講じていくことで、1件でも多く、事故を減らしたい。

(2) ヒヤリハット

平均して1か月あたり約3件のヒヤリハットが発生している。転倒が多い。防犯カメラの事故検証を活用し、目標として50%減とする。

(3) 虐待・身体拘束

不適切な支援の芽が発生しにくいように、気が付いた時に、職員同志がお互いに声をかけあうことが出来る職場づくりを進める。働きやすい、楽しい、余裕がある職場をより目指していく。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

本年度も前年度同様に、防火管理者が中心となって、防災訓練を毎月実施し、防災倉庫の点検、必要物品の管理を行っていく。

立地上、土砂災害警戒区域にあたるため、そのことを踏まえた防災計画を3事業所連携のうえで検討し、訓練を実施する。

また、ヘルメットの保管場所等、すでに課題については、ある程度把握ができている事から、一つ一つ確認しながら対策を行う。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

年度当初は予定なし。

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

収入については、コロナの影響が若干続くこと、1名の新規利用を前提に計算した。支出については、正規職員1名増の職員配置となっている。

2 借入金償還計画 なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

前年度、感染症のため中止となったことから、本年度実施が予想される。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

1 実習生

年度当初は、予定はないが、前年度同様に法人内の他事業所からの実習依頼は受ける。

2 ボランティア

草取り、花植え、清掃、窓ふきなどの環境整備や周辺業務などのボランティアについて、希望者を積極的に募り、登録制とし「ボランティア・みのり」として組織化する。

N その他

1 ケアカルテ（システム）の活用について

請求業務システムを「ほのぼの」から「ケアカルテ」に移行する。

2 施設長兼務の解消について

隣接事業所の施設長が当事業所の施設長を兼務していることから、リーダー育成を進め、施設長の兼務を解消したい。

2022（令和4）年度事業計画

生活介護事業所
ケアセンターかたくりの花

A 2022年度の目標と主要な計画

1 事業所の目標と事業計画

ご利用者の自立の促進と健康維持や生活の質向上を目指して支援計画を立て、職員は小さなサインにも気づき受けとめ、ご利用者が自分で決めることで満足度がアップする日中活動へ繋げたい。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画

コミュニケーション伝える・理解することにより、ご利用者ご家族そして支援に関わる職員が「分かち合える」時間を設け、日中活動の中で会議と研修や保護者会の実施。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

新人職員の育成のため施設内研修を実施し、支援の方法やなぜこの支援が必要なのかを理解する。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年の 契約者数	昨年の 利用率	目標とする 契約者数	開所日数	一日平均	利用率
20	21	90.7%	22人	253日	18人	90%

区分による利用者予想

区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
0	4	10	7

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	事務員	その他	合計
実人数	1	1	12（内兼務1）	1	1	0	15
常勤換算	0.2	1.0	9.3	0.6	0.3	0	11.4

3 残業と、有休休暇取得に関する計画

- 1 残業にならない様に勤務内にて時間調整し事務仕事やケースの会議を実施する。
- 2 計画的に有給休暇を取り入れ、有給取得率を高める。
- 3 学校行事や親の介護等については優先的に休みが取れるように協力する。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内 容
毎月	職員全体会議	全員対象	支援報告 行事計画・報告 事故ヒヤリ報告・対策
毎月	ケース会議	各チーム	利用者ケース報告・検討
2回/年	防災委員会	防災担当者	事業所 BCP の検証
2回/年	苦情解決委員会	管理者	苦情確認報告
2回/年	虐待防止委員会	管理者	虐待報告・防止対策検討
2回/年	事故防止委員会	サビ管	事故ヒヤリ報告・検討
4回/年	志太榛重心部会	担当者	地域の重症児者について「はなそ〜かい」
3回/年	島田市重心準備	担当者	島田市に重心部会を設置するための支援準備会
随時	ケア会議	サビ管管理者	支援に関わる関係者との情報共有
5回/年	くらし部会	サビ管	自立支援協議会（島田市の暮らしに関わる課題と整理と検討）

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

季節の行事や活動は利用者会議を開き、自分達で決め実施出来るように進める。自己選択できる場面を増やす。

スヌーズレン、動作法、リフレクソロジー、音楽活動とご利用者がリラックスし更に満足度がアップする内容へと、講師の先生方のご指導を受けアイデアを出し合い進める。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
1回/月	理念の継承	全員	全体会議にて提供指針の読み合わせ
毎朝	行動指針・私たちの願い	全員	朝のミーティング時に唱和する

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 職員の終礼を継続し、一日の勤務の中で気になることをスッキリしてから帰宅する。パート職員には、勤務終了時に管理者は会話を交わす対応を継続する。
- (2) ケース会や全体会議にて伝え理解しあえる会議の設定。
- (3) 2回/年職員のチームワークを深め、互いの良い点を伝える会を実施する。

3 研修計画

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	5/	感染症について	全員	10/	重心支援について	5名
	6/	てんかん発作	5名	11/	行動障害	5名
	7/	記録の書き方	全員	2/	それぞれの癒し	5名
法人研修	4/2	新年度研修	全員		SV研修Ⅰ・Ⅱ	各1名
	9/	交通安全講習会	1名			
	6/	外岡弁護士法律セミナー	1名		生活ケア部門交換実習	2名
	12/					
施設外研修		セルフリーダーシップのススメ	1名		介護記録の書き方・活かし方講座	1名
		口腔ケア講座	1名		共感を得ることば	1名
		接遇・マナー	1名		重心対応従事養成	1名
		意思決定支援	1名		アンガーマネジメント	1名

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
4回/月	散歩道でのゴミ拾い	各チームご利用者と職員
適時	地産物を利用したスイカ割りやクッキング	地域の人、ご利用者、職員
毎月	古切手収集とアルミ缶回収	ご家族、ご利用者、職員
12/	にこにこ島田クリーン大作戦参加	各チームご利用者と職員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
3回/年	保護者会	職員1名 保護者10~15名
12月	保護者会による大掃除	職員1名 保護者10~15名
毎月	かたくりだより「風さゆる」を発行	担当職員作成
毎日	連絡ノート記入 朝夕の送迎時に時間提供	送迎職員 受け入れ職員

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

苦情になる前の対策として、朝夕の受け渡し時に2~3分の時間を利用し、困ったことや意見を聴くようにした為、ご家族から好評となり朝夕の受け渡し時による支援を継続して行く。

苦情受付時には丁寧かつ速やかに対応していく。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故

送迎時交差点にて左折時の確認不足により自転車と接触する事故発生。全職員に運転時左右前後確認し安全運転を周知した。今年度は送迎時の事故0を目指す。

(2) ヒヤリハット

ご利用者の年齢と共に歩行時の足運びが悪くなっている為、ふらつきやつまずきがヒヤリの半分を占めている。動作法やリフレクソロジーによる運動やマッサージを提供し、目標としてふらつきつまずきを50%減とする。

(3) 虐待・身体拘束

不適切行動へと発展しない様に、支援の中で困った時にはお互い様の心で助け合い、ご利用者や職員の小さなサインに気づく優しい心と眼を養う職場作りに努める。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

本年度も毎月第3火曜日に防災訓練を実施し、防災機材の使用訓練を兼ね点検や備蓄品等の管理も行う。

廊下にスチール収納庫を設置し、緊急時用車椅子と防災頭巾をスピーディに持ち出し使用出来るようにする。

以前から課題となっている引き渡し訓練を実施し、保護者を交えての訓練を行う。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装）

年度当初は修繕の予定は無いが、キャラバン送迎車購入したい。

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

収入については、利用率を維持するため通院等欠席せず、遅刻早退での対応をご家族に依頼を継続する。支出については、常時車椅子使用者7名、外出時車椅子使用者3名と定員の半分が車椅子使用者となり、人員配置体制加算2:1を保ち15名体制での職員配置を継続する。

2 借入金償還計画

借入金なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

今の時点では特になし

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

1 実習生

年度当初は予定が無いが、前年度同様に支援学校や法人内他事業所や常葉大学保育学部保育実習の依頼があれば受ける。

2 ボランティア

草木の手入れ環境整備と特技ボランティアを積極的に依頼し、感染予防に気を付けて実施する。

N その他

1 作業棟に給湯設備が無くお湯をキーパーに入れて運んでいる為、給湯器設置により手洗い等の衛生面と業務効率を上げる。

2 昨年度業者から指摘されている浄化槽担体槽ネット交換をする。

3 スノーブレンの質を高めるためにバブルチューブを購入する。

4 冷凍庫が故障しているため冷蔵庫を購入する。

5 事業所内エアコンカビ繁殖により衛生面対応の為、エアコンクリーニングをする。

2022（令和4）年度事業計画

就労継続支援A型事業所
ワークセンターカサブランカ

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

1 事業所の目標と事業計画

- (1) 職員体制が新しい顔ぶれとなるので、事業が円滑に運営できるよう努める。
- (2) ご利用者の作業能力の向上の他、一般就労に必要な知識の習得や社会経験を増やすことを目的とした勉強会や講習会の場を多く持つようにする。
- (3) 当事業は島田市からの委託事業であるため、委託者である島田市環境課との情報の共有を密にし、連携を取って事業を行っていく。
- (4) 今年度より送迎サポート（サービス）の試行運用を実施する。当事業所の利用者を中心に法人内の他の事業所関係の送迎サポート（サービス）を必要とする利用者も対象とする。今年度は試行運用でもあり、実費費用、加算等は取らないで行う。

2 「理念に基づくサービス提供」に牽連した計画

牧ノ原やまばと学園の「サービス提供指針」に基づいた、利用者ひとりひとりをかけがえない存在として重んじ、常に利用者の立場に立ったサービスを提供するよう努める。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

- (1) 職員育成
ご利用者も雇用契約を交わし作業に従事している当法人の職員という立場である。職員育成について事業所の職員だけでなく、ご利用者も一緒にステップアップできるように面談や自分たちの意見を言える時間や場をを考えていきたい。
- (2) 地域貢献
資源類中間処理業務（リサイクル事業）は環境や地域社会の中で貢献度がある事業です。ご利用者が地域のエッセンシャルワーカーとして自信をもって仕事に取り組めるように努めていきたい。

B 利用者と職員の状況

1 目標とする利用者

定員	昨年度の契約者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	一日平均	利用率
15名	12人	71.1%	15人	245日	12.5人	83.5%

※昨年度実績は1月末までを参考

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	1	3	1		7
常勤換算	0.1	0.9	0.8	3	0.2		5

3 残業と、有休休暇取得に関する計画

日々の業務での残業はなくし、基本的に定時で退勤することを目標とする。
有給休暇取得については、いつだれが休んでもよい体制作りに努める。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内 容
毎月	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 等
随時	法人内各委員会	担当者	報告、課題の検討
随時	しごと部会	担当者	島田市就労継続支援について課題検討

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

1 就労継続支援A型事業について

- (1) 就労継続支援A型事業所として運営を行い、知的・精神的・身体的障がいのある人に対し、雇用契約に基づく就労の機会を提供する。
- (2) ご利用者は、雇用契約に基づく就労が可能と見込まれる者であって、一般就労に必要な知識・能力の向上のために必要な訓練を実施する。就労が可能な方には、求職活動の支援、職場実習の実施や職場定着の為の支援を行う。
- (3) 島田市から「資源類中間処理業務」の委託を受け、白色トレイ・ペットボトル・牛乳パック等の、回収資源ごみの選別・梱包、白色、茶、その他の色ビンの選別等を行う。

2 教養娯楽について

業務遂行に支障のない範囲で利用者の励みとなるような季節の行事や活動の場面を提供したい。今年度こそは、研修旅行を実施したいです。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎月	理念の継承 支援の統一	全員	職員会議でサービス提供指針を読み合わせる
	実践計画書作成・評価	全員	実践計画書を新しく作成する。進捗状況の確認及び評価

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

日常的に『報告、連絡、相談』を行い、風通しの良いチームを形成する事で、職員全員が働きやすい環境を創る。

3 研修計画

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	随時	支援について	全員	随時	虐待・身体拘束等	全員
法人研修	随時	管理者SV研修	1	随時	主任者SV研修	1
サビ管研修	随時	サビ管資格取得				
作業関係	随時	フォークリフト	2	随時	ショベルローダー	2
支援関係	随時	障がい特性研修	3	随時	就労支援研修	3
事務関係	随時	(福)事務・会計	1			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
12月	ニコニコクリーン大作戦	事業所全員

地域の方々との良好な信頼関係を築くため、地域行事に参加するなど交流の場を考えていきたい。また、当事業は島田市からの委託事業であるため、委託者である島田市環境課との連携を密にし、情報の共有を図り、地域貢献の事業として利用者が胸を張って作業に取り組めるように意識づけできたらと考えます。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

「カサブランカ便り」を毎月発行し、ご家庭へ情報提供するとともに、半年毎のモニタリング

時にはそれぞれのご利用者の家庭や生活の様子について情報を共有する。

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

利用者またはその家族から苦情があった場合は、「苦情解決マニュアル」に沿って迅速かつ適切に対応するとともに、苦情に対しては、市町が行う調査に協力し改善に努める。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策（できるだけ項目別に記す）

1 事故・ヒヤリハットについて

事故、ヒヤリハットの事案があった場合は、速やかに報告書を作成し、職員全体で情報を共有し再発防止に努める。必要に応じて利用者にも報告し重大な事故、怪我につながるように事業所全体で取り組んでいく。

2 虐待、身体拘束について

虐待、身体拘束と思われる事象があった場合は、関係法令及び法人が定める「虐待防止・対応マニュアル」に基づき、迅速かつ適切に対応する。日頃から職員の意識を高め虐待防止に努める。2回/年虐待防止委員会を開催し職員はセルフチェックを行う。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 「地震・風水害対応マニュアル」「災害時事業継続計画」「消防防災計画」に基づき対応し、毎月の防災訓練、年1回の総合防災訓練及び備蓄品の点検を実施する。
- 2 通勤手段として自転車、自動車の利用者がある為、日頃から交通安全に対する意識付けを行う。交通安全教室を開催するなど、道路交通法を守り安全に通勤できるよう努める。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

島田市から借用している設備であるが、利用者がその能力を発揮し作業が円滑にできるように作業場、休憩場所の環境改善を進めていきたい。

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

利用率を上げて収入を安定にして行く。

2 借入金償還計画

特になし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

特になし

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 各関係機関からの福祉体験実習、ボランティアについては障がいの理解や事業所理解を深めていただく機会として捉え、受け入れていく。
- 2 特別支援学校生徒の実習については、将来の進路を決める大切な機会として捉え、受け入れる。
- 3 利用を希望する一般からの実習生については、一般就職するための訓練の場として積極的に受け入れ、利用に繋げる機会とする。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

感染症防止対策として、マスク着用の徹底、時差出勤、時間休憩（食事時間）、勤出時の検温、消毒、来所者に対しても立ち入り時に検温、環境整備として食事場所にアクリル板を設置、施設内の消毒、換気、手洗いうがいの徹底等の対策を継続的に実施し感染対策に努める。

2022（令和4）年度事業計画

就労継続支援B型事業所
ワークセンターコスモス

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標と事業計画
作業効率を改善し工賃の向上と健康面等生活面のサポートをし、利用率の向上を目指す。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
利用者の障がい特性に合った対応を心掛け、意志及び人格を尊重したサービスの提供に努める。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
職員育成（レベルアップのための研修）

B 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者

定員	昨年度の 契約者数	昨年度の 利用率	目標とする 契約者数	開所日数	一日平均	利用率
20名	18名	84.5%	20名	252日	18名	90%

- 2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活 支援員	職業 指導員	事務員	その他	合計
実人数	1名	1名	4名	5名	1名	0	12名
常勤換算	0.2名	1.0名	2.6名	2.2名	0.2名	0	6.2名

- 3 残業と、有休休暇取得に関する計画
(1) 定型業務の残業無し。毎週水曜日はNO残業デイ。臨時の時は状況に応じて指示する。
(2) 取得義務のある有給休暇については計画的に取得できるようにする。

- 4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	利用者ケース検討・ヒヤリ事故報告等
毎月	虐待防止委員会	全員	職員会議内で確認・検討
年3回	法人防災委員会	防火管理者	事業所BCPの検討等
年2回	法人事故防止委員会	施設長	事故・ヒヤリハットの検証
年4回	島田市しごと部会	施設長	市内就労事業所との合同研修

C 利用者の喜びのために工夫したいこと

- 1 朝礼・昼礼・終礼を行い職員と利用者のコミュニケーションをとる。
- 2 毎月、行事を実施する。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
朝礼	理念の継承	4名	「それでも一緒に歩いていく」を拾い読み

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画
(1) 職員会議の際、近況報告等の時間を設け、職員間のコミュニケーションを図る。
(2) コロナ禍ではあるが可能であれば食事会等行う。

3 研修計画

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	年2回	虐待セルフケア チェック	7名	年2回	感染症研修	7名
法人研修	4月	職員全体研修	4名			
施設外研修	年2回	県社協研修	4名			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
週2回	近隣の寺社（普門院）の墓地清掃	職員1名、利用者4名
年3回	島田第2地区民児協交流会	利用者、職員、民児協委員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
春・秋	保護者会	職員・保護者

G 苦情について対策

- 1 苦情の申し立てがあった場合は法人の苦情解決委員会が定める指針に沿って迅速かつ適切な対応をする。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- 1 リスクマネジメントについては、全職員が常に「危機意識」を持ち業務にあたり、利用者への十分な配慮をする。
- 2 虐待防止・対応マニュアルに従い、セルフチェックを定期的に行い、毎月虐待防止委員会を開催する。
- 3 緊急やむを得ない身体拘束を行う必要がある場合は家族に説明し同意書を得る。また、記録を取るとともに毎月の職員会で身体拘束の必要性について話し合う。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 被災時のグループホーム等との連携

J 環境整備に関する計画

- 1 消毒に重きをおいた日常の清掃を行い、作業中の換気を徹底する。エアコンや消防設備等、定期的なメンテナンスは業者に依頼する。
- 2 施設の劣化の早期発見に努め、必要な修繕等を実施する。

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画
経費節減に努め、新規契約者を求める。またコロナ禍でも影響されない内職の開拓。
- 2 借入金償還計画 無し

L 主務官庁との関連

今の時点では、特に無し

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 各種学校の体験学習や福祉体験実習については積極的に受け入れる。
- 2 特別支援学校の実習生については将来の進路を決定する大切な時期という認識の上、受け入れ、指導していく。
- 3 ボランティア等、地域の協力者に支えられていることに感謝し、積極的に受け入れる。

N その他

現地にコスモスの建物を新築する計画であったが、島田市（土地・建物の所有者）との

話し合いの結果、「耐用年数があるので建物の解体は不可」という回答を頂いた。これにより新築計画は断念し、今後のあり方を検討している。

2022（令和4）年度事業計画

就労継続支援B型事業所
ワークセンターなのはな

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画をもって事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標と事業計画
 - (1) 落ち着いた環境整備と円滑な利用者関係の構築。
 - (2) 特性や能力に合わせた作業方法を検討し、経験を重ね、能力向上、工賃アップに繋げる。
 - (3) ボランティア受入れ体制の整備。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
理念の掲示と、毎月の職員会議時にサービス提供指針の読み合わせをすることで、理念に基づいたサービスの提供に努める。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
法人内（SV研修・キャリアアップ要件）外の研修の積極的な受講により、専門性や意識向上を図り、人材育成に繋げる。

B 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者

定員	昨年度の 契約者数	昨年度の 利用率	目標とする 契約者数	開所日数	一日平均	利用率
30名	29人	91.9%	30人	251日	29人	98%

※昨年度実績は1月末までを参考

- 2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援 員	職業指導 員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	8	1	0	11
常勤換算	0.5	0.5	2.0	4.9	0.5	0	8.4

- 3 残業と有休休暇取得に関する計画
 - (1) ノー残業デイを設け、リフレッシュ効果により効率化を図る。
 - (2) 有休取得目標70%（前年度見込み67%）

- 4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 等
	法人防災委員会	松浦直	事業所BCPの検討
各月	しごと部会	西村	島田市内就労関係者会議・研修
	編集委員会	西村	法人機関紙
年2回	事故防止委員会	鈴木	法人内事故ヒヤリハット検討会議

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- (1) 個別支援計画に基づき、行事の際には、社会生活を営む上で必要な知識・常識・文化等を学ぶ場を提供する。
- (2) メリハリのある日課の中で、充実感・満足感を感じられるよう工夫する。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
月1回	理念の継承	全員	会議でサービス提供指針を読み合わせる
	実践計画書評価	正職	進捗状況の確認及び評価
	ケース会議	全員	利用者支援についての検討・共有

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

毎月の会議等の際に職員間親睦の機会を作る（チームビルディングゲーム等）

3 研修計画

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	年2	身体拘束	11	年2	感染症講座	11
	年1	障害特性	11	年2	防災	11
法人研修		SV研修1	1		SV研修2	1
	年1	新年度研修	11			
施設外研修		経理講座	1		応急処置・防火管理	1~2

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者
毎月	横井町清掃作業	職員2名、利用者2~5名
11月	駅南フェスタ	希望者、正職

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内容	参加者
年2回	保護者会	正職、保護者28名

G 苦情について対策

- (1) 苦情申し立てがあった場合は、法人の苦情解決委員会が定める指針に沿って、迅速かつ適切な対応をする。
- (2) 地域との良好な関係構築に努める。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- (1) リスクマネジメントについて、全職員が事故防止に向けて取り組み、業務の改善を図る。
- (2) ヒヤリハット情報を効果的に収集し、事故防止に活用する。
- (3) 虐待・身体拘束については、マニュアルに沿って対応し、職員会議でセルフチェックや検討の機会をもつ。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- (1) マニュアルや消防計画に沿い、訓練を行い災害に備える。（臨機応変に行動できるような訓練方法）罹災時には、災害時事業計画に則り事業を復興する。
- (2) 毎日の自主点検、月1回の防災パトロールにおいて、危険箇所をチェックする。年2回の消防点検を実施する。
- (3) 感染症拡大状況をみて地域防災訓練へ参加する。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

- (1) 過ごしやすい環境を整えるため、男性用トイレの増築を行う。
- (2) 地域住民に愛される施設を目指し、建物周囲の清掃に努める。
- (3) 整理整頓を心掛け、安心安全な環境を作る。

K 収支、並びに、借入金返済計画

1

- (1) 環境整備目的の基本財産（トイレ増設・改築）の支出増加のため、日々の事業内容を改善、見直しをしていく。
- (2) 教育指導費を活用し、能力向上や社会生活に必要な知識、常識、文化を学ぶ機会の提供を充実させる。

2 借入金償還計画

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2017/5/1	0.5	25年	静岡銀行	78,000,000	15,340,000	62,660,000

* 利息¥4,797,961 含 総額¥82,797,861

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

特になし

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- (1) 各種学校の体験学習や福祉体験実習については積極的に受け入れる。
- (2) 特別支援学校の実習生については、将来の進路決定に大切な期間であるため、積極的に受け入れ、指導・評価する。

実習生：島田市立看護専門学校生 13名（前年度 12名）
清流館高校 2名（2名）各特別支援学校生 4名（4名）

N その他

各災害ハザードマップやマニュアルを整備し、研修等行うことで災害時に備えた体制作りをする。

2022（令和4）年度事業計画

就労継続支援B型事業所
ワークセンターあさがお

私たちは、牧ノ原やまぼと学園の理念に基づき、次のような計画を立てて事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標と事業計画
 - (1) 心理的安全性が確保された職場環境でチームとしての力を育てる。
 - (2) 感染症対策の見直しと感染症BCP、その他必要なマニュアルの作成。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 法人が掲げる「サービス提供指針」に則り、すべてのサービスを提供する。
 - (2) 50周年記念誌「それでも一緒に歩いていく」を活用した施設内研修の実施。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 人材育成として個々のキャリアに応じた研修受講により専門性を高める。
 - (2) 地域貢献事業として2つのことを計画している。E に記す

B 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者

定員	昨年度の 契約者数	昨年度の 利用率	目標 契約者数	開所日数	平均	利用率
20人	20人	91.6%	21人	252日	19人	95%

※昨年度実績は1月末までを参考

- 2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	6	1	1	11
常勤換算	0.5	0.5	2	3.05	1	0.45	7.5

- 3 残業と、有休休暇取得に関する計画

- (1) 残業0を目標に業務を効率よく進め、必要に応じて業務の分担を行う。
- (2) 勤務予定変更は前月20日までに申し出て、有給休暇の計画的な取得を心掛ける。

- 4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全職員	各種報告事項、ケース検討、研修報告等
	法人各委員会	担当者	法人招集に応じて出席
	虐待防止委員会	全職員	職員会議の日に開催（2回/年）
毎月	作業就労部会	施設長	各種報告と検討 情報共有
隔月	自立支援協議会	施設長	しごと部会にて地域課題の抽出

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- (1) 毎月、目的を明確にした行事を企画し、実施する。
- (2) 昼休み等見守り職員を適切に配置し休み時間の過ごし方の提案と支援に力を注ぐ。
- (3) 作業を通して達成感を感じ、働く喜びにつながる支援を目指す。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
偶数月	一緒に歩いていく	全員	理念の継承（職員会議）
1回/年	事業所研修	全員	事業所独自のテーマでの1日研修
未定	専門分野研修	全員	法人内外部の研修に参加

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) お互いを認め合い、キャリアの共有ができる機会を持つ。
- (2) 意見や提案を遠慮なく誰もが言える職場環境作りに努める。

3 研修計画

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	8月	身体拘束・虐待研修	全員	未定	感染症講座	全員
	10月	テーマ未定	全員			
法人研修	4/2	新年度研修	全員		SV研修	
	未定	管理者研修				
施設外研修	随時	専門性の向上	各1名			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者
毎週	島田市公認しまトレの実施（あさがお主催）	地域住民・参加希望利用者
年2回	初倉地区民生委員交流会	地区民生委員・利用者・職員
随時	高齢障害者の居場所作り事業	65歳以上の高齢障害者対象

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内容	参加者
2回	保護者連絡会	保護者・常勤職員
2回	個別支援計画見直しの為のモニタリング	サビ管・施設長
随時	必要に応じた面談等	担当者

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

- (1) 地域を含めた関係者との良好な関係の構築に努める。
- (2) 利用者や保護者も含め、声にならない意見や苦情、またはアンケート等の実施より課題の抽出に努める。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策（できるだけ項目別に記す）

- (1) ヒヤリハットを常に意識し、重大事故につながらないように努める
- (2) 心理的安全性が保障されたチーム作りにより、虐待が起き難い環境作りに努める

項目	前年度件数	詳細
事故	1	行事参加のボランティアの怪我
ヒヤリハット	15	作業室・トイレ・給湯室等で発生・出向先の垂穂寮3件
虐待	0	なし

※前年度実績は1月末までを参考

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- (1) 自然災害、火災、不審者侵入、感染症等、それぞれ違う想定での訓練の実施
- (2) 各BCPの見直しと作成

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支、並びに、借入金返済計画

- (1) 収支 利用率の向上による収入の安定と増収、経費節減に努める
- (2) 借入金はなし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

なし

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- (1) 実習生やボランティアについては積極的に受け入れ地域に開かれた施設を目指す。
- (2) ボランティアの受け入れに際しては、育成も含めて良い関係づくりに努める。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

なし

2022（令和4）年度事業計画

就労継続支援B型事業所
ワークセンター希望の家

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標と事業計画
定員割れをしている現状を踏まえ、新規利用者の利用に向けて、実習生の受け入れを促進していく。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
牧ノ原やまばと学園「サービス提供指針」に基づいたサービスの提供を行う。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
計画的な研修を受講推進する事し、さらに受講した内容を職員会議で全職員へアウトプットすることで、個々の職員育成に努めていきたい。

B 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者

定員	昨年度の契約者数	昨年度の利用率	目標とする利用者数	開所日数見込み	一日平均見込み	利用率見込み
20	16	71.7%	20	252	17	80%

※昨年度実績は1月末までを参考

- 2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	4	3	1		10
常勤換算	0.125	0.5	3.0	2.15	0.125		5.9

- 3 残業と、有給休暇取得に関する計画
定型業務での残業はなくし、基本的に定時で退勤することを目標とする。
有給休暇取得については計画的に取得し、いつだれが休んでもよい体制作りに努める。

- 4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 等
	法人防災委員会	伊藤	事業所BCPの検討
	苦情解決委員会	高松	苦情の振り返り
	事故防止委員会	高松	事故ヒヤリハットの振り返り
	自立支援協議会	高松	島田市就労継続支援について課題検討

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

生産活動については、企業からの下請け作業に取り組む機会を提供し、任された仕事に対して責任を持って果たせるよう、指導訓練を行い、必要に応じて個別指導していく。
就労支援については、希望者のために企業との交渉やハロワークへの付き添いに協力するなど、就職活動を支援していく。
相談及び援助については、年2回モニタリングを行い、また必要に応じて個々に面談を行い、サービス管理責任者が作成した個別支援計画に基づき、計画相談員や市福祉課等と協力して支援を行っていく。
健康管理については、年2回の健康診断、歯磨き教室（歯科医、歯科衛生士を招く）、予防接種、毎月の体重血圧測定、日常生活衛生面の支援を行う。

利用者の社会性の向上やチームワーク形成、所属意識の形成に必要な行事を行う。

4月6月9月11月：ポッチャ大会 5月：家族に感謝の日 8月：夏祭り

10月：ハロウィン 12月：クリスマス会 2月：バレンタイン 3月：買い物訓練

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画
理念の継承を共通目標として掲げ、職員会議等で聖書や50周年記念誌を輪読し、やまばとの理念を深めていきたい。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画
『報告、連絡、相談』を日常的に行い、風通しの良いチームを形成する事で、職員全員が働きやすい環境を創る。日常や会議時において、お互いの意見を否定的態度で聞くのではなく、受容し、お互いの合意形成のもと、決定していきたい。

3 研修計画

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	毎月	会議での研修報告	全員		島田市権利擁護研修	
			4			
法人研修	4/2	職員全体研修	3			
		施設長研修	1			
施設外研修		静岡県社協研修	9件		中央福祉学院	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者
	金谷地区社会福祉協議会ぼれぼれ祭り	職員1名、
	金谷地区社協絆フェスタ maru	職員1名
	にこにこクリーン大作戦（清掃）	職員1名、利用者3名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内容	参加者
年2回	保護者会	職員2名、保護者15名

G 苦情について対策

前年度苦情なし。苦情申し立てがあった場合は法人の苦情解決委員会が定める指針に沿って迅速かつ適切な対応をする。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

前年度報告 事故1件 ヒヤリハット5件 虐待0件 身体拘束1件

リスクマネジメントについては職員会議にてマニュアルの読み合わせを行い、全職員が事故防止に取り組み、業務の改善を図る。

虐待については、毎月虐待防止委員会を開催し、支援の見直しを検討する。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

防火管理者変更2年目となり、備品管理等の職務内容やマニュアルの見直しを改めて行う。今年度は希望の家として初となる引き渡し訓練を行う予定。

J 環境整備に関する計画

事務所パソコン2台更新予定。また定期的な全館清掃を行い、日常的に建物の老朽化を早期に発見し、対応する。

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画

登録者人数が 20 名中 18 名と障害福祉サービス訓練等給付費収入を上げる事が計画の柱

- 2 借入金償還計画
なし

L. 主務官庁との関連

今の時点では特になし

M. 実習生やボランティアに関する見込みや計画

特別支援学校生徒や一般在宅障害者の実習を積極的に受け入れる。
障害者を理解して頂く為に、ボランティアの受け入れを積極的に行う。

N. その他

赤い羽根共同募金で 2023 年度購入予定の送迎車の申請を行う予定

2022（令和4）年度事業計画

就労継続支援B型事業所
ワークセンターふれあい

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標と事業計画
快適な環境整備を行い、ご利用者職員が過ごしやすい事業所作りを行う。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
牧ノ原やまばと学園「サービス提供指針」に基づいたサービスの提供を行う。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
計画的な研修を受講推進し、さらに受講した内容を職員会議で全職員へアウトプットすることで、個々の職員育成に努めていきたい。

B 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者

定員	昨年度の 契約者数	昨年度の 利用率	目標とする 利用者数	開所日数 見込み	一日平均 見込み	利用率 見込み
20	13	58.5%	14	252	12	60%

※昨年度実績は1月末までを参考

- 2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援 員	職業指導 員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	2	1		6
常勤換算	0.125	0.5	1.875	1.3	0.125		3.925

- 3 残業と、有休休暇取得に関する計画
定型業務での残業はなくし、基本的に定時で退勤することを目標とする。
有給休暇取得については計画的に取得し、いつだれが休んでもよい体制作りを努める。

- 4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討 等
8/15	法人防災委員会	伊藤	事業所BCPの検討
	苦情解決委員会	松田	苦情の振り返り
8/25	事故防止委員会	松田	事故ヒヤリハットの振り返り

C 利用者の喜びのために工夫したいこと

生産活動については、企業からの下請け作業に取り組む機会を提供し、任された仕事に対して責任を持って果たせるよう、指導訓練を行い、必要に応じて個別指導していく。
就労支援については、希望者のために企業との交渉やハロワークへの付き添いに協力するなど、就職活動を支援していく。
相談及び援助については、年2回モニタリングを行い、また必要に応じて個々に面談を行い、サービス管理責任者が作成した個別支援計画に基づき、計画相談員や市福祉課等と協力して支援を行っていく。
健康管理については、年2回の健康診断、歯磨き教室（歯科医、歯科衛生士を招く）、予防接種、毎月の体重血圧測定、日常生活衛生面の支援を行う。

利用者の社会性の向上やチームワーク形成、所属意識の形成に必要な行事を行う。
 5月：家族に感謝の日 8月：七夕 10月：ハロウィン 12月：クリスマス会
 1月：新年会 2月：バレンタイン

D. 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画
 理念の継承を共通目標として掲げ、職員会議等で聖書や50周年記念誌を輪読し、やまばと理念を深めていきたい。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画
 『報告、連絡、相談』を日常的に行い、風通しの良いチームを形成する事で、職員全員が働きやすい環境を創る。日常や会議時において、お互いの意見を否定的態度で聞くのではなく、受容し、お互いの合意形成のもと、決定していきたい。

3 研修計画

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	毎月	会議での研修報告	全員			
法人研修	4/2	職員全体研修	2			
施設外研修		静岡県社協研修	5件			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者
	島田市立川根小学校との交流	職員2名、利用者14名
	地域に感謝の日	職員3名、利用者5名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内容	参加者
年5回	保護者会	職員2名、保護者14名

G 苦情について対策

前年度苦情なし。苦情申し立てがあった場合は、法人の苦情解決委員会が定める指針に沿って迅速かつ適切な対応をする。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(前年度の件数などを記して、目標件数ゼロとしても良い。)
 前年度報告 事故1件 ヒヤリハット2件 虐待0件 身体拘束0件
 リスクマネジメントについては職員会議にてマニュアルの読み合わせを行い、全職員が事故防止に取り組み、業務の改善を図る。
 虐待については、毎月虐待防止委員会を開催し、支援の見直しを検討する。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

地域防災の日に参加し、地域住民に事業所の存在を周知させたい。
 避難所運営会議が開催されるのであれば、ワークセンターふれあいのご利用者職員が広域避難地域川根小学校に避難することを伝えたい。

J 環境整備に関する計画

本体躯体鉄骨柱四隅部分が経年劣化により、錆化進んでいるため、塗替え工事を行う。また定期的な全館清掃を行い、日常的に建物の老朽化を早期に発見し、対応する。

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画
ご利用者を支援する中で、ふれあいに行きたいと思う事業所作りや支援体制を作り、利用率を安定させることで、事業を運営していきたい。
- 2 借入金償還計画
なし

L. 主務官庁との関連

今の時点では特になし

M. 実習生やボランティアに関する見込みや計画

特別支援学校生徒や一般在宅障害者の実習を積極的に受け入れる。
障害者を理解して頂く為に、ボランティアの受け入れを積極的に行う。

N. その他

2022（令和4）年度 事業計画

就労継続支援B型事業所
ワークセンターやまばと

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画をもって事業所をおこないます。

A 2022年度の目標と主要な計画

1 事業所の目標と事業計画

- (1) 工賃アップを目指す。
 - ① パンやお菓子の販路開拓、対面式以外での販売方法を検討し、売り上げ向上並びに工賃向上を目指す。また、利用者の能力やストレングスを把握し、新しい仕事を提供することで、質と量の向上を目指す。
- (2) 作業マニュアル（自主・受託）の作成。
 - ① 作業工程の標準化を検討し、マニュアルを作成する。また、定期的に評価・改善する事で作業工程をスマート化し、スムーズに取り組める様に努める。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画

- (1) 牧ノ原やまばと学園の理念、サービス提供指針、並びに法令に則って、利用者ひとりひとりがかけがえのない存在として重んじ、常に利用者の立場に立ったサービスを提供するように努め、個別に必要な支援を提供していく。
- (2) 質の高いサービスを提供するために、職員の専門性向上と精神的成長のための最大限の配慮をする。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

(1) 職員育成

- ① 積極的な研修への参加を計画し、職員のスキルアップを目指す。
- ② 施設内研修で権利擁護や意思決定支援、自閉症等を学び、職員の専門的知識の向上を目指す。

(2) 地域との関連

- ① コロナ関係でイベント等が中止になり、対面式販売が出来なくなってきているため、車での移動式販売を積極的に取り組む。
- ② 地域との結びつきを重視し、地域の社会資源活用に努め、市町村、支援学校、障碍福祉サービス事業所との連携を図る。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年度の契約者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	一日平均	利用率
20	19→20*	94.3%	21	252日	19人	95%

*2021年8月までは19名の契約で、9月より1名契約され20名となる。

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	3	3	1	0	9
常勤換算	0.5	0.5	2.37	2.75	0.5	0	6.62

* 施設長とサビ管が兼務。生活支援員1名と事務員が兼務。

3 残業と、有休休暇取得に関する計画

- (1) 年間5日の取得義務で有休を消化して頂く。他の有休取得は随時有休がとれるように取得率を確認しながら声掛けを行っていく。
- (2) 残業時間削減のため、職員配置や業務改善に努める。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内 容
毎月	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・ケース検討 勉強会等
年3回	法人防災委員会	田澤(鈴木)	事業所BCPの検討、全体防災訓練 等
年6回	自立支援協議会	田澤	地域課題の検討 等
年2回	苦情解決委員会	田澤	各事業所の苦情に関する検討 等
年2回	事故防止委員会	柚原	各事業所の事故・ヒヤリハットに関する検討 等

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 毎月、出来るだけご利用者のリフレッシュのためにイベント（行事）を企画する。
（旅行、ハイキング、調理実習、音楽教室、地域交流等）
- 2 仕事に対する喜びや自信をつける為に、マンネリ化した仕事だけではなく、新しい仕事に挑戦して行ける様に提供していく。

D. 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
会議時	理念の継承	全員	会議でサービス提供指針を読み合わせる
9/9	実践計画書評価	サビ管等	進捗状況の確認及び評価

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 一つの課題に関して、職員全体で取り組むようにする。KJ法やブレスト等の会議手法を用いる事で、職員一人一人が意見を持って取り組めるような環境を設定する。
- (2) コロナの状況等に配慮しながら、年に2回の会食を実施する。

3 研修計画

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	5/13	権利擁護・虐待	全員	11/11	感染症研修	全員
	8/12	障害特性の理解	全員			
法人研修	4/2	新年度研修	全員	未定	施設長研修	1
	未定	主任等研修	1			
施設外研修	6月頃	相談支援従事者研修	1	未定	サビ管基礎研修	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
未定	ドリームまきのほら	職員2名、利用者2名
9月	泰善寺でのパン販売	職員2名、利用者2名
11月	特別支援学校行事参加（もえぎ祭り）	職員2名、利用者3名
2月	牧之原社会福祉大会参加	職員2名、利用者2名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
5/13	保護者会	職員3名、保護者15名
7/16	流しそうめん（行事）	職員8名、保護者15名
2/24	保護者会	職員2名、保護者15名

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

- 1 苦情申し立てがあった場合には法人の「苦情解決委員会」が定める指針に沿って迅速かつ適切な対応をする。

- 2 リスクマネジメントについては、全職員が事故防止に向けて取り組み業務の改善を図る。
- 3 「虐待防止対応マニュアル」に従い、セルフチェックを定期的に行い、虐待防止委員会を開催する。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

前年度 事故報告 5 件 ヒヤリハット報告 5 件 虐待 0 件 身体拘束 0 件

- 1 他害による事故は、職員配置や見守り等を強化する。また、障害特性の理解・権利擁護等の勉強会を開き、虐待・身体拘束等の理解を深める。
- 2 転倒等に関しては、職場環境を見直す。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 月 1 回の防災訓練は、感染症の状況もあり、毎月実施する事が出来なかった。毎月の実施を目標に、感染症対策をしつつ防災訓練に取り組めるような流れを作る。
- 2 防災マニュアル・ハザードマップ・BCP の見直しと改善を行う。

J 環境整備に関する計画（100 万円以上の修繕や改装など）

- 1 特になし

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画
(どんな面を維持したいか、改善したいか、何に焦点を向けるかなど。)
(1) サービス費は変動がないが、就労の収入である下請の解体作業は、頂ける仕事が少なくなってきたため、減少傾向にある。工賃の維持や向上を目指しているため、他の下請作業を増やすか、下請けの幅を広げるかを考えていきたい。自主製品のパンやお菓子は材料費の高騰のため、価格を上げて様子を見る。
- 2 借入金償還計画
(1) 特になし。

L. 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

- 1 今の時点では特になし。

M. 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- 1 感染症の関係でボランティアの受け入れは未定だが、障害の理解や事業所を知って頂く機会として捉え、積極的に受け入れていく。
- 2 吉田特別支援学校・清流館高校の実習受け入れは将来の進路を決定したり、交流における大切な機関であるという認識を持ち、積極的に行っていく。また、他の実習に関しても、今の時点では未定だが、積極的に受け入れていく

N. その他

- 1 ハザードマップの収集と利用者や保護者並びに職員への周知を徹底する。
- 2 感染症に対する対応。(感染症マニュアルの見直し、個室隔離場所の確保・ゾーニング)

2022（令和4）年度事業計画

就労支援継続B型事業所
ワークセンターさくら

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画に沿って事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

1 事業所の目標と事業計画

- (1) 一人一人の作業の幅を広げ、能力の向上を図る。
作業工程の細分化を進め、作業能力評価表に基づき能力の把握をすると共に、各ご利用者に合った作業の提供を行うことで作業工賃向上と能力の向上に繋げていく。
- (2) サービスの質の向上を目指す。
毎月のケース会議にて個別支援計画の実施状況の確認及び見直しを実施。全職員がご利用者の強みに着目できるような視点で共通認識を持ち、就労継続支援B型サービスの質の向上に努める。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画

- (1) ご利用者が自信や喜びを持ち、自分らしい生活を送る。
法人の職員としてサービス提供指針を学び、ご利用者一人ひとりをかけがえのない存在として支えていく。
- (2) 働くことを通して能力や長所を引き出し、自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう支援する。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

- (1) 職員育成について
法人全体研修や、主任等研修、階級や職務毎に合わせた研修の受講及び、国家資格取得に向けた資格取得制度を利用し、職員一人ひとりのスキルアップを目指す。
- (2) 地域との繋がりを大切にする。
コロナ感染状況をみながら近隣の学校との交流を検討する。（行事への招待や障害体験等）

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年の登録者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	一日平均	利用率
20名	23人	90.8%	24人	252日	19人	95%

※昨年度実績は1月末までを参考

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	1	3	1	0	7
常勤換算	0.2	1.0	1.0	3.0	0.5	0	5.7

3 残業有給休暇取得に関する計画

- (1) 時間外勤務（残業）について
職員が家庭で、家族と共に過ごせる時間を増やすため、時間外勤務は極力行わない。
業務の都合上、どうしても必要な場合は事前に所属長に申し出て許可を得てから行う。
- (2) 有給休暇取得について
法人の一般事業主行動計画に則り、消化率60%以上を目指す。
取得の促進により、育児や子育て等に家族と協力して取り組めるよう配慮する。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内 容
毎月	職員会議	全員	前月の振返り（利用者・作業等）行事計画等
毎月	ケース会議	全員	利用者ケース検討、個別支援計画進捗状況等
毎月	防災会議	大須賀	防災訓練実施報告、改善検討、次回計画 等
毎月	あつまりーナ全体会議	正職員	各事業所の報告（利用者・事故ヒヤリ・虐待・防災）事務連絡
毎月	感染対策委員会	植野	感染症情報の収集と伝達、薬品等の確認
年2回	法人苦情解決委員会	植野	各事業所の苦情に関する検討
年2回	法人事故防止委員会	大須賀	各事業所の事故・ヒヤリに関する検討
年2回	法人防災会議	大須賀	事業所BCPの検討、全体防災訓練の計画等
年2回	吉田町福祉推進委員会	河本	町障害福祉計画、地域生活支援拠点説明

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- (1) 日々の作業の中で、ご利用者の強みに着目し、できる事を増やすために挑戦して頂く機会を提供し、達成感や自信、喜びに繋げる。（新しい作業に挑戦）
- (2) 施設内行事や、コロナ終息時には施設外活動も取り入れ、社会や仲間との繋がりを持つ機会を提供する。（運動・創作・レクリエーション等）

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画
毎月の職員会議にて、自己表現力の向上を目的に自由に意見発表をする機会を設ける。
- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画
あつまりーナ職員の誕生日を共に祝う。
メッセージボードの設置、プレゼントを贈る（レタスの活動の一環として）

3 研修計画

種別	内 容	内 容
施設内	サービス提供指針	障害特性（WEB）
法人研修	法人全体研修	施設長研修
	主任等研修	
施設外	防災研修	コミュニケーション研修
	感染症対策研修	

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
4月	側溝の掃除	職員・利用者
8月	あつまりーナ夏祭り招待	職員・利用者・地域の方
10月	ふれあい広場	職員・利用者

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
年2回	保護者会	職員・保護者
年数回	あつまりーナ行事への招待	家族
年6回	さくらだより配布	

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

- (1) ご利用者に対する職員目線の視点や、障がい特性の不十分な理解による対応への改善要望があった、施設内研修を通し、再度サービス提供について周知し、資質向上に努める。
※苦情申し立てがあった場合には、法人の定める指針に沿って迅速かつ適切な対応をする。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

(1) 事故

- ・情緒の乱れによる事故については、ご家族の意向に耳を傾けながらも施設での様子等を説明し、医療機関との繋がりをつくり、情報共有を通し連携を図る。
- ・施設内での事故を職員会議及び、あつまりーナ全体会で共有し見守り体制を強化する。

(2) ヒヤリハット

- ・ヒヤリをあげることが事故防止に繋がるという意識を持ち、重要性の再認識を図る。

(3) 虐待・身体拘束

- ・施設が定める「虐待防止・対応マニュアル」に則り対応する。
- 「虐待防止・職員セルフチェックリスト」を使用し、月1回振り返りの機会を持つ。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

(1) 「地震・津波・緊急対応マニュアル」「災害時事業継続計画書（BCP）」「消防計画書」に則り訓練を行い災害に備える。

- ・避難経路の確保を継続するために作業室内の整理整頓に心掛ける。
- ・災害時に出口の開閉等、職員の動きについて再度訓練を行いたい。

(2) 毎日の防災自主点検及び、定期点検（1・3・6ヶ月毎）時に器具及び避難経路の点検を行い、危険個所の有無をチェックする。

(3) その他、BCPの見直しと、BCPに沿った訓練を実施したい。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

なし

※建物内部の雨漏り、外壁の汚れについては吉田町に報告済である。

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

ご利用者減による、サービス等事業収入の見込み額が減少している。
近隣に同業者が増加し、新しい利用者の獲得に困難を極めている状況である。また、館内他事業（地域活動支援センター）の赤字部分の補填も行っている。
「魅力ある施設」になり、選んでいただける事業所になるように努力をしていくと共に、支出を精査し経費の削減に努め、吉田町の指定管理事業者として運営の安定を図りたい。

2 借入金償還計画

なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

7月、吉田町総合障害者自立支援施設運営委員会にて、前年度の事業報告及び今年度の事業計画・予算について説明を行う。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- ・実習生については、県内大学保育学部、近隣高校福祉課より実習依頼がある。
- ・ボランティアについては、障害への理解促進や共に地域で生活するご利用者を知って頂く機会とする。

※コロナ感染状況を見ながら積極的に受け入れていきたい。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- 1 感染症対策として、感染症対策委員会の活動を充実させる。
感染症BCPの作成等、独立した活動を推進する。
- 2 建物立地から予想される災害（津波・洪水）について、ハザードマップを基に避難経路の見直しを図る。

2022（令和4）年度事業計画

生活介護事業所
ケアセンターマーガレット

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画をもって事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標と事業計画
ご利用者の「本当の気持ち」に着目し、住み慣れた地域の中で安心して暮らせるように必要なサービスの提供に努める。
(1) 現在のプログラムの内容を皆で再検討し、達成感や喜びを感じられるような作業や創作活動、リフレッシュ活動等の充実を図る。
(2) 活動環境と所有品の整理
所有物の仕分けや整理を行い、活動しやすい環境整備（安全で安心な環境）を図る。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
支援者は、個々の障害特性を理解し「本当の気持ち」を模索し、寄り添い、安心感を分かち合いながら共に成長していきたい。
計画：毎月のケース会議の中で支援者一人一人が、ご利用者の気持ちに寄り添った発言に心がけ、発言のあらゆる視点を認め合う。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
(1) 職員育成について
 - ・ 個々の育成：職員が自ら学びたい意識と、組織として学んでほしい課題を個々に提供する。
 - ・ チームとしての育成（自己意識がチームの育成に）
組織（マーガレットの組織体制）の共通目標を達成するためにチーム内の役割を担い、互いを認め合うチームでありたい。組織の一員である受け止め方や意識を持てるよう会議等を通じて発信していく。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年度の契約者数	昨年度の利用率	目標とする契約者数	開所日数	一日平均	利用率
20名	21人	82.5%	22人	250日	18人	90%

※昨年度実績は1月末までを参考

2 区分による利用者予想

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	5	8	4	5

3 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	事務員	看護師	その他	合計
実人数	1	1	10	1	1	0	14
常勤換算	0.5	0.5	6.0	0.5	0.1	0	7.6

4 残業と有給休暇取得に関する計画

- (1) 時間外勤務（残業）について
職員が家庭で、家族と共に過ごせる時間を増やすため、時間外勤務は極力行わない。
業務の都合上、どうしても必要な場合は事前に所属長に申し出て許可を得てから行う。
- (2) 有給休暇取得について
法人の一般事業主行動計画に則り、消化率60%以上を目指す。
取得の促進により、育児や子育て等に家族と協力して取り組めるよう配慮する。

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内 容
毎 月	職員会議	全員	行事計画、ケース会報告・ヒヤリ事故報告等
毎 月	ケース会議	全員	利用者ケース確認事項・検討事項
毎 月	あつまりーナ全体会議	正職員	各事業所の報告（利用者・事故ヒヤリ・虐待・防災）事務連絡
毎 月	防災会議	杉本	防災訓練の実施報告と振り返り
毎 月	感染対策委員会	杉本	感染症情報の収集と伝達、薬品等の確認
年2回	法人防災委員会	大須賀	事業所 BCP の検討
年2回	法人苦情解決委員会	河原崎	各事業所の苦情に関する検討
年2回	法人事故防止委員会	河原崎	各事業所の事故・ヒヤリに関する検討

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- (1) 活動の中で、気分よく緊張せずに、本当に自分がしたい過ごし方を一緒に探していく。
（日課の中で自分らしく行える活動を提供）
- (2) 活動で得た充実感や達成感がわかり合えるようにしていく。（発表の機会や達成表等）
- (3) 家庭でなかなかできない体験を経験にしていく。
 - ・エンジョイプラン 年に1回、一日外出で心身のリフレッシュを図る。
 - ・お楽しみメニュー 月に1回、個別支援としてご本人が望む活動をマンツーマン及び小人数にて提供する。
 - ・お楽しみ 外 出 月に1回、公園等に外出し好きな飲み物を購入する体験を行う。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎 月	サービス提供指針	全職員	職員会議にて第1章から読み合わせと理解

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 「アイデアを否定しない」「アイデアも受け入れる」「質よりも量」「組み合わせと改善」を意識していく。〈ブレインストーミングを意識して〉
- (2) お互いがお互いを支え、聞く姿勢、聞ける姿勢を持てる機会を設ける。
 - ・毎月フリートークの時間を設定し、気持ちよく発言できる機会を設ける
 - ・隔月職員会議終了後、お互いの良いところを認め言い合える機会を設ける
- (3) あつまりーナ職員の誕生日を共に祝う。
メッセージボードの設置、プレゼントを贈る（レタスの活動の一環として）

- 3 研修計画

種別	内 容	内 容
施設内	相談支援の業務とは	
法人	施設長研修	主任等研修
	法人全体研修	
施設外	日本知的障害者 オンライン研修	接遇・マナー・コミュニケーション
	共感を得る「言葉」	

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
4 月	側溝の掃除	職員数名
8 月	あつまりーナ合同夏祭り招待	近隣住民・家族・利用者・職員
10 月	ふれあい広場	近隣住民・家族・利用者・職員
12 月	あつまりーナ合同クリスマス会招待	近隣住民・家族・利用者・職員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
4 月	保護者会	家族（後見人）・職員
	あつまりーナ行事への招待	関係機関・家族（後見人）・職員
毎月	マーガレットだより発行	関係機関・家族（後見人）

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

- (1) 祝日営業日の利用時間を平日と同じにして欲しい旨の要望があったので、ご利用者の生活リズムの安定と家族支援の両立を図る為、今年度は一日営業とする。
- (2) コロナ感染の疑いのある方への対応情報を速やかに連絡して欲しいと関係機関から要望があった為、関係機関及び家族へ迅速に提供し、感染の拡大を未然に防ぐ努力を行う。
※申し立てがあった場合には、法人の定める指針に沿って迅速かつ適切な対応をする。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- (1) 事故：15件（前年度）
利用者関係からのトラブルが事故発生に繋がる。交友関係や季節による不安定な時期を把握し、常に活動場所や配置場所に気を付け事故を未然に防ぐ対策を試みていく。
- (2) ヒヤリハット：7件（前年度）
ヒヤリは支援者の目が届かないところで突発的に起こる。些細な事でも、ヒヤリに気付くことで事故防止に繋がる。まずヒヤリを挙げる事の重要性の再認識を図っていく。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- (1) 「地震・津波・風水害・緊急時対応マニュアル」「災害時事業継続計画書」「消防計画書」に則り訓練を行い災害に備える。
- (2) 毎日の防犯自主点検に加え、定期的（1ヶ月・3ヶ月・6ヶ月）に器具及び避難経路の点検を行い危険個所の有無をチェックする。
- (3) 毎月1回、あつまりーナ全体で防災訓練を実施、火災・地震・津波の発生時、速且つ安全に全員が避難することが出来るよう備える。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

なし ※建物内部の雨漏り、外壁の汚れについては吉田町に報告済である。

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
ご利用者の体調不良等により、利用日数が減少していることから、サービス等事業収入が減少している。また、館内他事業（地域活動支援センター）の赤字部分の補填も行っている。昨年度は新型コロナウイルス感染による休業もあり、前年同期を大幅に下回った。安定した事業運営を継続していくためには更に「魅力ある施設」になり、選んでいただける事業所になるように努めていかななくてはならない。
- 2 借入金償還計画
なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

7月、吉田町総合障害者自立支援施設運営委員会にて、前年度の事業報告及び今年度の事業計画・予算について説明を行う。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- (1) 各種学校の体験学習や福祉体験実習については積極的に受け入れる。
- (2) 特別支援学校の実習生については、将来の進路を決める大切な期間であるとの認識を持ち、適切な支援をしていく。
- (3) ボランティアの受け入れを通し、障害への理解促進や共に地域で生活するご利用者を知って頂く機会とする。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- 1 感染症対策として、感染症対策委員会の活動を充実させる。
感染症BCPの作成等、独立した活動を推進する。
- 2 建物立地から予想される災害（津波・洪水）について、ハザードマップを基に避難経路の見直しを図る。

2022（令和4）年度事業計画

地域活動支援センター
レタスクラブ

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画をもって事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標と事業計画
 - (1) ご利用者が安心して利用できる環境を用意する。
 - (2) 人との関わりを広げていくためにグループワーク等を通して学ぶ。
 - (3) 関係機関と連携しながら進めて行く。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) ご利用者が主体的に生きていくために、人権を尊重し、自発的な活動を支援する。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 職員育成・チームワーク
良いところを認め合い、共に成長していきたい。
活動後のフィードバックを基に、対人援助のための勉強会の機会を持つ。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年度の 契約者数	開所日数	一日平均	利用率
—	23人	242日	7人	30%

※昨年度実績は1月末までを参考

2 職員配置予定

	施設長	生活 支援員	事務員	その他	合計
実人数	1	3	1	0	5
常勤換算	0.0	1.7	0.1	0	1.8

3 残業と有給休暇取得に関する計画

- (1) 時間外勤務（残業）について
職員が家庭で、家族と共に過ごせる時間を増やすため、時間外勤務は極力行わない。
業務の都合上、どうしても必要な場合は、事前に所属長に申し出て許可を得てから行う。
- (2) 有給休暇取得について
法人の一般事業主行動計画に則り、消化率60%以上を目指す。
取得の促進により、育児や子育て等に家族と協力して取り組めるよう配慮する。
また、リフレッシュの為に連続した取得も促進していく。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	職員会議	全員	前月の振り返り、ケース検討、行事計画等
毎月	あつまリーナ全体会	藤原	事故・ヒヤリ・虐待・苦情、ご利用者の状況、防災、事務報告
毎月	感染対策委員会	藤原	感染症情報の収集と伝達、薬品等の確認
毎月	防災会議	河本	館内防災訓練の報告、改善策の検討、次回計画
年2回	法人防災委員会	河本	事業所BCPの検討、全体防災訓練の計画等
年2回	苦情解決委員会	河本	各事業所の苦情に関する検討
年2回	事故防止委員会	藤原	各事業所の自己・ヒヤリハットに関する検討

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 創造的活動（活動を通して心身の安定を図ることを目的とする）
- 2 グループワーク（障害や病気について、人との関わり方、日常の過ごし方）
- 3 その他、月毎の日課（ランチ作り、農作業等）を共に行い、親睦を深める

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎朝	理念の継承	全員	サービス提供指針の読み合わせ

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 農作業での収穫物を使ってランチ作りをする。
- (2) あつまリーナ職員の誕生日を共に祝う。
メッセージボードの設置、プレゼントづくり（焼き菓子を予定）

- 3 研修計画

種別	内 容	内 容
施設内	防災研修	対人援助研修
法人	4/2 全体研修	施設長研修
	主任等研修	
施設外	感染症研修	コミュニケーション研修

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
不定期	湯日川土手ゴミ拾い	利用者・職員
不定期	住吉海岸清掃	利用者・職員
10月	ふれあい広場参加	利用者・職員
毎月	レタス便り配布（公共機関・病院等）	利用者・職員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
通年	クリスマス会・バーベキュー等に家族参加を呼び掛ける	利用者・家族・職員

G 苦情について対策

前年度、苦情は無かったが、申し立てがあった場合には、法人の定める指針に沿って迅速かつ適切な対応をする。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

前年度（事故・ヒヤリ・虐待・身体拘束 0件）
施設が定める「虐待防止・対応マニュアル」に則り対応する。
「虐待防止・職員セルフチェックリスト」を使用し、月1回振り返りの機会を持つ。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 「地震・津波・風水害・緊急対応マニュアル」「災害時事業継続計画書（BCP）」「消防計画書」に則り訓練を行い災害に備える。
- 2 毎日の防災自主点検、及び定期点検（1ヶ月・3ヶ月、6ヶ月）時に器具及び避難経路の点検を行い、危険個所の有無をチェックする。
- 3 その他、BCPの見直しと、BCPに沿った訓練を実施したい。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

なし
※建物内部の雨漏り、外壁の汚れについては吉田町に報告済である。

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

委託費収入以外の収入は無く、人件費や事業費等のすべてを賄うことはできない。
赤字部分を館内他の事業（生活介護・就労継続支援）より補填されている状態が設置以来継続しており、赤字累積額は7百万円強となっている。
精神に障害を持った方々の居場所として重要な資源ではあるが、経営については吉田町と協議を重ねて行く必要があると考えている。

2 借入金償還計画

借入金はなし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

7月、吉田町総合障害者自立支援施設運営委員会にて、前年度の事業報告及び今年度の事業計画・予算について説明を行う。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

新型コロナウイルス感染状況により、受け入れは未定であるが、職員と同じ対策を講じて頂く等、工夫しながら受け入れをしたい。
実習については学生の方々が社会福祉施設を理解して頂くとともに、福祉を担う人材として育成の協力をする。
ボランティアについては、障害への理解促進や、地域の事業所を知って頂く機会とする。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- 1 感染症対策として、感染症対策委員会の活動を充実させる。
感染症BCPの作成等、独立した活動を推進する。
- 2 建物立地から予想される災害（津波・洪水）について、ハザードマップを基に避難経路の見直しを図る。

2022（令和4）年度事業計画

相談支援事業
生活支援センターやまばと

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

1 事業所の目標と事業計画

- (1) 地域生活支援拠点等における事業所の役割を精査し取り組んでいく。（緊急時対応・24時間体制等）
- (2) センター内でのOJT機能を高める取り組みとして事例検討、・伝達研修・外部講師OJT等の機会を持ち、質の向上に努めるとともに、事業展開を見据えた職員育成の継続をしていく。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画

常に利用者の立場に立ったサービスを提供するために取り組んでいく。

(1) 委託相談支援事業

行政と協働し、効率的効果的な協議会運営の検討・実施。
委託相談支援事業における機能・役割整理、効率化を図る。

(2) 計画相談支援事業(サービス等利用計画作成)

相談支援専門員が疲弊しないような環境、業務の効率化・標準化を継続する。
本人中心支援・意思決定支援に基づく、相談支援専門員として質の向上を目指す。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画(人材確保・職員育成・地域貢献)

法人内で、障害分野の事業所間、又障害・高齢分野での連携強化につながる勉強会等の機会を持っていく。

精神障害専門性をもった職員の育成・確保に努めたい。
地域生活支援拠点等において法人内事業所と検討・連携をしていきたい。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 特定相談支援事業実績件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計画	28	26	34	21	25	25	17	16	21	28	26	22	290
モニタリング	64	76	75	67	74	74	66	76	78	64	71	79	871
計	92	102	109	88	99	99	83	92	99	92	97	101	1153

機能強化型サービス利用支援費（I）取得

行動障害・要医療児者支援・精神障害者支援研修を修了した相談支援専門員を配置し加算取得

2 職員配置予定

	施設長 (相談支援専門員)	相談支援専門員 (計画専任)	相談支援専門員(兼務)	事務員	合計
実人数	1	4	3	1	9
常勤換算	委 0.85 計画 0.15	4.0	委託 2.4 計画 0.6	0.3	8.3

専門職：社会福祉士 6名 精神保健福祉士 2名

3 残業と、有休休暇取得に関する計画

残業：効率的に業務を行う事で、月平均1人9時間以内を目指す。(現在平均10時間強)

有給休暇取得：指定有給5日は必ず取得をする。感情労働であるため、人間性を深める学びや心のリフレッシュ強化の為に計画的に1人5日以内の連続有休休暇を希望があれば実現させる。(コロナ感染症の状況による)

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎週水曜	センター定例会	全員	
随時	法人内会議	担当	施設管理者会(田村)苦情解決委員会(田村)ヒヤリ事故委員会(田平)防災委員会(田村)労務委員会(大石)
毎月	牧之原市協議会関係	田村・鈴木 伊藤(石神)	地域実状に応じた体制整備について協議協議会・各部会の企画運営
毎月	島田市協議会関係	田村・北川 (大石)	地域実状に応じた体制整備について協議協議会・各部会の企画運営
毎月	吉田町相談支援部会	田平・太田	相談支援部会に参加。地域課題等を提起。

C 利用者の喜びのために工夫したいこと(日課・行事・その他)

法人内サービス管理責任者と協働し、地域啓発交流会を企画運営。(コロナ感染症状況による)
法人内事業所と本人中心支援・意思決定支援理解の為に事例検討会企画・運営。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
毎朝	理念の継承	全員	朝礼でやまばと50年記念誌の読み合わせ
4月2月	実践計画書説明・評価	主任 全員	今年度計画書に基づく事業運営状況の説明・進捗状況の確認及び評価
12月頃 随時	自己評価・施設長面談	全員	

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

日々声掛けで新しい意見が通る風通しの良い雰囲気や環境づくりを行う。
お互いストレングス視点で学び合いねぎらう時や交流会等を年2回程度行う。
高齢部門の相談系事業所(オリーブ・シャローム)との交流を持つ。

3 研修計画

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修		S V研修	8		事業所事例検討	3~8
法人研修	4月	新年度研修	8		施設長・主任研修	2
施設外研修	8月	相談従事者(初任)	1	10月	相談従事者(現任)	2
		虐待防止(相談窓口)	1		県精神障害	1
		県重症児者医ケア児等C o	1		県強度行動障害	1

E 地域に対する公益的取組や地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者
	地域啓発交流会企画・運営(実現できるかは、コロナ感染症状況による)	全員 事業所サービス管理責任者

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

法人の強みを活かした、法人内事業所サービス管理責任者と連携し、知的障害者ピア活動等の地域支援として交流会開催を検討。

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

2021年度苦情案件はなかったが、支援センターに関わる苦情や事故については、法人指針に則り、各機関と連携をとり誠実かつ迅速に対応する。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

センター内でのヒヤリ苦情事故等の検証体制は継続し、再発防止策に努める。

公用車の事故が4件あった為、交通ルールを厳守し、車の運転に注意をする。

虐待・身体拘束等防止対策について、権利擁護の視点を常に持ち、センター内での振り返り、法人内外へ働きかけていく意識を持っていく。

相談支援専門員として早期解決に繋がるように視点を持っていく。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

在宅支援時の指針となるよう、生活支援センターやまばと防災BCPを一部作成した為、今年度完成させる。災害時備品整備。本部・希望寮と連動した防災訓練計画を検討。

手洗い・手指消毒・うがい・マスク着用など感染症対策をし、自己予防に努める。

県・市町・法人・支援センター感染症対策に沿って、在宅支援に取り組む。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

特になし。

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

人材育成や人事異動による担当引継ぎに時間がかかり、収支に重点を置いた運営が難しい状況であるが、265万円のマイナス収支を100万円台に抑えるよう、人材育成・定着をしたうえでモニタリングをやりきり、新規計画相談受け入れをしたい。加算に繋がる事業展開を法人と検討していく。

2 借入金償還計画

特になし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

常に委託相談支援事業・計画相談支援事業共、市町と連携して行う。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

社会福祉士実習生について、法人内事業所（希望寮・垂穂等）と連携し可能な範囲で受入れる。

社会福祉士実習指導者研修履修者2名

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

業務効率化に向け、取り入れられるICT化について情報収集をしていく。

事業所携帯電話を順次スマートフォンへ変更していく。

2022（令和4）年度事業計画

介護老人福祉施設
短期入所生活介護
介護予防短期入居生活介護
特別養護老人ホーム 聖ルカホーム
聖ルカショートステイ

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画をたて事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

1 事業所の目標と事業計画

(1) 目標

ご利用者、ご家族、職員に笑顔の花を咲かせたい

(2) 事業計画

一人ひとりに寄り添える介護を実践するため、ご利用者の身体的心理的状态を把握したうえで、ご本人やご家族の思いを受け止め専門職として最善の生活の援助ができるようにしたい。その実現のために、職員個々のレベルアップと施設全体でのチームワークを強めていきたい。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画

ご利用者、ご家族、地域の方々、職員など私たちが関わるすべての人は、かけがえのない存在であることを忘れず接していきたい。聖書の学びなどを通して、法人理念に近づける職員育成をしていきたい。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

- (1) 職員一人ひとりにあった研修計画を作成し必要な研修を受講できるようにする。受講後の振り返りなどを大切に、確実にスキルアップできる体制を整えたい。
- (2) 地域の方々との関係性を深め、災害時の協力体制の構築や介護に関する相談などを受けられる職員体制を整えていきたい。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

事業名	定員	2022年度目標稼働率 (延べ目標利用者数)	2021年度稼働率見込み (延べ利用者数見込み)
聖ルカホーム	70名	98.5% (25,166人)	97.8% (24,987人)
聖ルカショートステイ	10名	78.9% (2,878人)	73% (2,664人)

2 区分による利用者予想

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均
人数	0	1	28	22	19	70	3.84

3 職員配置予定

	施設長	相談員 ケアマネジャー	介護員	看護師	管理栄養士
実人数	1	4	54	6	1
常勤換算	0.75	3.5	47	4.5	1

	事務員	介護補助員	清掃員	宿直員	医師
実人数	6	3	2	3	1
常勤換算	3.5	1.5	0.4	1	0.1

4 残業と、有休休暇取得に関する計画

時間外については、36協定を順守し、業務の見直しなどを行うことで削減できるよう努めます。有給休暇については、取得義務日数分を計画的に取得できるよう適正に管理するとともに、積極的に取得し得るよう推進します。

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月	経営会議	施設長・副施設長・主任・事務長	施設運営全般、職員教育、全体行事、課題解決等
2ヶ月毎	ケア向上委員会	経営会議メンバー・エグゼクティブ・相談員・栄養士	経営会議の決定事項の周知、ユニットの課題や現状報告・業務改善すべき事項・ユニットケアの推進・看取りケアについて等
年2回	事故防止検討委員会	各部署代表者	事故・ヒヤリの検討
年2回	虐待防止対策委員会	各部署代表者	虐待防止に関する事
3ヶ月毎 (年4回)	身体的拘束 適正化委員会	各部署代表者	身体拘束に関する事
3ヶ月毎 (年4回)	感染症等対策委員会	各部署代表者	感染症、喀痰吸引、口腔ケアに関する事
2ヶ月毎	職員会議	全職員	情報共有・研修等
毎月	衛生委員会	産業医・衛生管理者・施設長・他	職員の安全衛生、健康管理、ストレスチェック等
毎月	ユニット会議	各ユニット職員・他職種代表者	ご利用者の処遇検討、業務改善、研修等
毎月	メンテナンス会議	各部署代表者	施設設備、備品、介護用品の整備
毎月	防災対策会議	各部署代表者	防災訓練等の計画・実施
3ヶ月毎	優先入所検討会	外部有識者・施設長・その他職員	入所申込者(待機者)の入居順位を検討し決定する
毎月	ケース検討会	嘱託医・その他関係職員	処遇困難なケースについて多職種で検討する

C 利用者の喜びのために工夫したいこと(日課・行事・その他)

- 1 ご利用者との職員が、個別に関わる時間を持つていく。
- 2 感染対策をしつつ、ご家族と過ごす時間が持てるような工夫をする。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
各会議	理念の継承	全 員	サービス提供指針の読み合わせ
各会議	職場の倫理	全 員	服務心得の読み合わせ
毎月	目標管理シート	全 員	施設目標、部署目標、個人目標の達成度を毎月振り返り次に繋げる

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

「働きやすく、働きがいのある職場」となるよう会議などを活用し、職員間の意見交換の場を設ける。思いを言葉にすることで、悩みの共有や問題解決のための協力があるとよい。また、聖ルカホームの課題を多職種で深く掘り下げまとめていくことで、チームワークを築いていきたい。

3 研修計画

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	未定	身体拘束適正化	全員	未定	看取りケア	全員
	未定	虐待防止	全員	未定	事故防止	全員
	未定	感染症対策	全員	未定	非常災害時の対応	全員
	未定	認知症	全員	未定	褥瘡予防	全員
	未定	法令順守	全員	未定	ハラスメントの禁止	全員
	未定	プライバシー保護	全員	未定	喀痰吸引	全員
	※ その他、オンライン研修を受講予定					
法人研修	4/1	新人研修	2	4/2	新年度研修	3
	10/1	新人研修	未定			
施設外研修	未定	エッティリーダー研修	2	未定	喀痰吸引研修	2
	未定	介護福祉士実習指導者講習	2	未定	認知症介護基礎研修	4
	未定	褥瘡予防	2	未定	ターミナルケア	2
	未定	認知症	2	未定	身体拘束廃止	2
	未定	排泄ケア	2	未定	コンプライアンス	2
	未定	薬の知識	2	未定	リスクマネジメント	2
	未定	経理財務研修	5	未定	労務研修	2

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
毎 月	サロン送迎	職員 2名
不定期	わいカフェ	職員 2名
年数回	防災について町内会との連携	職員 4名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
毎 月	聖ルカだよりの発行	
年 1 回	ご家族アンケートの実施	
適 宜	ご家族との面談開催	施設長・副施設長・相談員

G 苦情について対策

ご利用者、ご家族からの苦情や要望については真摯に受け止め、迅速に対応していく。また、日ごろからコミュニケーションをとり相談しやすい関係づくりに努める。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- 1 事故・・・対策を講じる事により防げる事故を減らすよう、発生時の対策会議を有意義なものとする。
- 2 ヒヤリハット・・・大きな事故につながらないために、小さな気付きを大切にする。
- 3 虐待・・・不適切なケアを含め発生しないように研修等で啓発していくとともに、職員のストレスが過剰にならないようメンタルケアを行っていく。
- 4 身体拘束・・・『身体拘束ゼロ宣言』をしている施設として、安易に身体拘束をしないようにするとともに、生命を守るための緊急時やむを得ない場合の拘束が適切に判断できるよう職員教育をしていく。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

災害時に実践的に活用できるBCP作成が遅れているため着手したい。また、毎月の防災訓練もマンネリ化を防ぎ実践に役立つ訓練を実施したい。

J 環境整備に関する計画

現時点での計画はありません。

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

(1) 聖ルカホーム

収入に関しては、前年度退去者及び入院者が多く稼働率が下がったことと、入居までの時間を要し（待機者の減少やコロナ禍でも安全に入居をしていただく等）収入に影響してしまった。ご利用者の健康管理と待機者確保が課題です。また、介護報酬加算をとれるよう要件に合った体制づくりを考えていきたい。

支出については、やはりコロナ感染症の影響で予防のための支出が多かった。必要人数の職員確保が出来なかったため支出が抑えられたが、2022年度は職員確保と育成に経費をかけていきたい。

(2) 聖ルカショートステイ

収入に関しては、2月にコロナ感染者が発生し13日間のサービス停止となり収入減となった。新規ご利用者の獲得とスケジュール調整が課題である。

支出については、長期入所との稼働率按分となるため同様である。

2 借入金償還計画

(2022.4.1現在)

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2014/10/7	0.57545	10年	静岡銀行	95,000,000	21,266,700	73,733,300
2014/10/7	0.695	30年	島田掛川信用金庫	427,500,000	88,472,355	339,027,645

L 主務官庁との関連

現時点ではありません。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

1 実習生

大学や専門学校、高校からの依頼があります。学校での学習を実践の場で発揮していただけるよう、また、実習で多くの事を学んでいけるよう指導していきます。指導する職員の学びにもなるため積極的に受け入れをしていきたい。

2 ボランティア

コロナ感染の影響で、ボランティアの受け入れをすることができていません。感染対策をし、ボランティアの受け入れが出来るよう考えていきたい。

N その他

(1) インドネシアからのEPA生を2021年6月から受入れています。介護福祉士の国家資格を取得することを目標に仕事と学習を頑張っています。また、2022年12月には二人目のEPA生を受入れ予定です。介護職の魅力を伝え、資格取得後も法人内で働き続けられるよう施設全体でバックアップしていきます。

(2) 聖ルカホーム隣地に、デイサービスセンター真菜とケアセンター花ももが移転してきます。行事の実施や防災関係など、互いに協力し合い運営していきたい。

2022（令和4）年度 事業計画

特別養護老人ホーム グレイス

A 2022 年度の目標と主要な計画

1 事業所の目標と事業計画

利用者一人ひとりの異なる生き方と価値観を受け止め、利用者が心豊かにその能力に応じて自立し、尊厳を持って暮らしていただけるよう支援します。

- ・コロナ禍で疎遠となったご家族との面会が、ITの使用に加え、直接的にも可能となるよう感染対策に配慮した環境を整える。
- ・事業所の目標を明確に伝え、職員一人ひとりがそれに向き合い、協力しあう風土作りと次を担うリーダーの育成。
- ・感染対策の取り組みを継続し、クラスターが生じないように利用者・家族・スタッフへの感染防止に努める。感染者が発生した際、施設内療養となる場合を想定して対応のシミュレーションを定期的実施する。
- ・恵の丘の事業所として、居宅介護支援事業所シャローム・デイサービスセンターすずらんと協力し合い、高め合って事業を進めていきます。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画

- ・50周年記念誌「それでも一緒に歩いていく」を読み合わせ、理念の浸透を図る。
- ・入所時の情報に加え介護職員等による丁寧なアセスメントと担当者会議を継続し、利用者一人一人の個性を見極めて丁寧に寄り添う。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

- ・新人介護職員は計画的に研修を行い育成する。ベテラン職員への資格取得の推奨。
- ・生活困窮者への食糧支援、地域サロンへの出張レク等で地域とのつながりを深める。
- ・運営推進会議等に出された地域貢献の要望は前向きに検討し実施に向けて取り組む。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年の登録者数	昨年の利用者数	目標とする利用者数	開所日数見込み	一日平均見込み	利用率見込み
29	29	10405	10585	365	29	98%

区分による利用者予想

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
1	1	11	9	7

2 職員配置予定

	施設長	相談員 (ケアマネ)	看護師	介護員	事務員	清掃員	合計
実人数	1	1	3	22	2	1	31
常勤換算	0.7	1.0	2.6	18.19	1.35	0.15	23.99

3 残業と、有休休暇取得に関する計画

- ・事務部門は土日をノー残業デーとする。介護部門は業務の見直し、介護業務以外を補う補助職員の導入や無線ランの設置で残業を減らす。
- ・リフレッシュ休暇の取得についてアンケートを取り、計画的な有休休暇取得を勧める。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
年2回	法)防災委員会	栗原	事業所BCPの検討、本部BCPの理解と連携等
年2回	法)苦情解決委員会	増田さ	集計報告、事故の原因究明と再発防止対策、評価

年2回	法)事故防止委員会	山脇	事故・ヒヤリ報告、再発防止策の検討
年2回	法)虐待防止委員会	山脇	事例報告・対策・虐待の芽を摘むためにGW
月1回	恵の丘職員会議	全員	各事業所・部門の報告、業務改善提案、研修等
年6回	感染対策委員会	6~7名	感染・褥瘡予防・吸引等の情報共有・検討
年6回	安全対策委員会(リスク・虐待・身体拘束)	6~7名	事故・ヒヤリの報告・確認・対策の評価。不適切ケア、身体拘束、虐待の確認、研修計画
年6回	運営推進会議	11名	施設の運営について報告、委員からの意見提案
月1回	経営運営会議	7名	恵の丘の施設全体の運営について検討
月1回	リーダー会議	4名	各ユニットの報告・ケアの検討、リーダーの育成

C 利用者の喜びのために工夫したいこと(日課・行事・その他)

- ・2021年度に引き続き、利用者と一緒に話をする時間を持って、利用者の「やりたいこと」を出来る限り実現する。
- ・近隣の感染状況を見ながら、出来る限り地域のボランティア等が参加する行事を開催する。
- ・施設の中にあっても在宅の頃のような季節感を味わえるようなイベントを計画する。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
月1回	理念の継承	全員	50周年記念誌を読み合わせ、意見を述べ合う
10/20	実践計画書評価	主任等	進捗状況の確認及び評価

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- ・ユニット会議、職員会議で嬉しかったこと感謝したこと等の報告を習慣づける。
- ・リペアBOX設置で職員の意見(思ったこと・感じたこと)・悩み・気づき・希望する働き方などを柔軟に受け止め、面談や必要な対策を講じる。

- 3 研修計画

種別	日付	内容	人数
施設内研修	毎月	認知症、虐待、身体拘束、介護技術、感染症、リスク	全員
リーダー研修	毎月	チーム作り、聞き上手なリーダー、新人育成等	全員
新人研修	随時	介護の基礎、身体拘束、虐待等	新人職員
法人研修	随時	新年度研修・全体研修・SV研修	1名
施設外研修	随時	認知症介護基礎研修、静岡県社協各研修等	全職員
	年1回	実習指導者研修	1~2名

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者
年2回	坂部ふれあいサロン遊ビリテーション	職員2名
年1回	生活困窮者への食糧支援	山脇(法人全体へ呼びかけ)
年1回	施設での餅つき大会	職員10名、利用者全員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内容	参加者
毎月	グレイスだよりの発行	全家族へ
年1回	ユニット単位家族会、ご家族向けアンケート	全家族、全職員
年6回	運営推進会議	職員、家族、地域、行政より

G 苦情について対策(前年度を振り返って考えること)

- ・苦情は、その内容を傾聴し速やかに発生の要因を分析・検討し全職員に対策を周知する。
- ・家族への説明・対応は適時に丁寧に行い、家族アンケート等の結果に対しては真摯に向き合って、施設の取り組みを明確にお知らせする。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- ・事故、ヒヤリについての考え方の統一、事故対策評価の徹底、研修の実施
- ・不適切ケアには速やかに対処し、虐待の芽を早期に摘み取る。
- ・身体拘束について研修を深め、取り組みの見直し、考え方の統一を図る。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- ・本体施設との連携について確認し、互いの施設への避難訓練を行う。
- ・BCPの見直しと不足備蓄品の確保

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

- ・特になし

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
 - ・地域密着特養では利用率の変動が著しく経営に影響するため、退居や入院による空床を短期間に抑えるように努める。利用者の健康管理を徹底し早期発見・治療で対応する。
 - ・リース介護用品の見直し、機材の丁寧な取り扱い、電力の無駄遣いをなくす等の徹底。
- 2 借入金償還計画
 - ・特になし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

- ・牧之原市の実地指導（期日未定）
- ・事業者の指定更新申請の手続きを7月中に実施する

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- ・感染対策を講じながら、ボランティアの受け入れを再開する。
- ・実習指導者の育成を行い、専門学校等からの実習生を受け入れやすくする。

N その他

- ・事故報告書等の対策への評価は適時に実施する。
- ・グレイスショートステイ（定員8名）は2022年8月に指定更新の時期となりますが、2010年8月～2017年11月までの営業以降は法人全体の人手不足により休止状態が続いている。人手不足の問題は現在も続いている為、現在、廃止について検討しています。

2022（令和4）年度 事業計画書

養護老人ホーム
相寿園

私たちは、牧ノ原やまぼと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標と事業計画
利用者一人ひとりの思いに寄り添い、大切な人として重んじて常に利用者の立場に立ったサービスの提供を行う。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 利用者自身の思いが反映された生活を送ることができるように、意思決定支援に努める。
 - (2) 個別支援計画（ケアプラン）は、利用者及び家族の意向を尊重した上で策定し、同時に必要に応じて適宜見直すようにする。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画（人材確保・職員育成・地域貢献）
 - (1) 職員が希望を持ち、仲間とともに喜びが分かち合える職場を目指し、支援会議や職員会議等の様々な場で率直かつ真摯な話し合いができるように努める。
 - (2) 日々の職務を通して、利用者との信頼関係を築き、また関係機関との信頼関係を築くことが地域貢献に繋がっていることを自覚し、目の前の仕事に誠実に取り組むように努める。

B 利用者と職員の状況

1 目標とする利用者

措置入所定員	3月措置者数	契約入所定員	3月契約者数	年延利用者数	月平均	利用率 見込み (%)
52	32	5	5	430	32	70
区分なし	要支援	要介護1~2	要介護3~5	知的障害	身体障害	精神障害
12	4	3	3	5	5	10

2 職員配置予定（ ）は兼務

	施設長	副施設長	主任	支援員	生活相談員	看護師	合計
実人数	1	1	(1)	7	2	1	12
常勤換算	1	1	(1)	4.83	1.76	1	9.59
	栄養士	事務員	夜勤専門員	夜勤補助員	その他		合計
実人数	1	2	4	5			12
常勤換算	1	1.45	2.22	2.52			7.19

3 残業と、有休休暇取得に関する計画

- (1) 毎週水曜日を「ノー残業デー」として徹底を図る。
- (2) 「リフレッシュ休暇」として、希望があれば、有給休暇の範囲内で一人4日以上連続休暇が取得できる環境づくりを行う。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月1回	職員会議	全員	高齢者部会・管理者会の報告、理念の学習、ケース検討等
毎月1回	ケアプラン会議	全員	個別支援計画作成、見直し等
毎月1回	支援会議	全員	行事計画策定、各部署からの報告及び検討事項の協議等
毎月1回	給食献立会議	栄養士、支援員、相談員、委託業者	食事に関すること全般について協議
年4回	身体拘束廃止委員会	施設長、主任他	虐待対応委員会と同時開催

C 利用者の喜びのために工夫したいこと

- (1) 花見、節分、夏祭り、紅葉狩り、クリスマス等々季節に応じた行事を開催する。
- (2) 施設周辺の環境整備、畑での野菜作りや収穫、花壇の整備、花木の植栽等様々な作業を利用者と職員が一緒に行う。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
毎月1回	理念の継承	全員	やまばと50周年記念誌の読み合わせ（職員会議）
毎月1回	キリスト教精神に触れる	全員	キリスト教入門関係の冊子の読み合わせ（支援会議）

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 例年通り、施設長はじめ相談員、事務員、栄養士等の事務所職員が可能な範囲で支援の仕事に入るように努める。そのことが利用者理解、現場の理解につながり、チームワークの形成につながる。
- (2) 利用者との関係（対応）で嬉しかったこと、楽しかったこと、また反対に辛かったことや苦しかったこと等々（感情面）を職員が朝のミーティングや職員会議、支援会議等で披露し、他の職員が共有できるように努める。

3 研修計画

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	6月	感染症研修 I	10	12月	感染症研修 II	10
法人研修	4月	新年度研修	5		SV研修	2
施設外研修	6月	日本キリスト教社会事業同盟研修	2	7月	コロナウイルス感染症対策（県老施協）	2
	10月	認知症介護基礎研修（県社協）	2	11月	中堅職員研修（全国老施協）	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者
10月	地域の小学校資源回収協力	2
12月	地域防災訓練の集合場所の提供	2

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内容	参加者
毎月1回	「相寿園たより」を発行し家族、関係機関に送付	—
7月	「夏祭り」に家族を招待	15

G 苦情について対策

2021年度、苦情として具体的に上がってくる案件はなかった。しかし、注意深く観察すれば利用者の抱える不安や不平は大小を問わず常に散見される。職員は、それらを敏感に受け取り、適切な対応を講じるように努める。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- (1) 事故件数：23件（2020.10～2021.9） 事故のうち、2021年度は4件の誤投薬の事故が起きた。県の指導監査でも指摘を受けたため、投薬マニュアルを改定し、チェック体制を確認してきた。2022年度は、誤投薬の事故0件を目指したい。
- (2) ヒヤリハット件数：76件（2020.10～2021.9） 利用者のADLの低下による転倒が多いと考えられる。ADLに合わせた杖、歩行器、車いす等の使用を検討する。また、利用者が病院から退院後に歩行が非常に不安定になることがしばしばあったため、歩行練習に欠かせない平行棒を空きスペース設置した。必要な利用者や職員と一緒に考えながら有効活用をしたい。
- (3) 身体拘束件数：1件（2021年度） 利用者がベッドから離れ、転倒する事故が続いたため、センサーマット及びモニターカメラの設置を家族の同意を得て行った。定期的（年4回）に開催する身体拘束廃止委員会（虐待防止委員会を同時開催）において身体拘束や施設内虐待の事例を学びまた自己チェック表等を用いて支援に活かしたい。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- (1) 安否コールの返答率が法人内でのワースト記録を続けている。今一度理由を確かめ返答率を上げるよう努める。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

- (1) 利用者の居室の個室化（当面2部屋のみ）・・・市の予算で施工予定

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

どんな面を維持したいか、改善したいか、何に焦点を向けるかなど。

- (1) 自主ショートステイはこれまで通り、要望があれば検討の上、受入れていく。
(2) 市からの依頼によるショートステイは、積極的に受け入れるようにする。
(3) 困難なケースを職員がチームとして最大限の努力で切り抜けてきている。その実績が少しずつ積み重なってきていると思われる。関係機関の信頼を得ることでは利用者の増加につながるのではないかと期待している。

2 借入金償還計画 なし

L 主務官庁との関連

現時点では特に変化なし

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- (1) 実習生は全くなし
(2) 2年前までは、花壇の整備、夏祭りの介護ボランティア、出張商店街などにボランティアの参加があったが、コロナ禍の中でほとんどが中止になっている。今後も感染状況を見ながらの対応にならざるを得ない。

N その他

- (1) 県の指導監査が実施（2021年10月12日）

【助言指導事項】（11月29日）

「誤投薬の事故が発生しているので投薬マニュアルやチェックリスト等の見直しを行い、再発防止に努めること。」

【改善措置の具体的内容（回答）】（12月1日）

「薬の管理・投薬及び包薬・配薬についてのマニュアル」を新たに作成し、職員全員に周知徹底を図った。

2022（令和4）年度事業計画

養護老人ホーム
島田市立養護老人ホームぎんもくせい

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2022年度目標と主要な計画

- 1 事業所の目標と事業計画
 - (1) 目標は、「利用者の立場に立ち、根拠のある処遇の提供を行う」。(1年目。複数年予定。) 何らか処遇検討や問題解決の際に、まず利用者のことを知る(生立ちやアセスメント)、次に解決のための試みや状況設定など試行錯誤し、そしてデータや根拠を以て対応修正する、これを正規職員が管理できるようにしていきたい。
 - (2) 現場三者(支援、医務、相談主要メンバー)会議の開催と、利用者の立場に立った処遇会議の開催を行う。
- 2 「理念に基づいたサービス提供」との関連
 - (1) 利用者の話に耳を傾ける「聴く」支援を、心掛けるように努める。業務に追われ忙しい中でも、「聴く」態度を失わない姿勢を持つように心掛ける。
- 3 「法人の当年度重点計画」との関連(人材育成・職員育成・地域貢献)
 - (1) 職員同士、職員と利用者間で信頼関係が築け、働きの中に喜びのある職場を目指す。
 - (2) 地域の生活困難や住居確保困難な方に、開かれたより多くの市民に利用いただける施設を目指す。

B 利用者と職員の状況(見込み)

- 1 目標とする利用者(3月数は、前年度数) ※3障害については、手帳の有無を根拠とする。区分には重複があり得る。3月の数は3月月初の数。

措置入所定員	3月措置者数	契約入所定員	3月契約者数	年延利用者数	月平均見込	利用率
52	37	10	0	480	40	80%見込
区分なし	要支援	要介護1~2	要介護3~5	知的障害	身体障害	精神障害
20	4	11	1	5	7	3

- 2 職員配置予定 ※4月配置予定。()は兼務。看護師補助は、支援員に含めた。

	施設長	副施設長	主任	支援員	生活相談員	看護師	合計
実人数	1	(1)	2	13	1 (1)	1	18 (2)
常勤換算	1.0	(1.0)	2.0	7.9	1.0	1.0	12.9 (1)
	栄養士	事務員	宿直員	その他			
実人数	1	1 (1)	3	1			6 (1)
常勤換算	1.0	1.0	3.0	0.2			5.2

- 3 残業と、有休休暇取得について

総残業時間	50時間以下	最高残業時間	20時間以下	有給休暇取得率	55%
-------	--------	--------	--------	---------	-----

を目標とする。2020年度取得率48%実績。

- 4 職員会議、委員会、外部委員会の予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月末	職員会議	日勤全員	行事計画、ヒヤリ/事故報告・利用者ケース検討等
毎月中	主任会議	主任と長	職員会前の懸案すり合わせ、連絡事項伝達
定期	部署会議	各部と長	支援員とは毎月、その他は3か月に1回
年2回	虐待防止委員会	2主任と長	身体拘束適正化委員会と同時開催

C 利用者の喜びのために工夫したいこと

季節に応じた行事や外出、クラブ活動や利用者参加の小さな行事の充実を図りたい。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
毎月1回	理念の確認、継承	全員	職員会時、理念、行動指針、私たちの願いを唱和する。

- (1) 未経験者育成のためのルールの作成をする。スムーズな受け入れと、定着を図る。(未経験者育成プログラム)
- (2) 養護老人ホームの使命の理解を図る。仕事の原点に返って、考え、働く機会を作る。(内部研修)
- (3) 誰もが安心して働ける職場づくりをする。失敗を許し合え、助け合え、相互に信頼し合える声掛け、面接を行う。(主任以上による)

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して

職員同士が、利用者の良い面、優しい面や職員間で感じた良いケア、良い配慮を表出し、共有する機会をもつ。(朝礼、職員会、支援会議にて)

3 研修

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	23月	虐待・身体拘束	5~7	隔月	感染症研修	5~7
	各月	介助技法、障害特性	5~7	春秋	使命と役割研修	5~7
法人研修	4/2	新年度研修	5~7			
施設外研修	各月	中公養護研修	1~3			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流

自主事業としての契約入所事業の対象者を拡充し、利用料の減免を検討する。

F 家族との連携、交流、連絡など

日付	内容	参加者
毎月初	ぎんもくせい通信の発行、送付、掲示依頼	行政、大津小、保証人等へ送付
10/15	保証人会	職員5名、保護者15名

G 苦情について対策

- (1) 昨年10月11日と市議員経由で利用者から市・施設に対し苦情があった。(他合計3件) 新型コロナ感染症下において、高いストレスと不満を持っていることがうかがわれた。感染に気を付けつつも、小さく外出するドライブなど実施して行きたい。また、外出できない不満を、今以上に「聴く」姿勢を職員に持って欲しいと願っている。
- (2) 館内に2カ所の、投書箱(苦情箱1Fとご意見箱2F)を用意し、毎月末月初に施設長が確認する。苦情に対しては、3日以内に反応し、2週間以内の解決を目指したい。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- (1) 昨年度事故件数は、4月~2月で44件。そのほとんどは転倒である。転倒予防教室、毎朝実施の体操への参加率向上策を考えたい。
- (2) 当月の事故について状況を共有すると共に、3ヶ月前に起きた事故の評価を定期的に行い、対応の効果の測定と対応の修正を検討する。
- (3) 昨年度虐待申告は、1件。臨時委員会を開き、その認定について協議したが虐待と認定しなかった。行政、法人に報告したが、その後職員の多くにその件について、感想を求めた。職員側のストレスと、利用者側のストレスについて、それぞれへの対処の必要を感じた。利用者には、何等かの外出の機会が必要と思われた。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- (1) 福祉避難所として使用する場合を想定しての研修を、机上で行う。
- (2) 新型コロナに関連した、クラスター等の発生時のマニュアルの整備や研修等の実施。

J 環境整備に関する計画

ナースコールシステム更新前年度未実施分(900万円)及び事務所系統エアコンの更新(980万円)について実施の予定である。(どちらも島田市による)

K 収支、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
新型コロナ感染症の影響で利用者減少が甚だしいが、同時に職員確保が難しく、それが相まって費用が増えている。特に夜勤専門員の確保難で、止む無く正規支援員を増員する。収入を増やすために、自主事業を拡大し、同時に夜勤専門員を内製出来るように教育を厚くしていきたい。
- 2 借入金償還計画
なし

L. 主務官庁との関連

今年度、指導監査の予定。

M. 実習生やボランティアに関する見込みや計画

新型コロナ感染症次第ながら、地域の方が気軽にお手伝いのボランティアなどで、交流できるように、町内会等と交流をしていきたい。

N. その他

なし

2022（令和4）年度事業計画

通所介護
介護予防・日常生活支援総合事業
デイサービスセンター真菜

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 当年度の目標と主要な計画

1 事業所の目標と事業計画

- (1) 5月から新しい施設でのスタートとなるため、利用者が安心・安全に過ごせる環境を整え、住み慣れた地域で、可能な限り自立した日常生活が送れるよう支援する。
- (2) LIFEに関連する加算の取得と、LIFEを活用してPDCAサイクルを回し、ケアの質を向上させ、利用者一人ひとりに最大限の効果が出せるように支援する。
- (3) 職員同士の意見交換や、情報共有、協力し合える職場環境を整える。

2 「理念に基づくサービス提供」に牽連した計画

- (1) 一人ひとりをかけがえのない大切な人として重んじ、常に利用者の立場に立ち、一人ひとりの思いに寄り添った支援をする。
- (2) 利用者の思いにしっかりと耳を傾け、気づきを増やし、「やりたい」を「実現」する取り組みを通して、社会参加に繋げていく。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

- (1) 職員一人ひとりが専門性を高め、スキルアップできるよう積極的に研修に参加する。
- (2) 地域の方々や関係機関と連携を深める。昨年に引き続き、生活困窮者のための食糧支援を定期的に行っていく。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年の登録者数	昨年の利用者数	目標とする利用者数	開所日数見込み	一日平均見込み	利用率見込み
35	66	8150	8200	309	26.5	75.7%

※

区分による利用者予想

事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4	4	4	24	11	11	5	3

2 職員配置予定

	施設長	生活相談員	介護員	看護師	事務員	その他	合計
実人数	1	1	11	3	1	4	21
常勤換算	1.0	1.2	7.5	1.7	0.5	1.9	13.8

3 残業と、有休休暇取得に関する計画

- (1) 火曜日と土曜日はノー残業日とする。
- (2) 有給休暇は計画的に取得する。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
第3木	職員会議	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討等
第2木	すずらん合同M	施設長・主任	防災・リスク・感染症予防についての検討等
年数回	事業所連絡会	生活相談員	牧之原市介護サービス事業所間の連携

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- (1) 自信と喜びを感じるような活動や、季節の行事などを全職員で協力して毎月担当を決めて計画し、実施する。
- (2) 何気ない会話の中から、利用者の思いに気づき、希望に添えるような支援をする。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- (1) 利用者の行事計画を企画、準備、実行することを通して、職員も達成感を味わい成功体験を積める機会を作る。
- (2) 利用者との関わりの中で、自分の強みが発揮でき、自信をもって支援できる雰囲気づくりをする。

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎朝	理念の継承	全員	朝礼でサービス提供指針を読み合わせる
毎月	理念の継承	全員	それでも一緒に歩いて行くを読む
年3回	事業計画の実践確認	主任・正職	進捗状況の確認及び評価

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 毎月の職員会で職員同士のコミュニケーションが向上できるようミニ研修でグループワークを取り入れ、意見交換がしやすくなるよう工夫する。
- (2) 働く仲間を大切に思い、褒める・認める・感謝するをモットーに、ありがとうカードを用意し感謝の気持ちを伝える。

3 研修計画

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	4月	コミュニケーション	18	11月	感染症研修	18
	8月	虐待防止	18			
法人研修	4/2	新年度研修	1	6月	法律セミナー	1
施設外研修	未定	実務者研修	1	未定	認知症基礎研修	2
	未定	リスクマネジメント	1	6月	防火管理者講習	2

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
年3回	生活困窮者のための食糧支援	職員
11月	地区秋祭り参加	職員、利用者

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
8月	介護者の集い	職員、利用者家族

G 苦情について対策

- (1) 苦情の申し出には、速やかに申し出人の思いを傾聴し、状況を把握し丁寧に対応する。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- (1) 虐待、身体拘束の防止対策については、年2回（8月・2月）に虐待防止委員会を開催し、セルフチェックと話し合いの場を設け、虐待防止に努める。
- (2) 他通所事業所と連携し意見交換や研修を行う。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- (1) 新施設の防災マニュアルやBCPを整備する。
- (2) 近隣施設と連携し、防災訓練を行う。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

- (1) 感染症対策として、施設内・送迎車の清掃を毎日行う。

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）

- (1) 新規利用者の確保。新施設では定員が49名から35名に減るため、現段階では新規の受け入れが難しいが、待機もできる限り受け入れて調整していく。
- (2) LIFE関連の加算を算定できる体制をつくり、少しでも増収となるようにしていく。
- (3) 移転後の支出については比較ができないため、節約に努める。

2 借入金償還計画

契約年月日	利率	期間	借入機関	借入額	償還額	残額
2022/4/1		20年	法人本部	30,000,000	1,500,000	28,500,000

L 主務官庁との関連

- (1) 新施設開所に向けての申請。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- (1) コロナ禍でボランティアの受け入れを中止していたため、状況に応じてボランティアの受け入れを再開する。

N その他

- (1) 牧之原市介護者のつどいの委託を受け、11月と2月に開催する。

2022（令和4）年度 事業計画

デイサービスセンターすずらん

A 2022 年度の目標と主要な計画

1 事業所の目標と事業計画

- ・利用者が望む自宅での暮らしを長く継続していけるよう、利用者の出来る事と笑顔を引き出す支援に努め、家族の頑張りを支えていく。
- ・感染対策の取り組みを継続し、クラスターが生じないように利用者・家族・スタッフへの感染防止に努め、感染者が生じても早期再開できるよう体制を整備する。
- ・恵の丘の事業所として、特別養護老人ホームグレイスと居宅介護支援事業所シャロームと協力し合い、高め合って事業を進めていきます。

2 「理念に基づくサービス提供」に牽連した計画

- ・毎月、50 周年記念誌の内容について意見を述べ合って理念の浸透を図り、利用者・家族との円滑なコミュニケーションにつなげ、信頼される施設を目指す。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

- ・計画的な研修計画を立て、課題の克服と人材育成を行う。
- ・生活困窮者への食糧支援、地域サロンへの出張レク等で地域とのつながりを深める。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年の登録者数	昨年の利用者数	目標とする利用者数	開所日数見込み	一日平均見込み	利用率見込み
12	18	2656	2781	309	9	72%

区分による利用者予想

要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
0	1	11	4	1	1	0

2 職員配置予定

	施設長	認知デイ管理者	相談員	介護員	看護師	事務員	運転手	合計
実人数	1	1	1	5	1	1	1	11
常勤換算	0.25	1.0	1.0	3.7	0.02	0.25	0.15	6.37

3 残業と、有休休暇取得に関する計画

- ・無線ランの設置で業務の効率化を図り正規職員の残業を減らす。毎月 15～20 日をノー残業デーとする。
- ・リフレッシュ休暇の取得についてアンケートを取り、計画的な有休休暇取得を勧める。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
月 1 回	すずらんミーティング	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・ケース検討 等
月 1 回	恵の丘職員会議	1・2 名	各事業所・部門の報告、業務改善提案、研修等
年 2 回	法)防災委員会	小池	事業所 BCP の検討、法人本部 BCP の理解と連携等
年 2 回	法)苦情解決委員会	小池	各施設苦情報告、苦情解決体制・課題の検討
年 2 回	法)事故防止委員会	小池	事故・ヒヤリ報告、再発防止策の検討
年 2 回	法)虐待防止委員会	山脇	取組事例報告、良い点、修正点等GW
年 8 回	DS 感染対策委員会	米山	通所介護事業所の感染対策の情報共有・検討
年 4 回	DS 防災・リスク委員会	米山	通所介護事業所の災害時対策の情報共有・検討
年 4 回	感染対策委員会	米山	感染・褥瘡予防、吸引等の情報共有、対応確認

年3回	安全対策委員会(リスク・虐待・身体拘束)	米山	事故・ヒヤリ報告の確認と対策の評価 不適切ケア・身体拘束・虐待防止の取組みの検討
-----	----------------------	----	---

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- ・食の楽しみの追求：利用者が立案した計画を活かしておやつ作りの機会を増やす。
- ・利用者の「出かけたがたい」気持ちに寄り添い、年間の外出計画を作成実行する。
- ・手足の温める運動・足浴等で浮腫みの軽減・リラックス・睡眠促進を図っていく。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
月1回	理念の継承	全員	会議で50周年記念誌を読み合わせる
10/20	実践計画書評価	主任	進捗状況の確認及び評価

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- ・マンダラートの作成で職員から事業所の良い所や課題を抽出し、全員で課題解決のための計画を立て実践する。

- 3 研修計画

種別	日付	内容	人数
恵の丘内研修	毎月	恵の丘職員研修	1名
すずらん内研修	毎月	認知症、虐待、身体拘束、介護技術、感染症、安全対策、感染症予防等	全員
法人研修	随時	新年度研修・全体研修・SV研修	1名
施設外研修	随時	静岡県社会福協議会各研修等	全員

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者
年2回	坂部ふれあいサロン遊ビリテーション	職員1名
年1回	生活困窮者の食糧支援	全員
年2回	運営推進会議	職員1名、地域代表、家族代表（書面会議の場合は全家族へ資料配布）
随時	良いところ祭・小学校運動会	当日の利用者、職員4名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内容	参加者
月2回	すずらん便りの発行	利用者・家族、各ケアマネへ
年1回	家族会	全利用者対象、主任、相談員

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

- ・送迎時、利用者宅で行う項目リストを携帯し、必ず最終確認をする。利用者・家族に安心してサービスを利用していただける体制を作る。
- ・苦情を受けた際は、内容を傾聴し速やかに発生の要因を分析・対策を検討し、全体の認識を共有する。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- ・施設内の環境整備、安全対策研修会を実施する。施設内目標件数：事故0、ヒヤリ5
- ・虐待：利用者・家族の心身の状態を日頃から把握し変化に気づいたら関係機関に速やかに報告し、対策を検討する。
- ・身体拘束：スピーチロックに対する職員の認識を深める研修・グループワーク実施。

- I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など**
- ・送迎中に発災した場合の避難先の確認、行動確認をシミュレーションする。
 - ・BCPの完成
- J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）**
- ・特になし
- K 収支、並びに、借入金返済計画**
- 1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
 - ・寒さ暑さの影響や感染症、短期入所等での空席はそのままにせず、お試し利用打診・利用を増やしたい方のケアマネに声かけし稼働率の維持向上を図る。
 - 2 借入金償還計画
 - ・特になし
- L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）**
- ・事業者の指定更新申請手続きを7月までに実施する。
- M 実習生やボランティアに関する見込みや計画**
- ・清流館高校の実習生受け入れ
 - ・感染状況を見ながら地域の小学校・中学校生徒との交流
 - ・外出支援・余暇活動におけるボランティアの受け入れ再開
- N その他**
- ・特になし

2022（令和4）年度事業計画

訪問介護事業
介護予防・日常生活支援総合事業
ライフサポートさふらん

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画をたて事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

1 事業所の目標と事業計画

(1) 目標

利用者一人ひとりの身体状況や住環境、生活についての要望などをしっかりと把握し、可能な限り住み慣れた地域で暮らしていけるよう支援していきます。

(2) 事業計画

一人ひとりに寄り添える介護を実践するため、ご利用者の身体的心理的状态を把握したうえで、ご本人やご家族の思いを受け止め専門職として最善の生活の援助ができるようにしたい。その実現のために、職員個々のレベルアップに努めていきたい。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画

ご利用者、ご家族、地域の方々、職員など私たちが関わるすべての人は、かけがえのない存在であることを忘れず接していきたい。聖書の学びなどを通して、法人理念に近づける職員育成をしていきたい。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

- (1) 職員一人ひとりにあった研修計画を作成し必要な研修を受講できるようにする。受講後の振り返りなどを大切に、確実にスキルアップできる体制を整えたい。
- (2) ご利用者の周囲の方々が事業所と連携してくださる事で、介護や支援が必要な方が地域で暮らし続けられることを伝え、地域の支援力を上げていきたい。

B 利用者と職員の状況（見込み）

- 1 目標とする利用者 80名
- 2 区分による利用者予想

介 護			総合事業	
身 体	身体生活	生 活	訪問型	緩 和
4,800 件	1,800 件	480 件	1,200 件	250 件

3 職員配置予定

	施設長	訪問介護員	
		正職	登録ヘルパー
実人数	1	3	11
常勤換算	0.25	3	6

4 残業と、有休休暇取得に関する計画

時間外については、36 協定を順守し、業務の見直しなどを行うことで削減できるよう努めます。有給休暇については、取得義務日数分を計画的に取得できるよう適正に管理するとともに、積極的に取得できるよう推進します。

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種 類	参加者	内 容
毎月 1 回	職員ミーティング	全職員	情報共有（苦情、事故・ヒヤリの検討含む）、ケース検討、研修 等

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

ケア提供中であっても、ご利用者への声掛けや会話を忘れず楽しい時間が提供できるよう心掛ける。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
各会議	理念の継承	全 員	サービス提供指針の読み合わせ
各会議	職場の倫理	全 員	サービス心得の読み合わせ
毎 月	目標管理シート	全 員	施設目標、部署目標、個人目標の達成度を毎月振り返り次に繋げる

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

毎月のミーティングで、職員同士コミュニケーションがとれるような時間をつくる。

- 3 研修計画

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	未定	感染症対策	全員	未定	非常災害時の対応	全員
	未定	認知症	全員	未定	褥瘡予防	全員
	未定	プライバシー保護	全員	未定	事故防止	全員
	※ その他、オンライン研修を受講予定					
法人研修	4/2	新年度研修	1	10/1	新人研修	未定
施設外研修	未定	認知症	1	未定	リスクマネジメント	1
	未定	排泄ケア	1	未定	コンプライアンス	1
	未定	薬の知識	1	未定	身体観察のポイント	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

現時点での計画はありません。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
年4回	さふらんだよりの発行	
年1回	ご家族アンケートの実施	

G 苦情について対策

ご利用者、ご家族からの苦情や要望については真摯に受け止め、迅速に対応していく。日ごろからコミュニケーションをとり相談しやすい関係づくりに努める。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- 1 事故・・・発生時の対策会議を早急にし、対策を講じ防げる事故を減らす。
- 2 ヒヤリハット・・・大きな事故につながらないために、小さな気付きを大切にする。
- 3 虐待・・・不適切なケアを含め発生しないように研修等で啓発を行う。
- 4 身体拘束・・・身体拘束がもたらす心身への影響など職員教育をしていくとともに、ご家族に対する啓発も行う。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

災害時に実践的に活用できるBCP作成が遅れているため着手したい。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

現時点での計画はありません。

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画

介護保険事業の件数が減少し総合事業の件数が増加しているため収入減となっている。ご依頼いただいたサービスには真摯に対応していくが収支バランスも考慮が必要と考えている。また、職員確保をし提供できる件数を増加させたい。

2 借入金償還計画

(2022. 4. 1 現在)

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2014/10/7	0.57545	10年	静岡銀行	5,000,000	1,119,300	3,880,700
2014/10/7	0.695	30年	島田掛川信用金庫	22,500,000	4,656,400	17,843,600

L 主務官庁との関連

現時点ではありません。

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

現時点ではありません。

N その他

特にありません

2022（令和4）年度 事業計画

居宅介護支援事業所シャローム

A 2022 年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標と事業計画
 - ・基本理念を意識して、利用者・職員・地域とともに、その人に喜びを与え、その人を活かす支援と事業運営を行います。
 - 恵の丘の事業所として、併設特養グレイスとデイサービスセンターすずらんと協力し合い、高め合って事業を進めていきます。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - ・毎月の居宅会議で「それでも一緒に歩いていく」を読み合わせ理念の浸透を図ります。
 - ・利用者・家族と円滑なコミュニケーションを図ることに努める。
 - ・地域とのつながりを深めインフォーマルな支援を組み入れたサービス計画を作成する。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - ・介護支援専門員実務研修者にOJT研修を行い、入職後は地域のケアマネ研修への参加を促しながら丁寧なフォローを行って新人を育成する。
 - ・生活困窮者への食糧支援、地域サロンへの出張レク等で地域とのつながりを深める。

B 利用者と職員の状況（見込み）

1 目標とする利用者

定員	昨年の登録者数	昨年の利用者数	目標とする利用者数	開所日数見込み	一日平均見込み	利用率見込み
35	30	361	420	252		88%

区分による利用者予想

総合事業	支援1・2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
1	2	13	10	6	3	3

2 職員配置予定

	施設長	主任介護支援専門員	介護支援専門員（ハ）	事務員	合計
実人数	1	1	1（R4年7月より）	1	4
常勤換算	0.05	1.0	0.3	0.05	1.4

3 残業と、有休休暇取得に関する計画

- ・毎週月曜日をノー残業デーとする。
- ・リフレッシュ有給取得日を設ける。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
月1回	居宅会議	全員	利用者ケース報告・検討、事故ヒヤリ報告等
月1回	主任ケアマネ会議	栗林	ケアマネ育成、資質向上の研修・講師・ファシリ
年2回	法)事故防止委員会	栗林・山脇	集計報告、事故の原因究明と再発防止対策、評価
年2回	法)苦情解決委員会	栗林	各施設の事例報告、対応の修正点等GW、
年2回	法)虐待防止委員会	山脇	事例報告・対策・虐待の芽を摘むためにGW
月1回	恵の丘職員会議	栗林	各事業所・部門の報告、業務改善提案、研修等
月1回	経営運営会議	栗林・山脇	恵の丘の3施設全体の運営について検討
年2回	感染対策委員会	栗林・山脇	感染症の予防・まん延防止のための対策を検討
年2回	虐待防止委員会	栗林・山脇	組織、指針の整備、研修、体制整備、防止策等

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

個々のケースに合わせてサービス利用をマネジメントするだけでなく、ご本人ご家族の真の願いが達成できるように、声掛け・提案・紹介をしていきます。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
月1回	理念の継承	全員	「それでも一緒に歩いていく」を読み合わせる
10/20	実践計画書評価	主任	進捗状況の確認及び評価

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- ・毎月の居宅会議を相談できる場にする
- ・年2回茶話会を開き、肩の力を抜いて業務上の悩みや日頃の楽しみ等の話をする

3 研修計画

種別	日付	内容	人数
施設内研修	毎月	恵の丘職員研修	2名
法人研修	随時	新年度研修・全体研修・SV研修	1名
施設外研修	年2回	ケアマネ連絡会	2名
	未定	主任ケアマネ更新法定研修	1名
	随時	静岡県社協等研修	1名

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内容	参加者
年2回	坂部ふれあいサロンにて遊びりテーション	職員1名
年1回	生活困窮者への食糧支援	全職員
年2回	榛原地区・相良地区での民生委員との交流会	職員2名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内容	参加者
毎月	利用者宅訪問（モニタリング）	職員2名

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

- ・速やかに状況把握し、丁寧に対応します。
- ・常日頃より、報告・連絡・相談をし、個人情報等の適切な情報管理に努めます。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- ・介護者家族への傾聴やねぎらいの対応で、虐待・身体拘束を見逃さない。
- ・心配事は事業所内で速やかに話し合い、サービスの見直しや包括への相談等含め、適切に処理する。
- ・5分前行動で、余裕を持って目的地に向かうことを習慣づけ、事故を防止する。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- ・毎月恵の丘の防災訓練に参加する。
- ・11月居宅としての災害発生を想定した机上訓練を行い、安否確認一覧表を見直す。
- ・利用者の災害用情報シートの更新と新規分を随時作成する。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

- ・特に計画なし

K 収支、並びに、借入金返済計画

1 本年度の収支計画（前年度の収支状況との関連）
・今後、特定事業所加算を取得できる事業所となるように、人材の育成を丁寧に行う。

2 借入金償還計画
・特になし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

・牧之原市の実地指導（期日未定）

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

・法人内介護支援専門員実務研修生の受入れ

N その他

・組織評価等の意見を前年度と比較・検討し、組織体制の改善を図ります。

2022（令和4）年度 事業計画

牧之原市包括支援センター
オリーブ

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

- 1 事業所の目標と事業計画
 - (1) 自立支援、介護予防・重度化防止を推進する介護予防ケアマネジメントを実践する。
 - (2) 地域ケア会議を開催し、関係機関と連携が図れるようにネットワーク構築に努める。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) ひとりひとりが人としての尊厳を保ち、その人らしい自立した生活が送れるよう、「個人を尊重する支援」を目指します。対応に当たっては礼儀を失わないように努めます。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 地域貢献：高齢者と障がい者の分野でケース会議を通して日常生活が回るように連携をとりながら支援をしていく。
 - (2) 職員育成：高齢・障がいの相談分野で職員間の交流を図り相談スキルを上げるようにする。

B 利用者と職員の状況

1 目標とする利用者

利用者(対象者)は牧之原市榛原地区の川崎・細江・坂部小学校区在住の概ね 65 歳以上の高齢者と要支援・総合事業対象者

実態把握	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月	合計
予定数	26	26	27	27	27	27	27	27	27	27	26	26	320

2 職員配置予定

	施設長	社会福祉士	保健師(準ずる者)	主任ケアマネ	ケアマネ	主事	事務員	合計
実人数	1	1	1	1	0	3	1	8
常勤換算	1.0	1.0	1.0	1.0	0	2.62	0.47	7.09

3 残業と、有休休暇取得に関する計画

- (1) 個々の職員に対して時間外勤務短縮に向けた意識付けを行うとともに事務員活用により時間外勤務の削減を行う。
- (2) 有給休暇は5日は必修で30%の取得率を目指す。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月第1火	カンファレンス	全員	行事計画、ヒヤリ事故報告・利用者ケース検討等
毎月第1火	権利擁護検討会	社会福祉士	3包括、後見センター職員で検討会
10日前後	主マネ連絡会	主任ケアマネ	3包括、居宅の主任ケアマネ
第2水曜日 第4水曜日	支援センター連絡会	3包括所長・管理者・市担当者	第2：事務連絡会、 第4：ケース連絡会
毎月第3水	(法)管理者会	法人管理者	(法)理事長、本部、各施設長

C 利用者の喜びのために工夫したいこと

- 1 利用者さんそれぞれの方にあった自立支援のためのプランを作成する。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
第1火	理念の継承	全員	オリーブカンファで理念とサービス提供指針を読み合わせる
月1回	課題整理総括表作成	プランナー	個々のケースで作成し、生活の見通しを立てる

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) "親しき中にも礼儀あり" お互いを認めあい明るく楽しく会話をしていく。
- (2) さざんかで同じ事務所にいるやまばと生活支援センターとケース検討をする。
- (3) メンタルヘルスでストレスチェックを実施する。

- 3 研修計画

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	/	虐待研修	8	/	感染症講座	8
法人研修	4/2	新年度研修	8	/	SV研修	1
施設外研修	/	県マネジメント講座		/	包括新任者研修(国)	
	/	地域ケア会議研修		/	認知症関連研修	

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

- 1 介護予防に関する啓発や地域活動を実践し、地域ニーズにあった事業を実施する。
- 2 オリーブが作成した啓発用のファイルを活用していく。

F 家族との連携、交流、連絡などに関連する計画

- 1 毎月1回機関紙「ええあんばい」の発行にあたり、市内在住の要介護(支援)認定者、65歳以上の高齢者から投稿をつのり作品を掲載することで自立支援促進をはかる。

G 苦情について対策

- 1 受付担当者を配置し、速やかに苦情への対応ができる体制を確保する。
内容及び対応、結果等を記録し、速やかに市・法人に報告する。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

- 1 ヒヤリハットに関する事項は職員間で共有し、苦情を未然に防ぐように努める。
- 2 事故・緊急(発災時、虐待事項)は迅速、適正な処置を行い、処理状況を報告する。
- 3 虐待事案については市と協働して対応する。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

- 1 法人のBCPを確認する。包括のBCPを作成し、市内3包括と市で共有する。
- 2 法人の安否コールによる情報伝達訓練に参加する。
- 3 牧之原市総合防災訓練や法人合同防災訓練に参加する。

J 環境整備に関する計画

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済状況

- 1 本年度の収支計画
ケアマネジメント業務、総合事業、介護予防事業、啓発事業、任意事業、など市からの委託業務を受けて実績を上げていく。

- 2 借入金償還計画
なし

L 主務官庁との関連

- 1 4月に市へ包括の体制の届け出をする

M 実習生やボランティア

- 1 受診時の送り出し支援の為にボランティアさんに依頼する。

N その他

- 1 公益的な機関として健康福祉センターさざんかに事業所がある為、公正中立性の高い事業運営に留意して事業に携わり、運営協議会に報告説明をしていく。

2022（令和4）年度事業計画

介護予防拠点施設 コミュニティセンターぶどうの木

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行います。

A 2022年度の目標と主要な計画

1 事業所の目標と事業計画

- (1) 利用者個別計画の目標を目指し、自信をもって生活できるように支援する。
- (2) 各リスク対策チェックリストを活用し安全確保に努める。
- (3) 老朽化に伴い補修や改修について牧之原市と密に連携し、円滑に事業を継続する。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画

- (1) 利用者、家族、地域の声に耳を傾け人に寄り添いながら共に生きる姿勢を意識する。
- (2) 当番制で「サービス提供指針」の読み合わせや振り返りをおこなう。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

- (1) 職員の育成
 - ① 研修に参加後、内部で報告会をおこない質の向上、専門性を高める。
 - ② 各種必要なマニュアルの見直しを行い、責任を持って業務を遂行する。
- (2) 地域福祉への貢献
 - ① 在宅高齢者の健康維持に関する支援をおこなう。
 - ② ふれあいサロン等へ参加協力する。

B 利用者と職員の状況

1 目標とする利用者（短リハを除く短時間デイ4教室に関してのみ）

定員	昨年の登録者数	昨年の利用者数	目標とする利用者数	開所日数見込み	一日平均見込み	利用率見込み
15	54	42	45	192	10	67%

2 職員配置予定

	施設長	常勤専任	パート	事務員	合計
実人数	1	1	4	3	9
常勤換算	0.4	1.0	2.2	0.4	4.0

3 残業と、有給休暇取得に関する計画

- (1) 取得義務5日のほか業務に差し障りがないよう誰もが取得できるように協力する。

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者	内容
毎月第1火曜日	職員会議及び各委員会の実施（事故・防災・感染症・虐待・研修・地域）	全員	法人や部会、各委員会からの情報共有、報告と検討・行事計画及び反省会 レク検討・食事メニュー決定
隔月第2火曜日	合同カンファレンス	全員	利用者の評価と移行に関して検討
毎月第2火曜日	SC居場所づくり検討	全員	地域の居場所についての情報交換、検討
隔月第1火曜日	編集委員会	曾根	法人やまばと機関紙の企画に協力

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 毎月の誕生者の紹介を月初に計画し、歌、写真、メッセージを伝えお祝いする。
- 2 特別行事として年3回を計画し、職員と利用者が一緒に参加して作り上げる。
- 3 一人ひとり面談の機会を設け、相談、悩みごとに耳を傾け寄り添っていく。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内容
毎朝	理念の継承	全員	サービス提供指針・書籍、聖書を読む・50年詩を活用
8/20	実践計画書評価	主任	進捗状況の確認及び評価

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 職員会等に当番制で個人の嬉しい事や相談事を聞く機会を持つ。

(2) 年2回施設内でランチを注文して一緒に食事をする。

3 研修計画

種別	内 容	人数	内 容	人数
施設外研修	介護予防取り組み	3	転倒予防	1
	レクリエーション	1	感染症予防	3
	口腔機能向上	1	認知症予防	1
法人研修	新年度研修	3	主任等研修	1
施設内研修	研修会の振り返り	3	事故リスクKY研修	3

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
年2回	坂部サロンの事業に協力する（参加）	職員2名
12月	地域の防災訓練に参加	職員1名
要望月	地域へ出かけ介護予防啓発に取り組む	職員1～2名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

- 1 家族にアンケートを実施し、意見を聞く機会とする。その他訪問、面談、電話で連携。
- 2 毎月1回おたよりを発行し、事業内容や状況を知らせる。

G 苦情について対策

- 1 速やかに謝罪・事実確認・対策を伝える。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

2021年度事故2件（転倒・車中に取り残す）、ヒヤリ1件（用紙の取り間違い）発生。

- 1 リスクを予測し、安全を確保し事故0件を目指す。
- 2 チェックシートを活用し、リスクを未然に防ぐよう努める。

I 防災関連：前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

4月から 毎月1回	安否コールシステム通信訓練	職員全員 100%目指す
5月	災害対策チェックシートでチェック 備蓄品チェック 第1回法人防災委員会参加	防災委員会 職員会で報告
9月	第2回法人防災委員会参加 BCP完成・チェック（変更・作成） 災害対策チェックシートでチェック	職員会で報告 防災委員会
10月	法人全体防災訓練実施 防災に関する話し合い・訓練反省 備蓄品の検討、補充チェック	防災訓練計画 防災委員会
12月	地域防災訓練に参加	第1日曜日 職員
3月	第3回法人防災委員会参加	職員会で報告

J 環境整備に関する計画

- 1 冷暖房設備の故障により修理、新規購入を検討中。牧之原市が負担し対応する。

K 収支、並びに、借入金返済計画：特になし

L 主務官庁との関連：特になし

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画：特になし

N その他：特になし